

右西念寺境内古跡地九十一坪、古來不殘家作仕罷在い處、殊外手狭二ゝ、法用差支難儀仕い二付、持添地之内エ一代限家坪二十坪本家エ造繼作事仕度旨、寛保四子年二月大岡越前守相○忠寺社勤役之節添翰ヲ以相願い付、吟味仕奉窺い處、延享元子年三月願之通可申渡旨被仰渡、其通可仕旨申渡置候。然處右西念寺此度隱居仕い付、右家作取拂可申處、法用差支ニ罷成い間、猶又後住太雅一代限、唯今迄之通家作御免被成下い様奉願い旨、酒井飛驒守香○忠添簡ヲ以申出い二付、場所見分仕、遂吟味い處、相障儀無之、相違之儀無御座い。法用差支ニ罷成候旨相願い儀故、後住太雅一代限、右家作指置い様可申渡い哉之段、寶曆十三癸未年四月廿七日奉窺い處、明和元甲申年一月十六日願之通可申渡旨被仰渡い二付、同○明和元年八月廿二日西念寺并後住太雅處之名主呼出、願之通申渡、御帳面張紙仕い。○議右之趣酒井左衛門尉殿エ申上。松平右京太夫殿被仰渡。

拜領除地寺社帳

市街異動若干有り。

○文政町方書屋敷書拔。

市街異動 明和元年中市街ニ異動ヲ見タル者ヲ記ス。

網代町 町屋鋪受領者有り。

網代町略。

表田舍間三間壹尺壹寸五分。裏幅同斷。裏行南二十間、北二十壹間。此坪五拾五坪八合二勺五才。

吹上御奉行河合次郎右衛門支配御大工

他住居

上田權右衛門家守政吉

右此屋敷之儀之、飯島貞助拜領地共貳ヶ所之分、元壹ヶ所ニ有之い處、内田友宜年月不知拜領仕罷在

い處、享保八卯年上ヶ地ニ相成、寶曆十四申年正月申湊嘉右衛門拜領仕、寛政七卯年十一月中上ヶ地ニ相成、上田源兵衛田中金兵衛兩人ニゝ文化二丑年拜領仕い處、右地所之内田中金兵衛儀、文政六未年三月中相對替致、當時飯島貞助拜領主ニ御座い。尤上田源兵衛儀、代々相續致、當時上田權右衛門拜領主ニ御座い。

吹上御奉行河合次郎右衛門支配御座敷方

他住居

飯島貞助家守政吉

右此譯書、前文之通ニ御座い。○中

表田舍間三間四尺七寸二分。裏幅同斷。裏行南北共拾八間五尺。此坪六十壹坪二合九勺。

吹上御奉行河合次郎右衛門支配御花段方

他住居

北山覺右衛門家守清右衛門

右之内田友宜年月不知拜領仕、享保八卯年上ヶ地ニ相成、寶曆十四卯年正月申湊嘉右衛門拜領仕い所、寛政七卯年十一月中上ヶ地ニ相成、同○寛政九巳年三月中鳩原叶右衛門拜領仕、同○寛政十一未年六月中相對替仕、北山覺右衛門拜領主ニ御座い。

文政町方書上

澁谷宮益町 上ヶ地ヲ名主ニ預ク。

明和元甲申年

七月廿日預。小川幸左衛門上ヶ地一、澁谷宮益町近所百拾八坪餘

澁谷宮益町名主

與右衛門預地

屋敷書拔

四谷伊賀町

四谷伊賀町 町屋鋪ト成レル處有り。

殷昌期

四谷伊賀町略○中

表田舎間六間貳尺。裏幅同斷。裏行貳拾間。此坪數百貳拾六坪餘。

溶姫君様添番格御侍岡崎兼三郎

右之、先祖之武士屋鋪之所所持仕由處、明和元年二月中開町屋ニ相成、當時他住居ニ御座由。

四谷新屋敷 上ケ地ヲ地主ニ預ク。

——文政町方書上

明和元年甲申年

閏十二月廿一日預。石野與左衛門引替上ケ地

千駄ヶ谷名主

一、四谷新屋敷五拾坪

預地。藏

○一本抹消。

但、外貳拾四坪同人預リ上ケ地共。

——屋敷書拔

牛込若宮町 町屋鋪受領者有リ。

牛込若宮町略○中

大久保孫市上ケ地

表間口田舎間拾二間三尺。裏行同二十間餘。此坪二百五十坪餘。
右之明和元年月日不知拜領被致由處、寛政十二申年九月中外御屋鋪拜領被致由ニ付御上り地ニ相成、其後右地代金之儀之、御賄組頭酒井八郎様御取次を以上納仕由。

——文政町方書上

金剛院門前 起立。

淺草寺地中

一、右之明和元年申年之中年十ヶ年季門前地ニ奉願上由處、寺社御奉行酒井飛騨守様○忠御勤役中、願之

金剛院門前

小島町

通被仰付、夫々年季明度々奉願上、願之通被仰付由。

——文政町方書上

小島町 拜領地收公上納地ト爲リ、尋テ能役者領受地ト爲ル。

小島町

一、町名起立之儀、當時右町屋之所之元沼地ニ有之由ヲ、淺草新堀浚御請負仕由爲助成、元祿五申

年中彌十郎次郎左衛門甚右衛門を申、

但、小島町起立之儀之、一説ニ淺草猿屋町小島屋西之助を申者先祖名主役相勤罷在、寶永午年三味線堀川筋堀割之節、唯今小島町之所沼地ニ有之由ヲ右川筋堀立之土ヲ、以埋立由、右ニ付小島町

を名付由及承申由。

三人之者、右沼地拜領仕、其後下谷小島町を申、町屋ニ相成由處、明和元年六月中右三人之者御答被

仰付、地面被召上、上納地ニ相成、同年○明和元年閏十二月中町御奉行土屋越前守様御掛りニ有、御能役

者觀世織部右土ケ地一圓ニ拜領致、定浚共被仰付由ニ付、織部を申立、其節之家守佐兵衛吉右衛門兩

人定浚下請負被仰付、右新堀通り兩岸三尺通浚土塵芥常置場之儀、同明和元年閏十二月中道御奉

行堀彌三郎様佐兵衛吉右衛門を奉願上、願之通被仰付、其後追々代替、當時觀世四郎拜領地ニ有、

同家守伴兵衛庄五郎定浚御請負被仰付、右定浚場所之儀之、淺草元鳥越橋川口、新堀通り清水寺前

迄、長サ凡拾三間程之間、永代定浚并堀岸兩側柵、且堀通之内橋五ヶ所、永々新規修復共仕由分、

一、橋壹ヶ所 三筋町通り堀向々新旅籠町。

但、殘橋、長貳間、幅六尺。

一六七

般昌期

一、同 與力町堀向々
龍法寺前。

但、抹香橋、長貳間貳尺、幅六尺。

一、同 東本願寺裏門通。

但、御門跡西門橋、長貳間四尺、幅貳間。

一、同 元三拾三間堂前
誓願寺通。

但、紙屋橋、長貳間一尺、幅一間。

一、同 清水寺前。

但、清水寺橋。長壹間五尺、幅一間。

右新堀之儀也、淺草寺裏御鷹野御場所水吐之堀ニ多、毎年九月十月頃御場所御拵初ハ節々、御下知次第、別々水吐宜敷様堀浚仕。

新旅籠町代地 町屋鋪拜領者有リ。

新旅籠町代地 略中

一、同 町屋鋪。百拾六坪六合四勺五才

御本丸御裏御門番御切手役三橋藤兵衛組
平島金之丞
御臺様御膳所御臺所頭支配小間遣
岩村甚五郎
府内備考

右之去ル明和元年十一月中拜領仕。

本所相生町四町目 堅川河岸ニ土藏ヲ建ツ。

本所相生町四町目 略中

新旅籠町
代地

本所相生
町四町目

附記
別墅給與

金田正
甫

城濠浚渫

一、同川 河岸地之内、土藏物置小屋等左之通、
間口貳間。奥行五間半。此建坪拾壹坪。 略中

土藏壹ヶ所

右之明和元年六月十九日御願申上、新規ニ相建申。

文政町方書上

〔附記〕 別墅給與

十一月 ○明和二年二月 芙蓉之間、

大御番頭
金田 遠江守 ○正甫

右之屋敷可被下置ハ間、場所見立可相願旨、周防守 ○松平康福 申渡之。

明和二錄

明和二年乙酉 ○紀元二四二五年 二月十八日癸亥 ○癸亥、三正綜覽。幕府城濠ヲ浚渫シ、高知 ○土佐國。城主山

内豊敷 ○松平土佐守。岡山 ○備前國。城主池田治政 ○松平内藏頭。ヲシテ役ヲ助ケシム。勘定奉行伊奈忠宥

○半左衛門。普請奉行竹本正章 ○越前守。使番山田利壽 ○十太夫。勘定吟味役柘植守清 ○五郎左衛門。用掛タリ。

廿六日辛未 ○明和二年(紀元二四二五年)二月○辛未、三正綜覽。掛員ノ任命有リ。五月十六日庚寅 ○明和二年(紀元二四二五年)○庚寅、三正綜覽。松

山 ○伊豫國。城主松平定靜 ○隱岐守。命ヲ受ケテ、日比谷門 ○市内麴町區。數寄屋橋門 ○市内麴町區。間ノ堀浚ヲ

助役ス。十月朔日癸卯 ○明和二年(紀元二四二五年)○癸卯、三正綜覽。十三日乙卯 ○明和二年(紀元二四二五年)十月○乙卯、三正綜覽。告成シテ、豊

敷 ○山内土佐守。治政 ○池田内藏頭。並ニ其家士ヲ賞シ、十五日丁巳 ○明和二年(紀元二四二五年)十月○丁巳、三正綜覽。及廿一日癸亥

殷 昌 期

一六九

城濠浚渫事

○明和二年(紀元二四二五年)十月○癸亥。三正綜覽。定靜○松平 隱岐守。並ニ其家士ヲ賞ス。用掛以下ノ授賞ハ、十五日丁巳○明和二年(紀元二四二五年)十月○丁巳。三正綜覽。十一月三日乙亥○明和二年(紀元二四二五年)十月○乙亥。三正綜覽。ニ在リ。十二月九日庚戌○明和二年(紀元二四二五年)十月○庚戌。三正綜覽。町奉行依田政次○豐前守。亦時服ヲ賜フ○明和二年(紀元二四二五年)十月○庚戌。三正綜覽。城濠浚渫。顛末左ノ如シ。

十八日○明和二年二月。波之間

松平土佐守○山内 豐歌

松平内藏頭○池田 治政

右ノ御堀浚御手傳被仰付旨、右近將監○松平 武元。傳達之。

芙蓉之間

御勘定奉行 伊奈半左衛門○忠 寛

御普請奉行 竹本越前守○正 章

御使番 山田十太夫○利 壽

御勘定吟味役 柘植五郎左衛門

右同斷御用懸被仰付旨、同人申渡之。

廿六日○明和二年二月。中略。

御右筆部屋縁頼

御勘定組頭 佐久間忠兵衛

同 栗林平五郎

御勘定 鈴木八右衛門

同 小笠原友右衛門

同 伊東太次右衛門

同 關川庄五郎

右ノ御堀浚御用掛被仰付旨、右近將監申渡之。

十六日○明和二年五月。波之間

松平隱岐守○定 靜

右ノ日比谷御門ノ數寄屋橋御門迄御堀浚御手傳被仰付旨、右京大夫○松平 輝高。演達之。

朔日○明和二年十月。中略。

時服三十被下。御堀浚御手傳仕廻ハニ付

同。

松平土佐守
松平内藏頭

十三日○明和二年十月。中略。

檜之間

御堀浚御手傳御用相勤ハ付、御褒美被下ハ面々

松平土佐守家來 惣奉行 山内源藏
副奉行 麻田新五右衛門

銀五十枚。羽折。
時服五。羽折。
同三十枚。羽折。
同三十枚。羽折。
同廿枚。羽折。
同廿枚。羽折。
同貳。羽折。
同斷。
同斷。
銀十枚。羽折。
時服貳。羽折。

目付邊庄兵衛
留守居勘右衛門
元完戶勘右衛門
津田源右衛門
普請奉行 福岡内藏允
澁谷三郎右衛門

間清太夫
久保安左衛門
森庄七
中山作右衛門

殷昌期

銀五十枚。羽折。
時服五。羽折。
銀三十枚。羽折。ツ。。
時服三。羽折。ツ。。
同二十枚。羽折。ツ。。
同貳。羽折。ツ。。
同斷。

右之通右近將監殿被仰渡之。

十五日 ○明和二年十月○中略。

時服十五。

御堀浚仕廻付

御勝手略。

○中

金三枚。ツ。。

御堀浚御用仕廻二付

同貳。

同貳枚。

廿一日 ○明和二年十月○中略。

銀三十枚。羽折。

時服四。羽折。

松平内藏頭家來 一七二
惣奉行 伊木 豐後

副宮奉行 舍人
元須原源藏
留守原平右衛門
目松付平左衛門
普請奉行 秋田十左衛門
木戸新左衛門
佐分利音五郎

小堀彦左衛門
淺野瀨兵衛
中村吉右衛門
村井傳左衛門
小崎半兵衛
鈴木新兵衛

松平隱岐守

御勘定奉行 伊奈 半左衛門
御普請奉行 竹本 越前守
御使番 山田 十太夫
御勘定吟味役 柘植五郎左衛門

松平隱岐守家來
惣奉行 吉田 十八太

銀二十枚。羽折。
同三。羽折。
同斷。
同貳。羽折。
同斷。ツ。。
同斷。ツ。。
銀十枚。羽折。ツ。。
同貳。羽折。ツ。。

留守長谷川勘兵衛
普請奉行 青木兵九郎
横江鱗之進
元池田金左衛門

副奉行 河端藤太夫

佃久左衛門
森九市郎
小勢次郎太夫

右之御堀浚御手傳御用相勤付被下旨、右近將監殿被仰渡之。

三日 ○明和二年十一月○中略。

御右筆部屋縁頼

金壹枚。

同斷。

銀十枚ツ。。

御勘定 鈴木八右衛門

御勘定組頭 佐久間 忠兵衛

大類次郎助
根岸吉右衛門

同 栗林平五郎
伊東太次右衛門
支配勘定 關川庄五郎
廣瀬伊八郎

右御堀浚御用相勤付被下之略。

燒火之間

銀十枚ツ。。

御徒目付

神尾安次郎

井野口善十郎
山岡幸七郎

殷昌期

同斷。

御徒假役 淺井 瀨兵衛
戸倉 伴次郎
黒田 與兵衛
矢島 平之允

犬塚 甚十郎
皆川 勘四郎
安西 次郎右衛門

右之御堀浚御用相勤い付被下旨、松平攝津守殿○忠被仰渡之。

九日 ○明和二年十月
二月○中略

芙蓉之間

時服三。

町奉行 依田 豊前守○政次

右之御堀浚火除御用相勤い付被下旨、伊豫守殿○阿部正右被仰渡之。

十八日 ○明和二年
二月○中略

——明和二錄

一、波之間○松平土佐守松平内藏丞御堀浚御手傳御用、御列座○二被仰渡。

一、芙蓉間○伊奈半左衛門竹本越前守山田十太夫柘植五郎左衛門、御堀浚御用懸り被仰渡。御列座侍座。

廿六日 ○明和二年
二月○中略

一、御右筆部屋○二、御堀浚御用御勘定方被仰渡い。右近將監殿○松平武元攝津守殿○忠恒侍座○中略。
一、御堀浚御用掛り御徒目付伺之通六人被仰渡、内壹人西丸方也。則縫殿頭申渡ス。

——景漸日記

十八日 ○明和二年
二月、勘定奉行伊奈半左衛門忠宥、普請奉行竹本越前守正章、使番山田十太夫利壽、勘定吟味

役柘植五郎左衛門守清に、城濠浚利命ぜられ、松平土佐守豊敷、松平内藏頭治政は、その助役命ぜらる。

十六日 ○明和二年
年五月、松平隠岐守定靜に、城隍浚利の助役命ぜらる。

十月朔日 ○明和二年
年○中略、城溝浚利の助役松平土佐守豊敷、松平内藏頭治政に、各時服三十賜ひ褒せらる。

十三日 ○明和二年
年十月、浚溝の時人夫出せし松平土佐守豊敷、松平内藏頭治政が家士等へ、銀時服羽織を賜ふ。

十五日 ○明和二年
年十月○中略、浚溝の助役松平隠岐守定靜に時服十五賜はる。又その事つかさどりし勘定奉行伊奈半

左衛門忠宥、普請奉行竹本越前守正章金三枚時服三つ、使番山田十太夫利壽金三枚時服二、勘定吟味役柘植五郎左衛門守清も金二枚時服二賜ひ賞せらる。

廿一日 ○明和二年
年十月、二城溝助役せし松平隠岐守定靜が家士等に銀時服羽折をたまふ。

九月 ○明和二年
年十二月、二町奉行依田豊前守政次さきに浚溝の泥土をこと所にうつせし事をもて、時服三たまふ。

——浚明院殿御實紀

豊敷 初重國。市正。伊右衛門。民部大輔。土佐守。
從四位下。侍從。○山内。

明和二年十月朔日、飯田町より常盤橋に至るまでの御堀浚を助け勤めしにより、恩賜あること前のこと

し。 ○時服三十領をたまひ、其事にあづかれる家臣等に物をたまふ。

治政 初敏政。新十郎。内藏頭。侍從。從四位下。
左少將。致仕。○池田。

二年 ○明和二年
年十月、十月朔日御堀浚をたすけつとめしにより、時服三十領をたまはり、十三日 ○明和二年
年十月、家臣にも物

股 昌 期

一七五

をたまふ。

定靜源之助。備中守。隠岐守。從五位下。

從四位下。侍從。○松平。

十月十五日○明和二年。日比谷門より數寄屋橋門にいたるまでの外隍を浚治せしにより、時服十五領をかげ

らる。二十一日○明和二年十月。家臣等にも物をたまふ。

利壽左七郎。十太夫。肥後守。從五位下。

○山田。

明和二年正月十一日御使番に轉じ、十月十五日御堀浚の事を奉はりて時服二領黄金三枚をたまふ。

——寛政重修諸家譜

圖略○

常盤橋 御堀浚會所小屋地所。

東道。西道。常磐橋。

南道。北道。

東西 九間三尺ツ、

南北 二十八間ツ、

同 御手傳役人詰所出小屋場。

東道。西道。

南道。北道。

東西 九間壹尺。

南北 十間三尺。

西 九間三尺。

此度御堀浚ニ付、常磐橋御門外東之方御堀端ニあり、會所小屋、并兩御手傳役人詰所出小屋場地所共、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年三月廿七日

松平土佐守内 完戸 勘右衛門 印

津田 彌右衛門 印
松平内藏頭内 澤原 孫太郎 印
中村 善右衛門 印

淺野備前守内河崎彦兵衛、玉置丈太夫。

右立合相改渡レ之。

棟梁、拾人。

圖略○

一橋御門外三番明地之内 松平土佐守居小屋場 坪數八百坪。

東道。西明地。

南道。北明地。

東西 二十六間。

南北 各三十貳間。

西 貳十四間。

此度御堀浚ニ付、一橋御門外三番明地之内ニあり、御手傳松平土佐守居小屋場地面、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年四月五日

松平土佐守内 完戸 勘右衛門 印

津田 彌右衛門 印

淺野備前守内川崎彦兵衛、玉置丈太夫。

圖略○

數寄屋橋御門外 松平内藏頭居小屋場 坪數四百坪。

般 昌 期

東道。北西。廣道。

南道。北西。廣道。東。二十間。西。二十八間。貳尺七寸。

此度御堀浚ニ付、數寄屋橋御門外御堀端ニ多、御手傳松平内藏頭居小屋場地面、被成御渡、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和二乙酉年四月五日

松平内藏頭内
淺野 瀨 兵 衛 清印
中村 善 右 衛 門 清印

淺野備前守内川崎彦兵衛、玉置丈太夫。

圖略。

常磐橋御門外 松平隱岐守出小屋場 坪數五拾坪。

東西記入なし。四方間數省レ之。

此度御堀浚ニ付、常磐橋御門外東之方御堀端ニ多、御手傳出小屋場地面、御渡被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和二乙酉年五月廿二日

松平隱岐守内
長谷川 勘 兵 衛 清印
鯉 江 鱗 之 進 清印

淺野備前守内川崎彦兵衛、玉置丈太夫。

圖略。

數寄屋橋御門内 松平隱岐守居小屋場 坪數三百坪。

東西記入なし。四方間數省レ之。

此度御堀浚ニ付、數寄屋橋御門内ニ多、御手傳松平隱岐守居小屋場地面、御渡被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和二乙酉年五月廿二日

松平隱岐守内
長谷川 勘 兵 衛 清印
鯉 江 鱗 之 進 清印

淺野備前守内川崎彦兵衛、玉置丈太夫。

——屋鋪渡預繪圖證文

西〇明和二乙酉年三月八日

奈良屋ニ多年番名主へ被申渡

此度御堀浚土、何れ之場所へ成共持運せ可遣間、所々明地之内、地面不陸之場所、或ハ川々出洲、又ハ川埋、年來船通行も無之河岸之平生竹木等差置、陸地同様ニ多、其河岸附町々之強多助成にも不成場所等有之、右之場所へ浚土爲持運可遣共、其土を以て築立、上納地町屋も仕度望之者共も有之ハ、可願出。吟味之上、其入用程之土持運せ可遣間、自分入用を以て地所致平均、柵石垣等ニ多も致し、町屋ニ取立ハ、地借店借出来ハ迄ハ、一兩年之場所之様子次第、地代金半金或ハ三分一致用捨可遣。其以後之請負高程上納可爲致間。右體之場所存ハ、其旨早々依田豊前守番所へ可願出。

前條之趣、隨分不洩様、名主支配限り可爲申間。

殷 昌 期

西〇明和二年三月

西〇明和二年三月十一日

奈良屋ニある年番名主へ被申渡

此度御堀浚之除土を以、地所築立、町屋ニ可相成場所見立ハ、可願出旨、名主共支配限り相觸ハ様、先達申渡ハ通り、例町人共存付ハ願出ハ違ヒ、奉行所より右之通り相觸ハ事故、右願出ハ得ハ、願之善惡ニ不拘、先書付繪圖留置、追々得と遂吟味、勿論難成願之分ハ、追々難成段申渡ハ事ニハ。然共先訴狀繪圖等留置、場所等見分も致シ、遂吟味ハ間、願人共并ニ内仲ケ間も共、當所之徳用可致と、金主へ彼是虚談申聞、無益之金銀爲差出ハ儀も可有之哉。決ハ右體之儀致聞敷ハ。若如何敷手段致ハ者も有之様相聞ハ、可遂吟味ハ。然上ハ場所等宜ハとも願人へハ不申付ハ。外願人へ可申付ハ。右體願之義ニ付、内仲ケ間其外手寄へ金銀等差出ハ上、右願筋不相調ハニ付、其儀公事出入ニ相成、吟味之上、答申付ハ儀、前々有之事ニハ間、前書之趣、兼ハ名主共支配限り可申渡置ハ。

西〇明和二年三月

西〇明和二年三月十六日

奈良屋ニある年番名主へ被申渡

一、此度御堀浚土、何れ之場所へ成共、持運せ可遣ハ間、其ノ土を以築立、上納地町屋敷も仕度望之者共有之ハ、可願出旨、當八日^{〇明和二年三月}申渡ハ。右ニ付追々願人も有之ハ。格別遅々願出ハ有テ、吟味之儀行届兼、其上段々御堀浚可相初ハ。右築立ハ地所極リ有之ハ得テ、其所へ直ニ差遣ハ間、双方無益之入用も不相掛ハ。場所不相極ハ得テ、一旦外へ除置、又ハ築立ハ地所へ差出ハ様相成ハ間、築立ハ場所早く相極置ハニ付、來月^{〇明和二年四月}八日迄願出ハ者共計遂吟味ハ。其以後願出ハ者ハ、取上無之ハ間、望之もの共ハ、早々可願出ハ。前條之趣、隨分不洩様、名主支配限り可爲申聞ハ。

西〇明和二年三月

西〇明和二年三月十七日

奈良屋ニある年番名主へ被申渡

此度御堀浚土、何れ之場所へ成共持運せ可遣ハ間、其土を以て築立、上納地町屋ニも仕度望之者有之ハ、可願出旨、當月^{〇明和二年三月}八日申渡ハ。右ニ付追々願人も有之ハ。格別遅く願出ハ有リ、吟味之儀行届兼、其上段々御堀浚可相初ハ。右築立ハ地所極リ有之ハ得テ、其所へ直ニ差遣ハ間、双方無益之入用も不相掛ハ。場所不相極ハ得テ、一旦外へ除置、又ハ右築立ハ場所へ持運セハ間、早く相極置ハニ付、來月^{〇明和二年四月}八日迄願出ハ者共計遂吟味ハ。其以後願出ハもの共ハ、取上無之ハ間、望之者ハ早々可願出ハ。

西〇明和二年三月

西〇明和二年三月

前條之趣、隨分不洩様、名主支配限り可爲申聞ハ。西〇明和二年三月。此度御堀浚下拵、來る廿五日^{〇明和二年四月}より御取掛リニ付、龍之口より錢瓶橋迄、飯田町下堀留より數寄屋橋迄、御堀内諸船不殘相拂、御堀之方へ一切船乗入申聞敷ハ。此旨町中船持テ不及申、家持借家店借裏々迄、可相觸ハ。

西〇明和二年三月

右之通從町御奉行所被仰渡^い間、町中不殘入念可被相觸^い。以上。

四月廿三日^{〇明和二年}

町年寄

人

酉^{〇明和二年}五月七日

御堀浚^二付、新規^二日雇稼仕^いもの、并^二在方より罷出滞留仕、又^ハ日歸りに相成^い近在より、日雇^二罷越^い類、役錢取立^い儀、左^二申上^い。

一、此度御堀浚^二付、前々より日雇仕^い者^ハ勿論、當前之爲稼日雇仕^い。別^ニ此節町々家主銘々店限り^二吟味仕^いあ、名主共方へ書出^い様可^い仕^い。

一、在邊より爲稼日雇^二參^い者、或^ハ町方好身^いもの方へ罷越、出居衆^二罷在、又^ハ在邊^ニあ五六人も申合罷越、御堀浚中店借り罷在、日雇^二罷出^い様成儀も可有^い之哉。是又町々家主限り吟味仕^いあ、人別^二相改、帳面^二仕、名主共方へ差出^い様^二仕、札相渡、役錢取立^い様可^い仕^い。

一、近在より日歸り^二罷越、日雇稼仕^い者^ハ、町方^二宿無^い之故、吟味難仕奉存^い間、御堀浚中、札頭之者へ被仰付、御堀端見廻り、無札^いもの并^二近在より日歸り^二仕罷出^いもの共相改、江戸表^二宿有^い之^い者^ト、其所之名主へ相届、近在より日歸り^二仕^い者^ハ、直^二札相渡、役錢取立^い様被仰付^い、此段名主支配限り^二町々へ急度申渡置^い様可^い仕^い。左^い得^ハ無札^ニ罷出^い者御座有間敷、并^二近在日歸り^二罷出、日雇仕^い者も、洩^い儀無御座、役錢取立可^い申^い哉と奉存^い。以上。

西^{〇明和二年}五月七日

南北年番

名主共

覺

一、日雇座^いものより相渡^い札改^い節、札持出も不申宿^ニ差置^い杯と申立、改方紛敷^い間、前々より相觸^い通り、稼^二罷出^い節、元札持出し改^を請可^い申^い。札不持出^宿ニ差置^い分^ハ無札^ニ相立、吟味之上、急度可^い申^い事。

一、日雇座^い之者札改^い節、雜言杯申、其上手向等仕^いもの有^い之由相聞、不届^い。左様^いもの有^い之^い、吟味之上、急度可^い申^い間、召捕可^い罷出^旨、日雇座^い之者へ申^い事。

一、前々も相觸^い處、無札^ニあ日雇取^いもの有^い之由、不届^い。諸日雇取^いもの共、其家主銘々吟味仕、無滯札請取、腰^二付可^い罷出^い。勿論札役錢家主共へ取集、名主支配限り、月々無滯可^い相納^い事。

但し山之手組札頭^ト、前々札役錢納方も滯不申^い付、今以札頭共札役錢取集相納^い得共、近來納方及遲滯^い。此上前々之通り無遅々相納^い、格別、左も無^い之及遲々^い、是又家主共取集可^い申^い事。

一、公儀之御普請方并諸人足請負^い者共、惣して武士方雇六尺諸日雇受負^いもの、火消方薦中人^ハ分入口^ハ之者共、日用座へ罷越、帳面^ニ相附、諸事日雇座差圖^を請、札受取可^い申^い。勿論無札之日用相雇申間敷^い。尤十日雇、廿日雇、月雇、武家方諸日用、并^二町方へ罷出^い者共、札受取^い儀、致遲滯^い由、不届^い。無札^い之儀^ト不^及申、日切過^い、無遅々札引替、急度所持可^い仕^い事。

一、日雇座喜右衛門方より店々相廻り、無札^いもの相改^い間、札差出見せ可^い申^い。尤無札^い之者有^い之^い得^い、急度可^い申^い。

右之通り前々より相觸^い處、諸日用入口請負^い者共、日用座へ罷越、帳面^も相附不申、自身^之札をも

受取不申由、不届二い。公儀之御普請方并ニ諸人足請負人、惣武家方町方諸日用入口之もの共、日用座へ罷越、帳面ニ相附、自分札をも請取、勿論無札之日用相雇不申様可致い。猶又名主家主致吟味、自今無札之もの有之、日用座より訴出い、穿鑿之上、急度可申付い。

——正寶事錄

附記
道中取締

〔附記〕 道中取締

道中往來之面々、家來并ニ雇之者共、道中ニ不法之儀共有之由、相聞いニ付、右體之儀無之様、雇人足請負之者へ申渡、人足共へも急度可申付旨、先達相觸い得共、當四月^{○明和二年}御法會ニ付通行も多くいニ付、猶又右之通り可相心得い。此度相觸い條、雇之者共、雇人足共、道中ニ不作法之儀無之、此度重き御役人も通行之事ニ候得、主人之權威を以て、非分之仕方無之様、猶又急度可申付旨、請負人共へ可被申渡い。若如何之品も相聞い、當人は勿論、請負人共迄、急度可申付旨、此亦可被申渡い。

右之通り被仰出い間道中筋へ罷出い日雇人足致請負いもの勿論、其外右體之致請負いもの、前書之趣、急度相守可申い。此旨町中可觸知もの也。

二月^{○明和二年}

右^{○明和二年}西^{○明和二年}二月拾九日奈良屋ニ寫物、町中連判、同^{○明和二年}二月廿三日同所納。

喜多村ニある年番名主へ被申渡

道中往來之面々、家來并ニ雇之もの共、道中ニ不法之義共有之由相聞いニ付^{○中略上}。右之趣、素人ニあも道中筋罷出い日雇人足請負致しもの共、一同急度相守、人足共へも不相背様中含置、此節日光筋へ罷越い日雇人足共へ、猶更堅可申い。勿論平日とても旅行致い人足共へは、前書之趣可申付置い。若相背いもの於有之、吟味之上、咎可申付い。尤此度一統町觸申付い得共、猶又別段に申渡置い間、其旨可存い。

二月^{○明和二年}

——正寶事錄

三月廿四日己巳

^{○明和二年(紀元二四二五年)己巳(三正總覽)}

是頃猿江橋

^{○市内深川區}

ヲ修理ス。是年

^{○明和二年(紀元二四二五年)}外ニ

毛橋普請有リ。

^{○景漸日記。屋鋪渡預繪圖證文。}

橋普請 明和二年左ノ橋普請有リ。

廿四日^{○明和二年三月○中略}

一、猿江橋御修復ニ付、假橋往來爲致い書付、周防守殿御下ケ、如例向々違し、承り付返上。
——景漸日記

築地萬年橋、江戸川龍慶橋麻布新堀四目橋モ、是年修理シタル者ノ如ク、屋鋪渡預繪圖證文ニハ之カ工事

殷 昌 期

橋普請

橋普請事蹟

小屋場ヲ給シタルコト見ユ。

圖略○

築地 萬年橋并橋臺築直修復小屋場。

東北 道。西南 道。
西北 川。東南 道。

東北 西南 各三間。
西北 東南 各二十間。

築地萬年橋并橋臺築直組合修復小屋場地面、御渡被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年六月十日

龜井玄蕃内

德永 幸 右衛門 印

青山長三郎内

河井 勘 右衛門 清 印

坪内權左衛門内

安岡 伴 右衛門 清 印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改渡レ之。

服部七右衛門。安川善藏。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

圖略○

龍慶橋 組合修復小屋場。

東 道。西 道。
南 道。北 道。

東 三間。
南 三間。
西 三間。
北 三間。

江戸川龍慶橋組合修復小屋場地面、被成御渡、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年六月十三日

久世出雲守内

山田 豐 三 郎 清 印

大久保吉之丞内

太田 原 清 六 清 印

有 賀 與 市 清 印

淺野備前守内玉置丈太夫。武本越前守内岩田惣右衛門。

右立合相改渡レ之。

清水喜兵衛。安川善藏。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

圖略○

麻布新堀 四ツ目橋組合御修復小屋場。

東 道。西 同。
南 道。北 土手、新ボリ。

東 各四間。
南 各十五間。
西 各四間。
北 各十五間。

麻布新堀四ツ目橋組合修復小屋場、被成御渡之、四方間數并假橋場所共、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十一月十日

板倉佐渡守内
本 多

兵 衛 清 印

竹本越前守内中村左次郎。淺野備前守内玉置丈太夫。

右立合相改渡レ之。

殷 昌 期

屋鋪受授

五月十二日丙戌

○明和二年(紀元二四二五年)○丙戌三正綜覽

屋鋪受授有り。外ニ是月

○明和二年(紀元二四二五年)五月

屋鋪受授

若干。○屋鋪渡預繪圖證文。明和二錄。景漸日記。

屋鋪受授 明和二年五月若干屋鋪ヲ受授ス。

圖略○

麻布龍土 宮垣傳左衛門上り地 坪數八拾貳坪餘。

東南 板橋市之丞。西北 須田源次郎。

西南 道。東北 道。

東南 十五間三尺餘。西北 十五間壹尺餘。

西南 五間貳尺。東北 五間貳尺。

麻布龍土宮垣傳左衛門上り地、御先手組屋鋪大繩之内御座いニ付、御請取、直ニ右組い御差辰被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年五月十二日 淺野備前守内河崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。

右立合相改差辰之。

棟梁、六人。

圖略○

牛込榎町 野原與市上り地 百拾九坪餘。

東 田中政吉。北 塚本助右衛門。

南 道。西 道。

同 福見半右衛門上り地 坪數百五拾四坪餘。

東 道。北 松井紋三郎。

同 本間丈右衛門上り地 坪數百三拾五坪。

東 神田源藏。北 田中政吉。

南 道。西 道。

同 齋藤丈助上り地 坪數百四十五坪。

東 松井紋三郎。西 高野豐次郎。

南 道。北 道。

同 藤森勝右衛門上り地 坪數百四十坪餘。

東 窪田藤右衛門。西 小宮山平五郎。

南 道。北 御持組屋鋪。

同 藤森勝右衛門上り地 坪數百四十五坪。

東 窪田藤右衛門。西 小宮山平五郎。

南 道。北 御持組屋鋪。

牛込榎町野原與市、福見半右衛門、本間丈右衛門、齋藤丈助、藤森勝右衛門上り地、御先手組屋鋪大繩之内御座いニ付、右組い御差辰被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申い。爲後日仍

殷昌期

屋鋪受授事

先手組屋

先手組屋

如件。

明和二乙酉年五月十五日

西丸御先手松平忠左衛門組與力
今井五郎左衛門 印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改差戻之。

棟梁、五人。

——屋鋪渡預繪圖證文

十六日 ○明和二年
五月○中略。

芙蓉之間

御留守居

一色 安藝守

右之願之通下屋敷可被下置の間、場所見立可相願旨、同人○松平
輝高傳達之。

——明和二錄

十六日 ○明和二年
五月○中略。

一、芙蓉間ニお、御留守居一色安藝守願之通り下屋敷被下旨、御老中被仰渡。

——景漸日記

附記
請託申禁

〔附記〕 請託申禁

廿四日 ○明和二年
五月○中略。

一、左之御書付出ル。

奥向之面々、奉行役人ノ訴訟人願人等之儀頼ケ間敷事無之様との段、前々々心得有之事ニ心得

共、若左様之儀有之敷、又老中若年寄其外御役人之家來等より、願人等之儀ニ付頼ケ間敷儀
い、老中又之支配迄無遠慮可被申聞い。右之趣可相達由、御沙汰も有之ニ付申達い。此
段可被申通い。

右之通元文五年相達い得共、年月経い事故、心得違之儀無之様、猶又相達い條、此段可被申通
い。 ——明和二錄

廿五日己亥 ○明和二年(紀元二四二五
年)五月○己亥、三正綜覽。

奥醫師多紀元孝 ○安
元。ニ神田佐久間町測量所跡明地 市

内神

田區。ヲ貸シテ、醫學館ヲ創設セシム。躋壽館ト號ス。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。凌明院殿
御實紀。日本教育史資料。武江年表。續泰

平年表。正實事錄。
中邑世紀秘説。

醫學館創設 近世ニ於ケル我邦醫學校ノ祖也。

圖略。

神田 多紀安元醫學館拜借地 坪數千五百拾八坪。

東 明地。西 明地。
南 明地。北 道。

東 四拾六間ツム。
南 四拾參間ツム。

神田佐久間町明地測量所跡内ニお、今度多紀安元願之通醫學館爲取立拜借地就被仰付い被成御渡、
四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年五月廿五日

奥醫師多紀安元内
直井 善藏 印

殷 昌 期

醫學館創設

醫學館創設
事蹟

田村文藏
菊池丈菴

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。
依田豐前守組與力秋山幸八。土屋越前守組與力佐野五郎左衛門。
右立合相改渡之。

服部七右衛門。宇野伊助。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

圖略。

神田 多紀安元預ケ地。

東 明地。西 明地。
南 道。北 多紀安元醫學館拜借地。

東 壹間半。
南 北 三十三間。

同 同人預ケ地。醫學館北之方。

東 西 五間。
南 北 三十三間。

神田佐久間町明地内、多紀安元醫學館拜借地前後明地内、此度安元願之通御預ケ地ニ被御付ケ付、右地面御渡被成、四方間數坪數、右繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和乙酉年九月二日

奧醫師多紀安元内

菊池丈

菴

井上

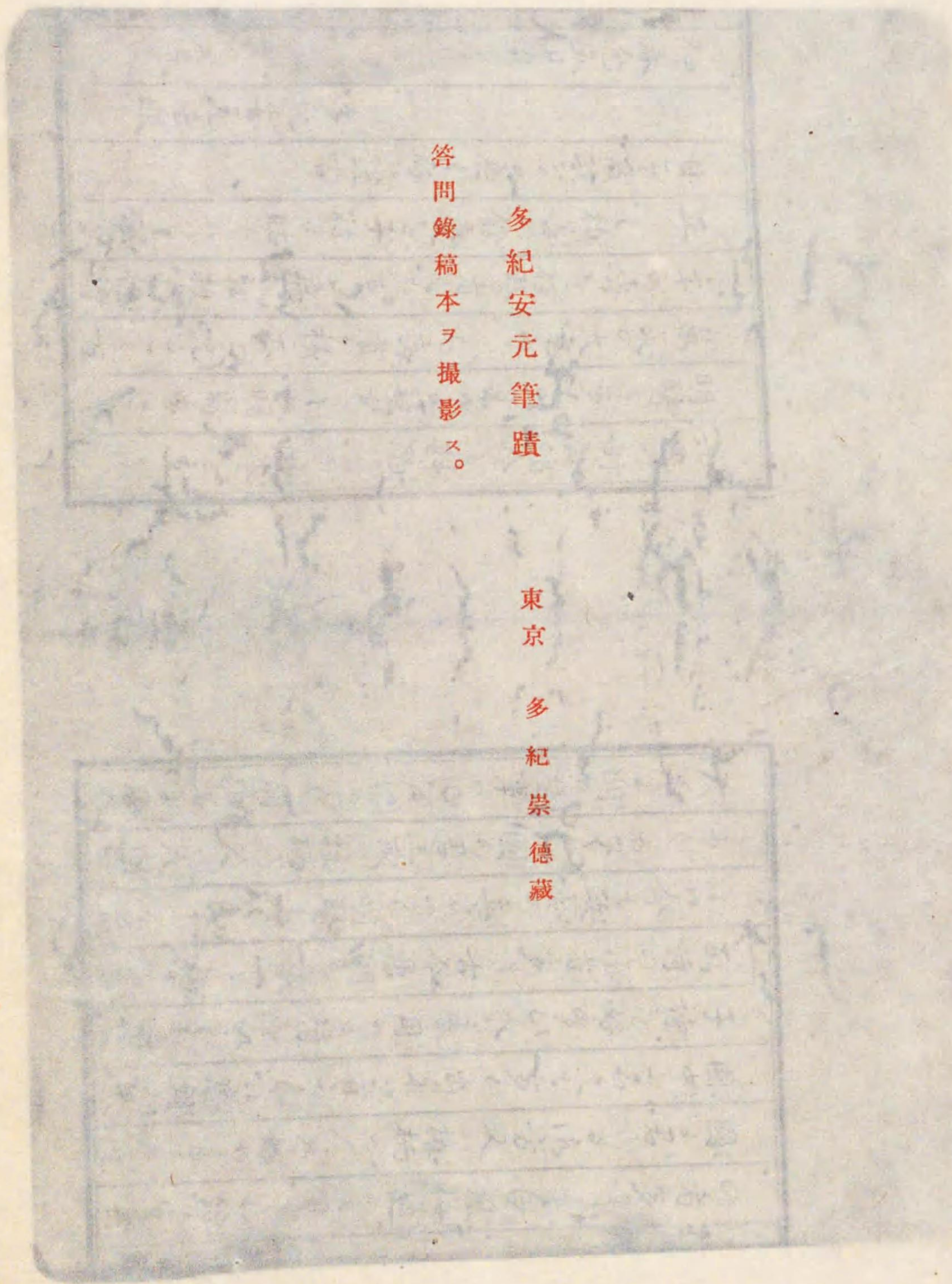
昇

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。

多紀安元筆蹟

答問錄稿本ヲ撮影ス。

東京多紀崇徳藏



田村文藏清印
菊池丈菴清印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。
依田豐前守組與力秋山幸八。土屋越前守組與力佐野五郎左衛門。
右立合相改渡レ之。

服部七右衛門。宇野伊助。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

圖略。

神田 多紀安元預ケ地。

東明地。西明地。
南道。北多紀安元醫學館拜借地。

東壹間半。
南三十三間。

同 同人預ケ地。醫學館北之方。

東五間。
南三十三間。

神田佐久間町明地内、多紀安元醫學館拜借地前後明地内、此度安元願之通御預ケ地ニ被仰付ハニ付、右地面御渡被成、四方間數坪數、右繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年九月二日

奧醫師多紀安元内

菊池丈菴清印

井上昇清印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。

多紀安元筆蹟

東京 多紀崇德藏

答問錄稿本ヲ撮影ス。

神田佐久間町明地内、多紀安元醫學館拜借地前後明地内、此度安元願之通御預ケ地ニ被仰付ハニ付、右地面御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申付。爲後日仍如件、

答問卷寫本、渠錄、

多紀安元醫學館拜借地

東京、多紀崇樹藏

同 同人預ケ地。醫學館北之方。

東西 五間。

南北 三十三間。

神田佐久間町明地内、多紀安元醫學館拜借地前後明地内、此度安元願之通御預ケ地ニ被仰付ハニ付、右地面御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申付。爲後日仍如件、
其醫師多紀安元内

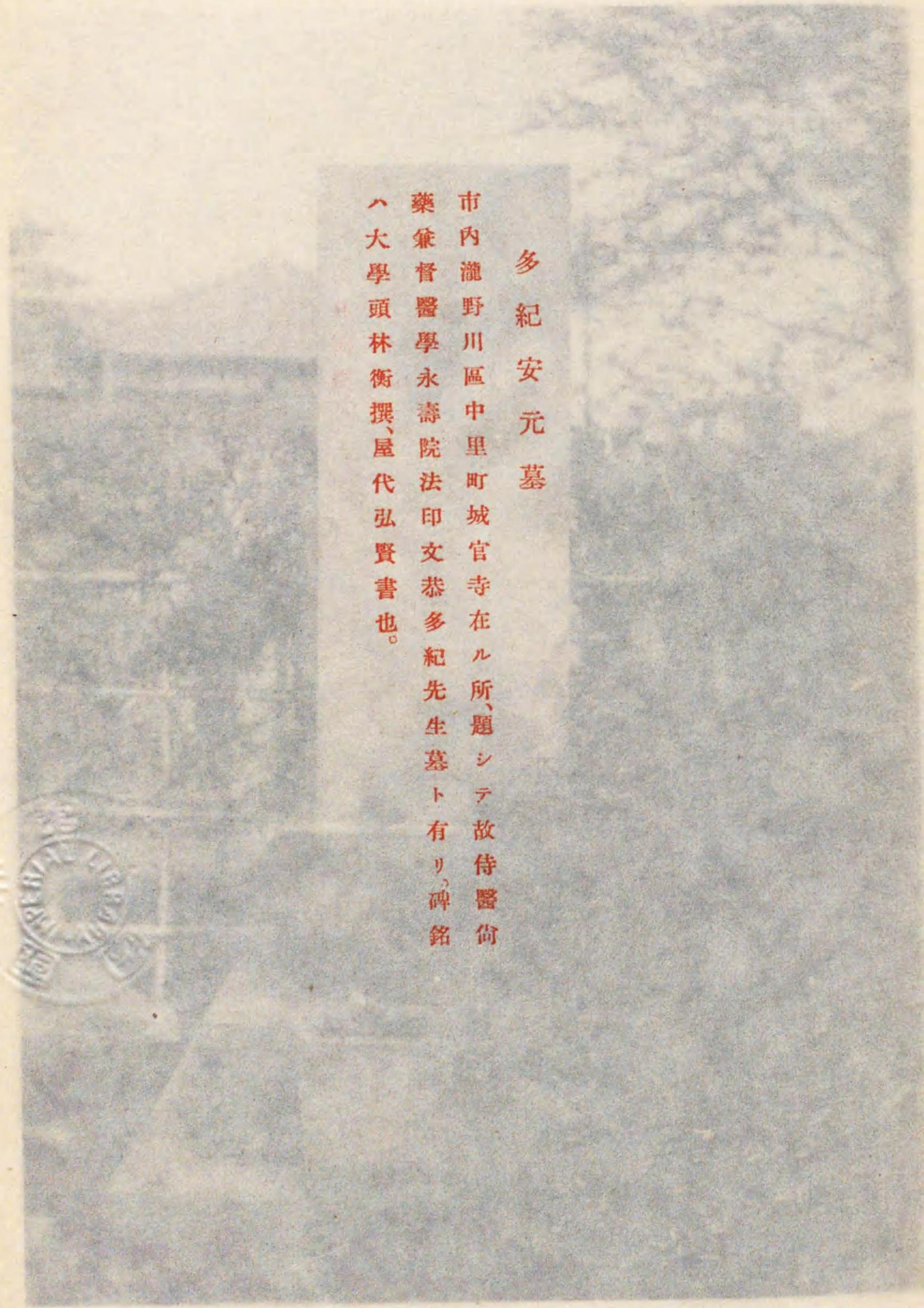
明和乙酉年九月二日

仲春念五日 多紀安元法眼
 日之爲政を色く好む謔言
 正しく積善の餘慶を孫に貽はるる家。
 手の毒を探敷者も死に病を故に徳行
 萬長の大毒は病者様天に死せしむ
 明醫も多し出れり短く明醫を多し
 神田佐久間町明地内、多紀安元醫學館拜借地前後明地内、此度安元願之通御預ケ地ニ被仰付ハニ付、右地面御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申付。爲後日仍如件、

の者多し、東風谷通、其
 國と君との地方又権柄の、人乃好り多し
 國中、出入り多し、出名人者少く、唐朝の天
 子待て好のい、入と兼用、詩、心く、選、採、品
 如詩の作者多し、古今唐朝、第一と稱せり
 今と政令の立方、明醫、多し、稱せり
 かくかく、二國の君王、或、権柄、人、人、國
 大毒、開、醫、事、心、火、留、し、同、僧、早、唐、乃

多紀安元墓

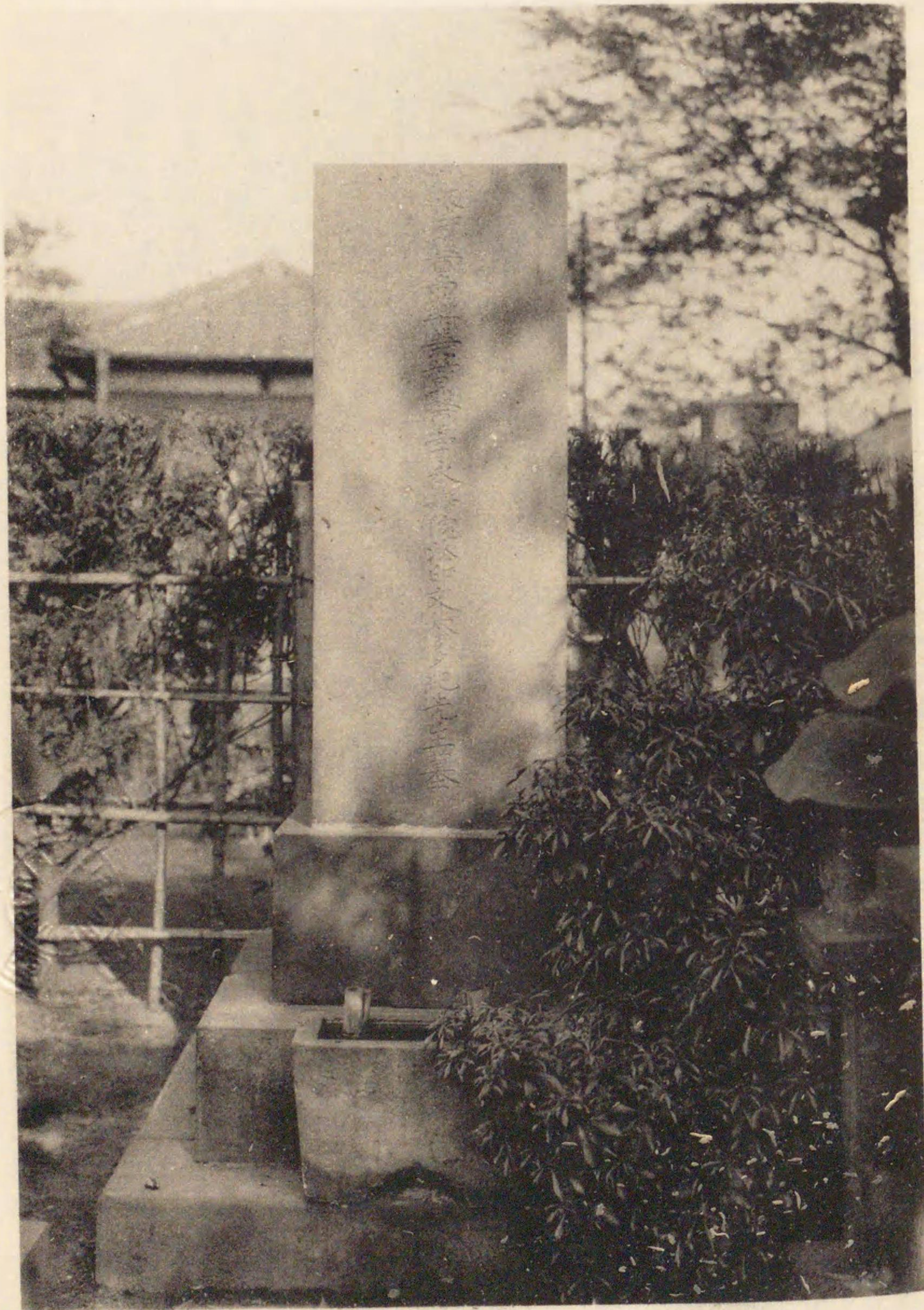
市内瀧野川區中里町城官寺在ル所、題シテ故侍醫尙
藥兼督醫學永壽院法印文恭多紀先生墓ト有リ。碑銘
ハ大學頭林銜撰、屋代弘賢書也。



多紀安元墓

市内瀧野川區中里町城官寺在ル所、題シテ故侍醫尙
藥兼督醫學永壽院法印文恭多紀先生墓ト有リ、碑銘
ハ大學頭林銜撰、屋代弘賢書也。





大塚節林邊野屋升馬置書出
 藥兼曾醫學永壽潤出甲交恭參
 市內齋視川湖中里田城言志
 參 塚 文 冢 墓





依田豊前守組與力中島嘉右衛門。土屋越前守組與力由比伊兵衛。
右立合相改渡レ之。

清水喜兵衛。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年

五月廿五日渡。測量所跡之内
一、神田佐久間町明地千五百拾八坪

奧醫師 紀安元

但、醫學館地所拜借地ニ渡ス。

奧醫師 紀安元

九月二日預。
一、神田佐久間町醫學館地所前後明地

——屋敷書拔

四日 ○明和二年十月
二月○中略この日令せらるゝは、奥醫多紀安元元孝が乞によりて、神田佐久間町に醫學館 跡と新
跡と新 築をゆるされしにより、官醫の子弟及び藩醫市井醫までも、すべてこの道まねばんとするものは心のまゝにかしこにつきてまねぶべしとなり。これは元孝とし頃、醫術は人の生死にかゝれば、もし未熟鹿學の醫多き時は、横天をまぬかれずとて、醫學を興造し、教導に堪べき才力をゑらびて醫政をさだめ、未熟のともがらをひきて、もはら習業せしめむことをおもひおこし、しばし建白せしかど、ゆへありて採用せられざりしが、ことし御ゆるしかうぶり、はじめて志願をとげしとぞ聞えし。

——浚明院殿御實紀

十二月 ○明和二年 神田佐久間町に醫學館建。 ○多紀
氏基立。

殷昌期

——武江年表

同○明和二年四月十九日、奥醫師多紀元孝預よ依て、神田よ地を貸され、醫學館を建、諸醫の子弟をして其業を學はしむ。

醫學館を擇有として、是を醫學館と號。神田佐久間町一井地被、仰付、諸醫の子弟を教育を。諸醫其科ニ名有者日々出席して書を講せ。後安元の男元真、父に繼て其業を修、殺し來る處、明和九年二月講堂火災に罹りしかせ、私財を以再建し、安永二年諸醫より醫學館寄附物の銀可差出、諸向被仰出、毎年此集物の銀を以學館の費用とす。天明六年の正月十二日醫學館再建ニ付、當年より毎年二月中旬と五月中旬迄百日の間、諸醫の子弟并醫道に志有之者、學舎ニ止宿致させ、醫道教育の問、望の者ハ可罷出、旨、御書付にして被仰出、寛政三年ニ至ル御改正有て、公儀の醫學館と成ル。

——續泰平年表

酉○明和二年十二月十四日

喜多村ニある番名主へ被申渡

醫學館

神田佐久間町 奥醫師 多紀

安元

右安元儀、此度相願、右之場所ニある醫道致講釋の。御醫師之子弟、并ニ陪臣醫師、町醫師、物の醫道ニ志之輩、右學館へ罷越の儀、勝手次第之事。

右之通り被仰出の問、町醫師惣の醫道志之者ハ、右醫學館へ勝手次第罷越の様、名主支配限り不殘様可申聞の。尤名主無之町々へて、月行事へ右之趣可申聞の。右之段組合中へ不洩可被申繼の。以上。

十二月○明和二年

——正寶事錄

明和二乙酉年

○中 十一月七日御觸、奥醫師多紀元神田佐久間町の醫學館を建、醫道講釋。

——中邑世紀秘説

○中 東京府教育沿革

明和二年幕府地ヲ多喜安元ニ貸シ、躋壽館ヲ神田ニ建テ、令ヲ出シ市ニ納シ、諸醫師ヲシテ醫ヲ茲ニ學ハシム。

同○明和三年正月、幕府復布令ヲ出シ、諸醫ヲシテ躋壽館ニ往キ、多喜安元ノ講ヲ聽カシム。

時還讀我書續錄拔鈔

醫ノ學校ハ、中古兵燹ヨリ、其設廢替ノ、建案已來、此事特リ缺典ニ屬セシ故、玉池府君深クコ、ニ慨シ、志ヲ發シテコレヲ草創シ、藍溪府君ヨリ其業ヲ紹構メ、遂ニハ官岸トナシ玉ヒテ、洋々乎トメ、其盛ナルヲ極ルニ至ル。雪霜稍移リ、耆宿凋落メ、今ハ兩府君經營ノ矩矱ト其功勞トヲ知ルモノ少シ。仍テ之ヲ家牒ニ按シ、マタ之ヲ叔父山崎青圃君ニ質メ、茲ニ其概ヲ學テ、子弟ヲシテ欽仰セシム。抑々其綿蕪ハ、明和二年乙酉ノ歲ニテ、官ヨリ神田佐久間町二丁目天臺ノ舊地ヲ借セテ、始テ醫學館ヲ造リ、文化三年丙寅ノ大火後ヨリ、地ヲ今ノ新橋ニ移サレテ、秋、躋壽館ト名ヲ命ス。其結構ハ、表門アリ。外來ノ者此ヨリ出入ス。和泉田侯邸ノ替地トナレリ。今ハ轉シテ旗トノ士ノ邸トナレリ。躋壽館ト名ヲ命ス。其結構ハ、表門アリ。橋東ノ河岸ヨリ北へ入ル小街ノ行キア。裏門アリ。館中常住スル者ヨリ出入ス。即余カ家ノ門ナリ。津候ノ表門ト町家ヲ隔テ相對セリ。ヨリ出入ス。擬泮水并橋アリ。講堂アリ。位アリ。朝夕講説祭祀此客廳アリ。諸生ヘ法合ヲ掲告シ、又、食堂アリ。諸生コ、書庫アリ。醫書ニ限ラズ、藥園アリ。時節ヲ以テ草所ニテ行フト。ハ官醫等貴客迎接所ナリ。外來ノ生徒此所ニ於テ講書ノ問覆番ス。上ノ間ハ、都講學舎アリ。教授學舎アリ。講都舎アリ。常住ノ諸生ヲ居ラシム。游息軒アリ。官醫中ノ間は列國醫員、下ノ間ハ市井醫ト定ム。都講學舎アリ。教授學舎アリ。講都教授ヲ應フトコロナリ。此外總理等ノ居宅アリ。館主ハ裏門ノ内ニ住ス。教導ノ方ハ、本帥經素問靈樞難經傷

殷昌期

寒論金匱ノ六部ヲ毎日輪講ナサシメ、都講コレヲ折衷シ、其他ノ書ヲモ輪講シ、更ニ經絡鍼灸診法藥物醫案疑問六條ノ會ヲ設ケ、各々ノ都講コレヲ教導ス。醫案疑問ハ文辭ニ預リ、其餘ハ皆事ニ就テ之ヲ傳フ。診法ハ鄙賤ノ治ヲ請フ者ヲ都講先診シテ、其後諸生ニ診セシメ習熟セシム、其講例ハ、諸書皆原文ヲ用ユ、解説ハ一家ノ注ヲ定メテコレヲ取り、講師己ノ所見ヲ説トキハ、據トコロノ解説了テ後之ヲ及ホスナリ。其人ニハ總理アリ。家政一切ヲ掌ル。儒士井上爾燾ナト都講アリ。講會ノコトヲ日々司ル。教授、毎旬句讀ヲコレニ充テラレシトアリトソ。 藥園監アリ。書記アリ。學舍諸生ハ三等ニ分テリ。治學兼備ヲ上等トシ、治足りテ學不足ヲ中等トシ、學足り治不足ヲ下等トス。辨事アリ。館中一切藥物書籍錢穀ノ計ヲ掌ル。童子アリ。驅役ニ各其任ヲ守ル。其規條ハ、講堂都講學舍諸生學舍食堂文庫各其壁ニ揭示セリ。其藏書ハ、古今醫書ヨリ經史子集ニ至ル迄コレヲ藏蓄シ、總理コレヲ司リ、生徒ノ借覽ニ備フ。其祭祀ハ、春秋二仲ヲ用ユ。此皆曾祖考ノ定メラレシ所ナリ。金眼井先生ト商量アリ。リント、藥表ニ見ユ。蓋其歲ノ四月十日醫學取立ノ願ヒヲ上ラレ、五月九日ニ允玉ヒテヨリ、亟ニ土木ノ功ヲ起サレ、十一月九日ニ開了リケルトソ。翌年曾祖考世ヲ去リ玉ヒ、七十 祖考家ヲ嗣テ更ニ勉勵シ玉ヒシ故、明和五年六月學館相續テ、爲ニ助成町屋鋪ヲ賜ヌ。其後壬辰○安永元年。ノ大火ニ醫學館モ回祿セシカハ、再造築ナシ、講堂モ前ヨリ廣ラレタリ。講堂ハ舊制ヲ擴ケテ七十疊シキニテ、後ハ凡ソ三四倍ナリ。斯ク張皇ヲ加ヘラレケレハ、學舍ニ至テハ、其教猶未タ備ラサル故、天明四年甲辰ヨリ百日教育ノ學始レリ。其法格ハ、二月十五日ヨリ後百日ノ間、有志ノ生徒ヲノ學塾ニ入テ勤學セシメ、マタ外來ノ生徒モ日々講授ヲ聽コフ得セシメ、學舍ハ三楹ニテ、楹四席ニ分チ、每席十六人、凡テ一百人ヲ限トシ、一舍ニ舍長二人アリ、外ニ監察四人アリテ、總理共ニ學政ヲ督理ス。館主ヲ始總理監察日時ニ舍中ヲ巡檢ス。百日内ハ生徒ノ外出ヲ禁シ、飲酒ヲ慎シム。其勤惰ニ從テ講席班列等ノ黜陟アリテ、

入學ノ時ハ親族ヨリ券書ヲ出シ、總理ヨリ規約ヲ示諭ス。講例ハ舊式ニ遵ヒ、六部書ヲ定トシ、先教論ハ素問ヲ講シ玉ヒ、山田圖南桃井陶庵ハ傷寒論ヲ講シ、陶庵ハ田沼侯ノ醫ナリ。 目黒道琢ハ內經難經等、彌忽公是ナリ。其門人曾根惟中西村玄周代講ス。 服部玄廣ハ靈樞、清水公、醫ナリ。 加藤俊丈ハ難經、市醫。 田村元雄太田長元ハ本草、曾根昌啓小坂元祐岡田道民ハ經絡ヲ講セリ。道長ハ井伊侯ノ醫ナリ。 儒家ニハ、金峩先生、吉田篁墩、龜田鵬齋、繼テ錦城先生皆講アリ。大抵百日中一部ノ書ヲ卒業セリ。日々三人宛講授セリ。内外ノ諸生總テ二三百人ニ及ヘリ。皆五ニ研究ノ辯難セシトソ。更ニ一百日中施藥アリテ、診治ノ法ヲ習シメ、醫案會アリ。百日中廿會。疑問會、中三會。 藥品會、百日中一次。 蓋其約極テ嚴ニテ、教育ノ方具備セストイフコトナシ。但此舉ハ甲辰○天明四年。ヨリ丁未○天明七年。迄僅ニ四年ニシテ、凡テ學校ノ費用ハ、毎年藩醫市醫ヨリ寄附銀アリ、一人ニ銀一匁。 助成地アリト雖、給足スルニ至ラス、況ヤ造築ノコトヨリ教育等ニ及テハ、其費少カラス、皆私家ノ財ヲ以テ是ヲ補フ。故ニ一時ニ家産モ蕩盡スルニ至レリト。故ニ寛政二年三月再ヒ相續町屋鋪三ヶ所ヲ賜レリ。然ルニ其頃朝野ノ御代改リテ、前白河侯政ヲ執テ舊弊ヲノ糺サレ、從來公ニ醫學ナリ醫官ノ多ハ游惰ナルヲ以テ、私塾ヲノ官岸ニ革ラル、コトヲ、同○寛政三年十月ニ命アリテ、四年政。○寛政正月廿五日開講アリシヨリ、遂ニ官醫習業ノ場トナレリ。 ナレト祖考ナラ其政ヲ掌リテ、其規模モ概テ舊章ニ遵テ聊増損ヲ加ヘラレシノミナリケル。寛政二年庚戌ニ福井立助ヲ徵テ醫官ニ列シ、祿ヲ賜フ。九年丁巳○寛政九年丁巳政。ニ池田瑞仙ヲ徵テ亦醫官ニ列シ、醫學館ニ於テ書ヲ講セシム。十年戊午○寛政十年戊午政。ニ荻野左衛門ヲ徵テ亦、醫學館ニテ溫疫論ヲ講セシカ、故アリテ還シ玉フ。十一年己未○寛政十一年己未政。ニハ蘭山先生ヲ徵テ、祿ヲ賜テ醫學ノ區内ニ宅ヲ作り書ヲ講セシメ、此四人ハ皆京師ニ在リシヲ祖考先考ノ建白セラレテナリ。斯ク他方ヨリモ俊秀ヲ拔擢アリシユヘ、醫官ノ

子弟モ激發ノ、一時ニ人才ノ勃興セシモ宜哉。○中
醫學館一件

醫學館 明和二乙酉年五月九日奥醫師多喜安元願により、神田の地に醫學館を建、諸醫の子弟をして業を受しむ。安永元壬辰年二月火災にかゝり、私財を以て再建。同○安二癸巳年諸醫より寄附の銀を出すへき御觸あり。寛政三辛亥年御改正有て、公儀の醫學館となる。此時より藩醫町醫の教育を停めらる。今年より町屋敷一ヶ所を御寄附あり。文化三丙寅年三月佐久間町の學館焼て、同年下谷新橋邊に移され再建あり。○御書 附留

——日本教育史資料

〔附記〕 佐竹義忠ノ出仕ヲ停ム

廿九日○明和二乙酉年五月○中略。この日、佐竹壹岐守義忠出仕を停めらる。是は家士去し三月○明和本邸のあたりにて、往來の人を劫し、衣服はぎとりしことたびくなり、是またく家政ゆるがせよりいたすところとの咎なり。

——浚明院殿御實紀

六月六日庚戌 ○明和二乙酉年(紀元二四二五年)○庚戌三正終覽。大番組同心大繩地中ノ上收地ヲ還附ス。外ニ是月

屋鋪受授 屋鋪若干ヲ受授ス。○屋鋪渡預給圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。寛政呈請。

屋鋪受授事 屋鋪受授ノ明和二乙酉年六月ニ在リタル者ヲ列記ス。

圖略○

下谷 嶋田傳左衛門上り地 坪數百三拾三坪九合。

東 道。關軍次郎。北 道。安藤忠右衛門。
南 五間三尺餘。西 六間。
南 二十四間。北 二十三間。

大番組同心組屋鋪 下谷立花左近將監居屋鋪後大御番藤堂肥後守組同心嶋田傳右衛門上り地、右組屋鋪大繩之内ニ御座ゆニ付、御請取、直ニ右組ニ御差戻し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年六月六日

藤堂肥後守組與方 岩淵加藤 太印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。右立會相改差三戻之。

圖略○

深川小名木川 一色安藝守○改。下屋鋪 坪數貳千坪。
東 道。牧野越中守(久左衛門新田)。北 道。新庄越前守。
南 河野勘四郎。西 新庄越前守。
東 三十間。北 六十六間。
南 六十七間二尺。

深川小名木川通松平備中守殿上ヶ地割殘之内、今度願之通一色安藝守下屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。御留守居一色安藝守内 野江平馬印

明和二乙酉年六月十五日

淺野備前守渡レ之。

般 昌 期

附記 佐竹義忠ノ出仕ヲ停ム

屋鋪受授

屋鋪受授事

大番組同心組屋鋪

一色政沅

川崎彦兵衛。玉置丈太夫。岩田惣右衛門。中村左次郎。
棟梁、五人。

圖略。

青山善光寺裏通り 山崎幸左衛門上ヶ地 坪數百坪。

東 上野幸右衛門。道。
南 小川淺六。北 町田三治郎。
西
東 五間一尺。
南 二十間。北 十九間五尺。

青山善光寺裏通山崎幸左衛門上ヶ地、拙者に被成御預、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ゆ。爲後日仍如件。

町田三次郎

明和二乙酉年六月廿三日

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改預之。

吾孫子丈助。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

小普請組有馬采女組
町田三次郎印

屋鋪渡預繪圖證文

御留守居
一色安藝守

屋敷書拔

明和二乙酉年
六月十五日渡。松平備中守上ヶ地割殘之内
一、深川小名木川通貳千坪
但、下屋敷二渡。内下水共。

明和二酉年六月廿二日

右京大夫殿○松平常阿彌を以御渡被成ゆ。

御普請奉行。

天野政庸
保木朝景
春日利恭
志村師智
本多安秀
長田繁應
田村幸忠
依田信久
青木信實
陸山廣迢
内藤長政
永持勘右
風祭國辰

保木伊左衛門拜領屋敷
小日向築土明神下五百貳拾三坪
天野清右衛門拜領屋敷
四谷内藤宿新屋敷四百八拾坪餘
志村新左衛門拜領屋敷
澁谷四百坪
春日猪左衛門拜領屋敷
本郷天澤寺表門前五百坪
長田秀次郎拜領屋敷
表四番町貳百七坪
本多彌五右衛門拜領屋敷
市ヶ谷加賀屋敷三百三坪
依田又十郎拜領屋敷
北本所三四之橋之間四百貳拾坪
田村久次郎拜領屋敷
小日向江戶川通四百坪餘
陸山外記拜領屋敷
駒込土井大炊頭上ヶ地之内四百坪
青木彌七郎拜領屋敷
下谷貳丁町九百貳拾四坪
永持勘右衛門拜領屋敷
本郷丸山本妙寺前七拾坪餘
内藤主膳拜領屋敷
本郷天澤寺前横町五百坪之内百五拾坪餘
吉田安之助拜領屋敷
本郷金助町新道五百坪

殷昌期

御小性組小笠原越中守組
天野清右衛門○政
大坂御具足奉行
保木伊左衛門○朝
西丸御小性組永安藝守組
春日猪左衛門○利
志村新左衛門○師
御書院番伊澤播磨守組
本多彌五右衛門○安
小普請組土岐大學支配
長田秀次郎○繁
御書院番金田能登守組
田村久次郎○幸
大御番大岡越前守組
依田又十郎○信
御書院番大久保豊後守組
青木彌七郎○實
御代官
陸山外記○廣
新御番北條安房守組
内藤主膳○長
小普請方吟味役
永持勘右衛門
御代官
風祭甚三郎○國

吉田春良
櫻井政房
庵原時盛
生田堯和
大類久方

風祭甚三郎拜領屋敷
澁谷斧橋貳百坪
庵原與五郎拜領屋敷
巢鴨火之番町貳百三拾坪餘
櫻井友之助拜領屋敷
牛込若宮八幡四百六拾三坪
大類次郎助拜領屋敷
本所吉田町横町貳百貳拾坪餘
生田長吉拜領屋敷
本所石原埋堀百八拾坪餘

小普請組堀三六郎支配
吉田安之助○春良
同妻木平四郎支配
櫻井友之助○政房
同市橋大膳支配
庵原與五郎○時盛
同堀三六郎支配
生田長吉○堯和
支配勘定
大類次郎助○久方

右之通屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致ゆ。
春良 ○安之助。七郎右衛門。
吉田 ○吉田。

——相對替御書附書拔

明和二酉年六月廿三日本郷金助町屋敷卜麻布斧橋風祭甚三郎屋敷卜、願之通相對替。
久方 ○次郎助。幼名權太郎。次郎兵衛。

同年 ○明和二酉年。五月數寄屋橋久日比谷御門迄御堀浚御用勤節、同 ○明和二酉年。六月廿三日本所屋敷住處、小普請組堀三六郎支配生田長吉屋敷本所石原町埋堀百八十坪餘之處、相對替被仰付、同 ○明和二酉年。七月二日右屋敷引移。

時盛 ○與五郎。○庵原。

明和二酉年三月巢鴨火之番町拜領屋敷を、牛込若宮小普請櫻井友之助屋敷を、相對替奉願、六月願之通被仰付。

——寛政呈譜

靈岸橋際其他築墳事蹟

晦日甲戌 ○明和二酉年(紀元二四二五)年六月○甲戌(三正綜覽)。

靈岸橋際川口 ○市内京橋風。

ヲ埋築シ、是日 ○明和二酉年(紀元二四二五)年六月晦日。之

靈岸橋際其他築墳事蹟

ヲ町奉行支配ニ屬ス。此頃外ニモ築墳シタル處有リ。○屋鋪渡領繪圖。○證文武江年表。

靈岸橋際其他築墳 市人ノ請ニ依リ、堀浚ノ揚土ヲ與ヘテ填築用ニ充テシムルコト、既ニ記ス所ノ如シ。靈岸橋際其他ノ埋立地ハ、實ニ謂フ所ノ揚土ヲ以テ填築シ成リタル者ナル可シ。

圖略○

靈岸橋際 坪數千四百四拾坪餘。
東北 有來道。西南 新川口。
西北 川。東南 入堀。
東北 貳十五間四尺五寸。西南 十八間四尺。
西北 六十三間四尺。東南 六十三間四尺。

靈岸橋際川口埋立場所、此度町奉行方ニ被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年六月晦日

依田豊前守組與力
後藤三郎兵衛印
土屋越前守組與力
遠藤市郎右衛門印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内岩田惣右衛門。
右立合相改渡レ之。棟梁、五人。

圖略○

坪數百九拾坪餘。

東北 道。西南 橋。
東南 藏地。西北 川。
東北 西南 各三間一尺五寸。
東南 西北 各六十間餘。

股 昌 期

同 坪數百九十二坪程。

東北 道。西南 橋地。

東南 西北 藏地。

同 東北 西南 三間一尺五寸。

東南 西北 五十九間餘。

同 東北 西南 道。藏地。

東南 西南 各三間一尺五寸。

龜井町元岩井町岩井町上納地迄川内左右河岸埋立場所、此度町奉行方に被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、請取申ひ、爲後日仍如件。

明和二乙酉年七月廿日

依田豐前守組與力
中山源右衛門印
土屋越前守組與力
村權藏印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改渡之。棟梁、五人。

圖略。

坪數六拾五坪。橋本町一丁目河岸通り近所。

同 六拾壹坪餘。龜井町。

同 八拾六坪餘。小傳馬町。

同 八拾六坪餘。龜井町。

同 五拾五坪。馬喰町一丁目。

同 五拾五坪。通油町。

小傳馬町馬喰町龜井町橋本町川内左右河岸埋立場所、此度町奉行方に被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年七月廿二日

依田豐前守組與力
後藤三郎兵衛印
土屋越前守組與力
安藤新次郎印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。
右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年

六月晦日渡。川内埋立場所

一、靈岸橋際千四百四拾坪餘

七月廿日渡。龜井町元岩井町岩井町上納地迄川内左右河岸埋立場所

一、神田四百拾坪餘

七月廿二日渡。川内左右河岸埋立場所

一、小傳馬町龜井町 四百八坪餘

馬喰町橋本町 四百八坪餘

同 五拾五坪。馬喰町一丁目。

同 五拾五坪。通油町。

靈巖島邊 西之方靈巖橋通川筋限、南之方東邊町河岸通、東之方大川通限、北之方新川迄之内、向寄道敷共。

一、○中 享保十二年湊橋より靈巖橋迄之内南側、字湊橋之方に寄、有來河岸地間口拾貳間上納地二成、町屋出來。同○享 十九寅年同續靈巖橋之方間凡貳拾壹間、川内埋立同斷町屋出來。

一、明和二酉年右新地町屋南續靈巖島町河岸附之處、新川入口際迄、川内埋立、新地町屋出來。當時蝦夷地會所迄。

殷 昌 期

右埋立地東通有來河岸地間幅六間之入堀出來、橋貳箇所掛渡、靈巖島町より右新地町屋間通新道貳箇所出來。

御府内往還其外沿革圖書

明和八卯年十二月十四日松平右近將監殿の上分共一所ニ水野出羽守の上ル。

靈岸橋際埋立地請負取放跡請負申付儀ニ付申上書付

曲淵 甲斐 守

請負人 靈岸橋際埋立地 四郎 證人 巢鴨町家持 左衛門

右々、依田豊前守勤役中、伺之上七年以前酉年^{○明和二年}靈岸橋際川内埋立被仰付、去寅年^{○明和七年}より地代壹ヶ年金四百五拾兩宛年々上納之積、右半四郎請負罷在在處、去年^{○明和七年}初納分納方不埒ニ付、吟味仕在處右地面不殘建込在、右地代金上納之方引合得共、當時迄も過半明地有之、上納金格別不足仕、辨納多相成甚難儀仕旨申立。併初納分納方不埒ニ御座在、外々にも相響儀ニ御座在間、嚴敷申付、去年^{○明和七年}之儀之漸皆納仕在處、當七月^{○明和八年}可相納分金貳百貳拾五兩又相滯、差當上納可仕手段無之旨申立ニ付、町年寄にも申付、地面之様子等得と爲相糺在處、前書之通、當時ニ過半明地有之、上納金引合不申段ハ無相違趣ニ御座在得共、實々難相納儀ニ御座在、先達も其段申立敷、去年^{○明和七年}分皆納仕在節、請負御免相願儀之格別之儀、誠々五ヶ年之内無上納ニ追々少々宛も地面貸附、相應之助成有之在處、右之通上納相滯在段不埒之旨、猶又吟味仕在處、右地所築立之節過分之用相懸り、其上地面借受人無敷、當時上納之手段一向無之在間、難儀も御座在得

也、請負外ニ申付、右地所取上ニ相成可申立様無之旨申立ニ付、證人次郎左衛門呼出、上納金引請之儀吟味仕在處、地代格別之不足故、難儀ニ御座在得共、證人之儀故難敷止奉存、當七月^{○明和八年}迄之不納金高不殘引請、此度皆納在、其以後出積仕、無滯上納可仕旨申立ニ付、半四郎請負取放、先達も次郎左衛門證人ニ相立在節、證據ニ差出置在同人所持之屋敷を直々引當ニ爲差出右次郎左衛門ニ跡受負申付。請負人相替り儀ニ御座在間、此段申上置。以上。但、證人次郎左衛門儀、是迄之請負金高を以引請在間、當時上納金高減少仕儀無御座在得共、本文ニ申上通、右地面借受在もの無敷在段ニ相違無御座在代金上納高を引合不申、此上實々上納差支在趣ニ御座在、其節尙又吟味仕申上様可仕。

卯^{○明和八年}十二月

曲淵 甲斐 守

明和九辰年十一月廿三日 松平右近將監殿 水野出羽守殿 上ル。

靈岸橋際埋立地請負取放跡請負申付儀申上書付

曲淵 甲斐 守

家主 本銀町壹町目 兵衛 同 喜兵衛

右々八年以前酉年^{○明和二年}御堀浚土を以靈岸橋際川内埋立被仰付、去々寅年^{○明和七年}分地代金壹ヶ年四百五拾兩宛、年々上納之積、深川六間堀町家主半四郎と申もの、巢鴨町家持次郎左衛門證人ニ相立、請負罷在在處、初年分納方不埒ニ付、吟味之上請負取放處、證人次郎左衛門儀、證據ニ差出置在屋敷を直々

般 昌 期

引當ニ任、跡請負仕度旨相願ハニ付、右之段去年^{○明和八年}十二月申上置^ハ。其後次郎左衛門病死仕、同人
悴利右衛門儀、桶町家主安兵衛神田九軒町吉右衛門店七兵衛兩人を差加^ハ、引續請負仕度旨申出^ハ間、
其段承届^ハ處、是亦最初^ニ納方不埒^ニ御座^ハニ付、右三人之者共請負取扱申^ハ。然ル處書面之兩人跡請
負仕度旨相願^ハ間、吟味の上、右元請負高壹ケ年金四百五拾兩之積を以、跡請負申付^ハ。請負人相代り
ハ儀ニ御座^ハ間、此段申上置^ハ。以上。

但、此度申付^ハ請負人共は追^テ相應之家持證人差出^ハ迄爲證據金貳百五拾兩差出置度旨申立^ハニ付、
町年寄方^ニ上ケ置申^ハ。追^テ家持證人相立^ハハ、右證據金相下ケ遣^ハ様可^ハ仕^ハ。

辰^{○明和九年}十一月

曲淵 甲斐 守

明和撰要集

明和二四年御郭外御堀浚有^ハ之^ハ。若年故院と覺不申^ハへとも、吳服橋外御堀は、松平内藏頭殿御手傳
丁場にて、御堀之内には水車を仕懸水を漑、幅太人足は土運^ハ、其人夥敷、河岸通には關板を致し、土
を山の如く積揚、右浚土を以、靈岸橋際請負地の後通り、靈岸橋より新川入口一の橋の際迄、川中を中
川半四郎と云請負人埋立。今靈岸橋埋立地是也。埋立^ハ砌、和らぎ故にや、俗にこんにやく島といふ。
地面堅め^ハ爲、茶見世輕業小芝居豆藏等出、殊之外群集い^ハさ^ハし^ハ。中にも松川鶴市といふ非人、三芝居
役者身振口和色いた^ハし^ハ。彼は非人にて身振の元祖也。殊之外賑か^ハにて、夏氣は夜も涼人にて群集い^ハ
し^ハ、地面も堅り、賣女屋引手茶屋^ニと出來、追々建込、白晝は容易に通^ハ難^ハ程に有^ハ之^ハ。寛政三年
の比より追々さびれ、其後同七卯年所々賣女屋は不及申、寺社門前地等、悉く取拂^ハに相成^ハ砌、此

こんにやく島も取拂被^ハ仰付^ハ。先其あらま^ハしは、赤坂氷川の社地、芝神明、本所回向院前、一ツ目辨
天門前、此二箇所を猫といふ。深川八幡の御旅所、下谷山下廣小路裏表、竹町、長者町、御數寄屋町、
此五箇所をケコロといふ。淺草に朝鮮長屋、本郷丸山、市ヶ谷八幡の社地、並愛敬稻荷、麻布藪下、大
略是等の分取拂^ハ被^ハ仰付^ハ。其外にも可有^ハ之^ハ得^ハとも、聞及^ハひ^ハは荒増如此^ハに^ハ。當時は菟島
住居^ハ者は僅にて、皆石置場と罷成^ハ。且又其比兩國今不動の前通りより、大川之方之横堀へ入堀あり。
これを藥研堀といふ。米澤町へ渡る橋を尼か橋といふ。此堀御堀浚の土を以埋、橋の有^ハし所は、今往來
の道と成、兩面屋しきの町家と成て、今藥研堀埋立地と云是也。これも埋立^ハ砌は、茶見世豆藏曲馬^カ
と出、殊之外賑^ハひ、群集い^ハさ^ハし^ハ。

親子草

平井新田^{○西葛西領}

平井新田ハ、昔海中ノ干潟寄洲等ナリ、後年追々築立地トナリ、^{○中}江戸大繪圖附說ニ云、平井新田新
開場總坪數凡二十萬坪餘、新土手凡長千間^{或ハ十七町餘ト云}。高一丈二尺、敷六間、馬踏二間、明和二年六月十七
日ヨリ同年^{○明和二年}十一月二十二日ニ至テ成トアリ。是同年^{○明和二年}御堀浚アリシ時、其土ヲ以テ築立シモ
ノナリ。爰ハ滿右衛門ト虎五郎ト云モノ願上テ新墾シ、彼レ等カ氏平井ト號スルヲ以テ、直ニ新田ノ名
トセリ。

新編武藏風土記稿

六月^{○明和二年}より、平井滿右衛門といふ者、深川洲崎の東に潮除土手長十七町餘高一丈二尺、敷六間馬踏
貳間を築立、新に甘萬坪餘の地を開き、翌^{○明和三年}七月廿四日より鹽を焼始む。この所を平井新田とい
ふ。江戸より見物の人夥かりしが、安永にいたり間もなく止たり。<sup>此所遊觀の所となりて、大紋屋
といふ料理屋も出來て行れたり。</sup>

附記
朝鮮賀使
ヲ停ム

〔附記〕朝鮮賀使ヲ停ム

浚明院殿御實紀云フ、

三十日○明和二年六月宗對馬守義蕃に仰下さるは、こたび若君生れ給ひしをもて、朝鮮國慶賀の使こそすべきはもとよりの事なれど、御繼統を賀し奉りて信使奉りしに、間もなく、ことさら彼國凶荒うちつゞき國用たらざる聞えあれば、特旨をもて來聘のをとゞめ、かの國の譯官を對馬の地にいたらしめ、賀儀のときこえ上べし、これまかしながらが艱困を仁恕し給ひて命ぜらるゝ御旨なれば、後のためしとなすべからず、よりにては譯官を對馬の地にいたらしむること、遲滞に及ぶまじといふことを、彼の國に申送るべしとなり。然れどもこれより永例となれり。

七月二日丙子

○明和二年(紀元二四二二年)五月(紀元二四二五年)七月

外ニ屋鋪若干ノ預

ヲ見ル。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書抜。

屋鋪預 明和二年七月左ノ屋鋪預有リ。

圖略○

青山 山崎幸左衛門上ケ地 坪數百坪。
東 上野幸右衛門。道。
南 小川淺六。北 町田三次郎。
東西 五間壹尺。北 十九間五尺。
南 貳十間。

屋鋪預

屋鋪預事蹟

安藤久五郎

青山善光寺裏通り山崎幸左衛門上ケ地、拙者に被成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座ニ御預申。爲後日仍如件。
小普請組有馬采女支配
安藤久五郎 印

明和二乙酉年七月二日

淺野備前守内川島彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改預レ之。

服部七右衛門。中村長藏。富山傳次郎。中村信藏。

圖略○

市谷新本村 渡邊安之丞上ケ地 坪數三百七拾六坪。
東 御先手松平源五郎組矢場。西 高田久之丞。
南 松平中務大輔。北 道。

東 十九間壹尺。西 十九間三尺。
南 十九間二尺。北 十九間二尺。

市谷新本村渡邊安之進上ケ地、御先手組屋鋪大繩之内ニ御座ニ付、御請取、直ニ右組に御差戻ニ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和二乙酉年七月八日

淺野備前守内河崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。
右立合相改預レ之。

圖略○

淺草元鳥越 小川孫市上ケ地 坪數百四拾坪。
殷昌期

御先手組屋鋪

東 道。三筋町通。
南 山田桑五郎。北 井上仙右衛門。
東西 各七間。
南北 各十間。

淺草元鳥越三筋町中通り小川孫市上ヶ地、拙者に被成御預之、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申ゆ。爲後日仍如件。

加藤忠七

大御番米倉丹後守與力
加藤忠七郎 印

明和二乙酉年七月十一日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改預レ之。

圖略○

下谷貳丁町 長坂市右衛門上ヶ地 坪數貳百拾坪。

東 丸橋茂八、赤林忠右衛門。西 白石八之助。
南 道。北 道。

東西 三十二間貳尺。
南北 六間三尺。

下谷貳丁町長坂市右衛門上ヶ地、拙者に被成御預之、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ゆ。爲後日仍如件。

阿部市十郎

明和二乙酉年七月廿三日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改預レ之。

——屋鋪渡預繪圖證文

小普請組堀三六郎組
阿部市十郎 印

七月二日預。山崎幸左衛門上ヶ地
一、青山善光寺裏通百坪

七月十一日預。小川孫市上ヶ地
一、淺草元鳥越三筋町百四拾坪

明和三戌年六月廿一日大繩地二付、元組に差戻。

七月廿三日預。長坂市右衛門上ヶ地
一、下谷貳丁町貳百拾坪

小普請組有馬采女支配
安藤久五郎 預地。

大御番米倉丹後守與力
加藤忠七郎 預地。

小普請組堀三六郎組
阿部市十郎 預地。

——屋敷書拔

新曆調所

新曆調所事

三日丁丑 ○明和二乙酉年(紀元二四二五年)七月○丁丑(三正綜覽)

幕府新曆調所ヲ牛込藁店

○市内牛込區。

ニ開ク。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。

新曆調所 幕府ノ天文臺ハ、初牛込藁店ニ設ケ、延享中神田佐久町ニ移シ、後之ヲ廢スルコト、既ニ之ヲ記ス。是ニ至テ再ヒ之ヲ牛込藁店ニ置キ、新曆調ヲ開始ス。前々年曆面日蝕ヲ載セサル如キコト有リ。之ヲ改訂セムトスル也。

圖略○

牛込藁店 新曆調御用屋鋪 坪數千拾五坪。

東 明地。西南 山田茂平(南角、新道)掛番。
東南 牛込藁店通り。西北 明地。

東北 二十間。西南 二十壹間三尺。
東南 五十間貳尺。西北 四十七間三尺。

此度牛込藁店明地之内ニ、新曆調御用屋鋪地面被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年七月三日

殷昌期

御作事方御徒假役
濱田三次郎 印

同所勘定役
江原源五郎印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内岩田惣右衛門。
右立合相改渡之。

牛込薬店新曆調御用屋鋪地面、先達を請取申内、右繪圖面掛紙之通不用二付、此度差上申内。地所御伺之上、新道ニ被仰付内旨、被仰渡、奉得其意内。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十月七日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内岩田惣右衛門。

屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年

七月三日渡。明地之内
一、牛込薬店千拾五坪

但、新曆調御屋敷ニ渡ス。

御作事方御徒假役
濱田三次郎
勘定役
江原源五郎

屋敷書拔

牛込之内 東之方薬店横丁迄西之方末寺町横丁限南之方御籠町邊迄北之方神樂坂通式限 向寄道式共

略。上。明和二酉年七月明地之内薬店坂上之所、測量調御用屋敷出來。同。中。同。明和二酉年五月。十月測量調御用屋敷續明地之内、佐々木文次郎御預地ニ成。略。中。天。明二寅年十月測量調御用屋敷上地ニ成。

御府内往還沿革圖書

此時ノ新曆修補ハ、浪人佐々木文治郎ヲ徵用シテ之ヲ主任セシメシ者ノ如ク、相傳ヘテ左ノ如ク見ユ。

十九日 明和元年十一月〇中略。

御右筆部屋縁頼

天文方被仰付並之通
貳百俵被下置

右之通被仰付内旨、老中列座、同人 〇松平 申渡之。

浪人
佐々木文次郎

明和元録

多賀外記組御徒
佐々木文次郎
後改吉田四郎三郎

寛延三庚午年二月二日澁川六藏西川忠次郎在京中、只今迄之通自宅ノ測量所ニ通ひ内、忠次郎悴西川要人曆作手傳手勤様被仰渡、寶曆二壬申年八月十五日向後御用も無之内間、測量所ニ罷出内不_レ及旨被仰渡、明和元甲申年十一月十九日被召出、天文方被仰付、新規御切米貳百俵被下置旨、於御右筆部屋縁頼御老中御列座、松平右京大夫殿被仰渡同。明和二乙酉年二月廿二日補曆御用ニ付京都ニ御暇被下、拜領物被仰付旨、於躑躅之間被仰渡、白銀拾枚時服貳頂戴仕、同年 〇明和二年 三月御當地出立、上京仕、御用向相濟、同年 〇明和二年 五月歸府仕、同月 〇明和二年 十五日歸府御目見被仰付、同年 〇明和二年 六月廿八日牛込光照寺門前火除地ニ新曆御用所御取建被仰付、同年 〇明和二年 七月朔日新曆調御用相勤内、御役扶持七人扶持被下置、手附手傳五人下役四人被仰渡、同年 〇明和二年 八月御普請出來、右御用相勤、明和六己丑年歴法修正成就ニ付、修正寶曆甲戌元曆法全部拾卷壹帙、同解儀貳卷壹帙、同曆法新書續録貳卷壹帙、各都拾四卷三帙、同年 〇明和七年 十二月廿七日差上内、同 〇明和七年 七庚寅年四月今般新曆調御用相勤内ニ付、拜領物被仰付旨被仰渡、金三枚頂戴仕、右新曆御用相勤内得共、引續測量御用相勤可_レ申旨被仰渡。

——天文方代々記

牛込袋町○中

弘化四年十月岡田泰助○中天文方澁川手附之者に問合ひ答書。

天文方西川忠次郎弟子、多賀外記組御徒

佐々木 文次郎

明和元年十一月十九日被召出、天文方被仰付。同○明二年六月廿八日牛込光照寺門前火除地の新曆調御用所御取建被仰付。同年○明八月御普請出來、安永九子年本苗吉田と相改。天明二年五月測量所立木茂り御差支二付、淺草片町裏通り明地の御引替、同年○天十月御普請出來。

——文政町方書上

〔參考〕 明和元錄二、

十九日○明和元年十一月

申渡之覺

澁川 圖書

山路 彌左衛門

去年九月朔日の蝕曆面ニ不相記の二付、其節相尋ひ處、三分以下之蝕之曆面ニ記問敷之旨、土御門家より被申渡の由ニ付不相記の段、書付差出の。依之土御門家に相尋ひ處、測量中諸同等修覆之儀、土御門家於御用場、其方共之被申聞、日記ニも相記の由。左のへ先達を土御門家より三分以下之蝕記相同等、御返答も無之の段の其方共、存可罷在の。左のへ先達を土御門家より三分以下之蝕記ニ不及段、殊ニ去年○寶曆日蝕之節、尙又其まらへも可仕處、無其義、三分以下之蝕記ニ不及段、

土御門家より被申渡の由、存知込罷在、其上去年○寶曆日蝕推考も致相違、旁不念之至の。依之御目見遠慮被仰付の。

右之趣、松平攝津守○忠宅ニおゐて、御目付松平庄九郎立合、攝津守申渡之。

——明和元錄

貨幣鑄造

八月二日乙巳

○明和二年(紀元二四二五年)乙巳、三正綜覽。

是頃幕府鐵錢ヲ龜戸村

○市内本所區。

ニ鑄ル。

○正寶事錄。武江年表。貨幣秘錄。明和錄。

尋デ五匁銀貨ヲ鑄ル。

○明和錄。凌明院殿御實紀。正寶事錄。泰平年表。貨幣秘錄。大日本貨幣史。

貨幣鑄造 龜戸村ニ鐵錢ヲ鑄ル。

西○明和二年 八月二日

樽屋ニある年番名主へ被申渡

當時世上錢拂底ニある、末々難儀之趣ニ付、此度金座へ鑄錢定座被仰付、於本所龜戸村、當年○明和當年○明和より

り錢吹立の様、被仰渡の間、爲心得被仰聞の旨、町御奉行所より被仰渡の。

——正寶事錄

右之通被仰渡の間、町中不殘入念可被申聞の。

——武江年表

○明和二年四月ノ條。 龜戸村にて、鐵錢を鑄さしめらる。

明和二年乙酉七月後藤庄二郎に命せられ、龜井戸村にて六千四百坪の地所を賜ひ、鑄錢定座を立られ、其年九月十五日より吹方を始む。一ヶ年吹高貳萬貫文つくと定らる。安永三年丙午九月に至りて鑄錢座を廢せらる。凡十年。此間鐵錢吹高二百二十六萬二千五百八十九貫文餘。重サ各七分六厘餘。

按に此間追々に吹高を増れし事あり。

——貨幣秘錄

殷 昌 期

貨幣鑄造事蹟

十六日 ○明和四年
十二月○中略

銀十枚。

同七枚。

同五枚。

右鐵錢座見廻相勤いニ付

右之通被下之旨、右近將監 ○松平
武元 申渡之。

五匁銀鑄造ハ、

四日 ○御實紀二月。○明
和二年九月○中略

此度文字銀同位ヲ以、掛目五匁ニ定りハ銀吹立被仰付ハ間、有來丁銀小玉銀取交、渡方請取方、無滯可致通用イ。

右之趣、國々ハ可觸知者也。

——明和錄

九月朔日 ○明和二
年○中略。けふ令せられしは、こたび五匁銀を新に鑄させられしにより、有來る錠銀零銀にまじへて、とどこほることなく通用すべしとなり。

——凌明院殿御實紀

此度文字銀同位を以、掛目五匁ニ定り銀、吹立被仰付ハ間、有來る丁銀小玉銀ニ取交、渡方請取方等、無滯可致通用イ。

右之趣國々ハ可觸知者也。

九月 ○明和
二年

御勘定 六左衛門
同 篠木 半兵衛
支配勘定 西川 柳忠次郎

右之通り可被觸い。 九月 ○明和
二年

右酉 ○明和
二年。九月三日御觸、町中連判、同 ○明和
二年九月。六日喜多村納。

——正寶事錄

同 ○明和
二年九月。四日、五匁銀通用被仰出。

——泰平年表

明和二年乙酉九月新たに五匁銀を鑄る。丁銀小玉銀に取交通用すへき由命せらる。 ○中
略

五匁銀、一枚重サ五匁三厘、銀二匁三分一厘餘、銅二匁六分八厘餘。 ○中
略

古文字銀、五十二萬五千四百六十五貫九百目餘。内五匁銀、三十六萬二千二百八十枚。此銀千八百十七貫

二百三十八匁四分。

——貨幣秘錄

明和二年五匁銀貨ヲ鑄造ス ○中
略

是歲銀貨ヲ鑄造ス。世ニ之レヲ五匁銀トイフ。 ○國家金銀鑄造
金銀圖彙。九月 ○明和
二年。令シテ曰ク、今回新夕ニ重五匁

ノ銀貨ヲ鑄造ス。依テハ世ニ通行スル所ノ丁銀小玉銀ト共ニ雜ヘ行ヒ、滯ル勿レ。 ○憲法
部類

謹按、舊貨幣表ニ據レハ、五匁銀鑄造ノ總額千八百零六貫四百目ナリ。其貨率ハ、大凡百分中銀四

拾六分、銅五拾四分ナリ。

明和二年ヨリ安永元年マテヲ五匁銀鑄造年限トス。

——大日本貨幣史

五日戊申 ○明和二年(紀元二四二五年)
八月○戊申、三正綜覽。幕府増上寺台徳院靈屋 ○市内
芝區 ヲ修理シ、老中高崎 ○上
野國。

城主松平輝高 ○右京
大夫 ヲシテ之ヲ總督セシム。七日庚戌 ○明和二年(紀元二四二五
年)八月○庚戌、三正綜覽。作事奉行

正木康恒 ○志
摩守。目付新庄直宥 ○織
部 命ヲ受ケテ奉行ス。十三日丙辰 ○明和二年(紀元二四二
五年)八月○丙辰、三正

亦掛員ノ任命有り。十月六日戊申○明和二年(紀元二四二二年)○戊申三正綜覽。外遷座シ、三年丙戌○明和四年(紀元二四四年)○丙戌三正綜覽。

六月五日癸卯○癸卯三正綜覽。正遷座ス。十一日己酉○明和三年(紀元二四二六年)○己酉三正綜覽。輝高○松平右京大夫。二

賞賜有り。十月十九日丙辰○明和三年(紀元二四二六年)○丙辰三正綜覽。供養シ、二十四日辛酉○明和三年(紀元二四二六年)○辛酉三正綜覽。

正綜覽。康恒○正木志摩守。直宥○新庄織部。ヲ賞ス。○明和二錄。明和錄。渡明院殿御實紀。明和日記。寛政重修諸家譜。

台徳院靈屋修理事蹟

台徳院靈屋修理 始末左ノ如シ。

五日○明和二年八月。

松平 右京大夫○輝高。

右ニ増上寺台徳院様御靈屋御修復御用掛於奥被仰合之。

七日○明和二年八月。芙蓉之間

御目付 新庄 織部○直

御作事奉行 正木 志摩 守○康恒。

右ニ増上寺台徳院様御靈屋御修復御用掛被仰付旨、伊豫守○阿部正右。申渡之。

十三日○明和二年八月。

御右筆部屋縁頼

御作事下奉行 阿久澤 專右衛門

御大工頭 千種 庄兵衛 同 小楠 七十郎

右ニ増上寺台徳院様御靈屋御修復御用掛り被仰付旨、伊豫守申渡之。

六日○明和二年十月。明七日申中刻 増上寺台徳院様外遷座ニ付 御靈屋ニ

御名代

若君様御名代

松平 周防 守○康福。 阿部 伊豫 守○正右。

——明和二錄

五日○明和三年六月。

一、今夕増上寺台徳院様御靈屋ニ正遷座ニ付

御名代

阿部 伊豫 守

右同斷ニ付

秋元 但馬 守○京朝。

大納言様御名代

六日○明和三年六月。御白書院縁頼

傳 通 院○松平秀。

増上寺 方丈

右ニ台徳院様御靈屋御修復出來、正遷座相濟ハニ付、御施物被遺之、爲御禮登城、右近將監○松平武元。謁之。

十日○明和三年六月。

一、増上寺台徳院様御靈屋御修復出來ニ付、參詣之義、勝手次第、無急度御目付申聞ハ。

十一日○明和三年六月。御座之間

時服十。

松平 右京大夫○輝高。

殷 昌 期

右に増上寺台徳院様御靈屋御修復御用相勤ひ二付被下之。
十九日○明和三年十月

一、今卯中刻増上寺台徳院様御靈屋御修復出来、御供養有之に二付

御名代

大納言様御名代

御白書院縁頼

阿部伊豫守
秋元但馬守

増上寺方丈

右に台徳院様御靈屋御供養相濟ひ二付登城、右近將監謁之。

廿四日○明和三年十月○申略

芙蓉間

金三枚。

時服三。

金三枚。

時服二。

御作事奉行

正木志摩守

御目付

新庄織部

右に増上寺台徳院様御靈屋御廟所御修復御用相勤ひ二付被下之。老中列座、右近將監申渡之。

御右筆部屋縁頼

銀五枚ツ。

御疊奉行

小知三右衛門

銀七枚。

同廿枚。

漆奉行

神戶治太夫

御勘定

都筑五郎右衛門

御大工頭

千種庄兵衛

同五枚。

右同斷ニ付被下之、同人申渡之。

躑躅間

銀廿枚。

同拾枚。

支配勘定

水谷祖右衛門

同拾枚。

同拾枚。

右同斷ニ付被下之、松平攝津守○思申渡ス。

焼火間

銀拾枚ツ。

同拾枚。

御徒目付

小川孫七郎

御被官

鈴木孫四郎

丸橋文左衛門

御徒假役

上野吉次郎

高橋藤太郎

御勘定

山田團右衛門

飯田茂八郎

狩野柳雪

御作事下奉行

小楠七十郎

同所

鈴木五郎左衛門

加藤助五郎

遠山傳四郎

細井利右衛門

柳川三郎兵衛

猪瀬

中井庄五郎

世良新四郎

市川三郎次郎

狩野壽石

同五枚ツ。

同五枚ツ。

狩野良信
狩野春仙
狩野洞庭

同七枚。

平内備中

右同斷ニ付被下之、同人申渡之。

明和録

五日○明和二年八月松平右京大夫輝高に、三縁山台徳院并靈廟修理惣督命せらる。

六月五日○明和三年

一、増上寺台徳院様御靈屋御修復出来、今晚酉上刻正遷座ニ付、御名代阿部伊豫守。○正右

一、右同斷ニ付大納言様御名代秋元但馬守。○秋元

銀百枚。

増上寺方丈

同三十枚。

傳通院

同百枚。

増上寺衆僧

右同斷ニ付被下之。

明和日記

七日○明和二年八月作事奉行正木志摩守康恒目付新庄織部直宥に、三縁山台徳院殿靈廟修理を命ぜらる。

七日○明和二年十月三縁山台徳院殿靈廟修理により、外遷座あり。大僧正定月衆僧をひきゐて供養つかふまつ

る。松平右京大夫輝高、寺社奉行土井大炊頭利里、作事奉行正木志摩守康恒、目付新庄織部直宥監臨す。

五日○明和三年六月三縁山台徳院殿靈廟修理成て、正遷座によりて、阿部伊豫守正右代參し、大納言殿よりは秋

元但馬守涼朝代參す。増上寺大僧正定月に銀百枚、傳通院辨秀に三十枚、旅僧へ百枚を給はり、その供

養料に充らる。

十一日○明和三年六月松平右京大夫輝高台徳院殿靈廟修理總督せしをもて、時服十給ふ。

十九日○明和三年十月三縁山台徳院殿寶塔靈廟修理成功せしかば、供養あり。阿部伊豫守正右代參し、大納言

殿の代參は、秋元但馬守涼朝參る。

廿四日○明和三年十月けふ作事奉行正木志摩守康恒金三枚時服三、目付新庄織部直宥金三枚時服二賜はりて、

三縁山台徳院殿靈廟修理を褒せらる。屬吏賜物差あり。

輝高長十郎。佐渡守。右京大夫。從五位下。從四下。侍從。○松平。

三年○明和三年六月十一日、増上寺台徳院殿御靈屋の修造を奉行し、時服十領をかづけらる。

寛政重修諸家譜

〔附記〕 與力同心補缺

九日○明和二年八月けふ仰出されしは、諸隊與力同心等他に轉ずるか、あるは亡命せし跡は、入人をこふ

といへども、相應の者なき時は、延滞に及び、又入人にせられし中には、其つとめにたへざる者もあ

りと聞ゆ、各隸下子弟等のうちにて、父格別の勤功あるか、又は其子も家職の武技を練精せる者あり

といへども、例なき事ゆへに聞えあげざる輩もあるなり、もしざる者あらば、向後憚りなくねがふべ

し、査檢のうへ抱入らるゝ事もあるべしとなり。

浚明院殿御實紀

十一日戊申○明和二年八月屋鋪預有リ。外二是月○明和二年八月屋鋪受授若干。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。寛政呈請。明和二録。

殿 昌 期

附記
與力同心
補缺

屋鋪受授

屋鋪受授 明和二年八月受授スル所ニ、左ノ屋鋪有リ。

圖略。

赤坂寺町 加藤惣右衛門上ケ地 坪數七拾貳坪。
 東 道。 飯田次郎八、山口長次郎。
 南 五間。 西 四間四尺。 北 藤浪勝右衛門。
 東 十五間。 北 十五間壹尺。 川上清八。

赤坂寺町加藤惣右衛門上ケ地 拙者に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

明和二年八月十一日

小普請組有馬采女組 飯田次郎八 印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。

右立合相改預レ之。

服部七右衛門。宇野伊助。中村長藏。富山傳二郎。

圖略。

金田正甫

深川入船町 金田遠江守^市。下屋鋪 坪數千三百七拾壹坪餘。

東 入船町町屋。
 南 六郷源左衛門。 西 入船町町屋。
 東北 三十七間餘。
 西北 三十七間。

深川入船町三枝善右衛門殿天野主計殿兩人上ケ地、并前後之道共、今度願之通金田遠江守下屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數^申。請取申。爲後日仍如件。

明和二年八月廿三日

御側衆金田遠江守内

龜岡半次郎 印

——屋鋪渡預繪圖證文

淺野備前守渡レ之。

明和二年

八月二十三日渡。三枝善右衛門天野主計兩人上ケ地并前後之道共

御側衆 金田遠江守

一、深川入船町千三百七拾壹坪餘

——屋敷書拔

但、爲下屋敷渡。

正甫 金田遠江守。猪之助。又采女。後遠江守。

同年^{明和}。八月十九日、願之通深川入船町ニ下屋敷拜領仕。

忠香^{從五位下。飛騨守。初攝關守。知名松之丞。}

同年^{明和}。八月廿一日若年寄被仰付、若君様に被爲附、同日^{明和二年八月二十一日}外櫻田居屋鋪御用ニ付屋鋪家作共指上、西丸下本多丹後守屋鋪家作共被下置。

——寛政呈譜

廿一日^{明和二年}

酒井飛騨守^忠

^{新シ橋内居屋敷、家作共可差上レ之。}

西丸下本多丹後守居屋敷家作とも被下レ之。

右於與被仰渡之。

本多丹後守^忠

右之西丸下居屋敷家作とも可差上レ、新シ橋内酒井飛騨守居屋敷家作とも被下置、伊豫守^{阿部}傳達之。

——明和二錄

殷昌期

二二七

本多忠興

酒井忠香

上野山内流
鎗馬

九月朔日甲戌

○明和二年(紀元二四二五年)○甲戌(三正綠覽)

上野山内

○市内下谷區

ニ於テ流鎗馬ノ神事有リ。

○明和二年錄
凌明院殿御

實紀。泰
平年表。

上野山内流鎗馬

九日 ○明和二年
八月○中略。

一、左之御書付出ル。

此度上野山内流鎗馬有之節、布衣以上御役人、勝手次第見物ハ様、被仰出。此段向々ハ可被達。

十六日 ○明和二年
八月

上野於山内、流鎗馬有之節、布衣以上、車坂門扉風坂門谷中口門新清水口門之内、向寄ハ罷越、下馬所邊ニテ致下乗侍草履取計召連、凌雲院脇馬場内ハ、見物所ハ罷越、召連ハ供之者ハ、流鎗馬舍後竹矢來内ハ、差遣置事。

一、其外之面々も、是又向寄之門ハ大師堂前通り見物所ハ、召連ハ供之者ハ、本坊角御先手勤番脇竹矢來内、差遣置事。

一、衣服服紗給麻上下着用之事。

一、服穢之儀不苦事。

朔日 ○明和二年九
月○中略。

今日上野於山内、流鎗馬被仰付。

貳。 裝束色朽葉。
馬鹿毛。

御小性
横田筑後守

- 三。 木賊。青色。
- 二。 紅。朽栗色。
- 二。 木賊。木賊。
- 二。 朽栗。朽栗。
- 三。 紅。紅。
- 三。 栗毛。栗毛。
- 三。 鹿毛。鹿毛。
- 三。 朽栗。朽栗。
- 三。 河原毛。河原毛。
- 三。 三クロ青毛。三クロ青毛。
- 三。 黒鹿毛。黒鹿毛。
- 三。 木賊。木賊。
- 三。 栗毛。栗毛。
- 二。 紅。紅。
- 二。 朽栗。朽栗。
- 二。 木賊。木賊。
- 二。 朽栗。朽栗。
- 二。 ヤクリ。ヤクリ。
- 三。 紅。紅。
- 三。 朽栗。朽栗。
- 三。 栗毛。栗毛。
- 三。 ハツコホレ。ハツコホレ。
- 青毛。青毛。

十三日 ○明和二年
九月

時服五。
般昌期

- 同 贊 越前守
- 御小納戸 深澤彌一郎
- 同 岡部庄五郎
- 同 日根野權之助
- 同 丸毛一學
- 同 鈴木數馬
- 御書院番金田能登守組
- 朝比奈一郎左衛門
- 大御番上田能登守組
- 窪田幸之允
- 御書院番伊澤播磨守組
- 小栗又兵衛
- 松平藤九郎支配
- 水野岩吾
- 同人支配
- 近藤久五郎
- 御書院番稻葉紀伊守組
- 水野數馬
- 同金田能登守組
- 御小性組杉浦出雲守組
- 御小納戸 井平三郎
- 御小納戸 合郷八

田沼主殿頭次

右之於上野流鏑馬御用相勤ひ二付、於奥被下之。
御右筆部屋縁頼

時服三。
同。

金三枚。
時服貳。

右之去ル朔日○明和二年九月。於上野流鏑馬御用相勤ひ付被下旨、右京大夫殿○松平輝高。被仰渡之。

躑躅之間
金三枚宛。

御小性組 杉浦出雲守組
龜井平三郎
同金田能登守組
朝比奈市郎右衛門
同稻葉紀伊守組
水野數馬
小普請組 松平藤九郎支配
水野岩吾

御書院番 伊澤播磨守組
小栗又兵衛
神保喜内
大御番 上田能登守組
窪田幸之允
近藤久五郎

右同斷射手相勤ひ付被下之。
卷物三ツ。

御書院番 稻葉紀伊守組
松平田宮
堀田出羽守組 方藤堂肥後守組 預リ
原三郎兵衛

同酒井備中守組
河野勝左衛門

右之日記御用相勤ひ付被下之。
卷物三ツ。

御小性 杉浦出雲守組
佐野達次郎

御書院番 稻葉紀伊守組
逸見八之助

右同斷世話役相勤ひ付被下之。

同水野山城守組
宅間伊織
同五勢日向守組 方同金田能登守組 預リ
伊丹六郎左衛門

同大久保豊後守組
松平兵庫
新御番 北條安房守組
永田半助

右之通右京大夫殿○松平輝高。被仰渡之。

御右筆部屋縁頼

小普請方
木室庄左衛門

御疊奉行
大熊新助

右同斷御用相勤ひ付被下旨、御同人被仰渡之。

躑躅之間

銀五枚。

小普請方 改役
野本八三郎

燒火之間

御徒目付
比留半四郎

長沼千右衛門

小普請方 吟味役
鈴木孫四郎
村田新次郎

御徒假役
宮田十太夫
増田兵助
大工棟梁
柏木新助
御疊棟梁
早川助右衛門

金五百疋。
金三百疋。

右同斷ニ付被下旨、兩席共松平攝津守殿○忠被仰渡之。

九月朔日○明和二年この日東叡山にて流鏑馬の神事あり。よりにて御宮代參御側田沼主殿頭意次奉はり、御

般昌期

太刀及馬料金進薦し給ふ。射手近習および番士等十六人。皆水干行騰綾蘭笠にて籠手をつけ、衛府の太刀をはき、陣列して流鏑馬の式行はる。又小普請奉行本多讃岐守昌忠、目付松平縫殿頭忠香、内藤主税信就、徒頭小笠原縫殿助持易等これに蒞めり。

——湊明院殿御實紀

九月朔日○明和二年於東叡山流鏑馬御神事被行。

流鏑馬御神事ハ、東照宮を東叡山ニ御造立、寛永四年以後五十回御忌の寛文五年、百回御忌の正徳五年、於上野被行、無考所、明和二年四月百五十回御忌、勅會御法事被行也、秋九月朔日小笠原縫殿助持易此事を奉り、門人十六人をして於上野、初て流鏑馬の式を勤しむ。按るま、享保年中弓道の式を兩家に分賜たり、小笠原平兵衛家ハ騎射流鏑馬等の式、小笠原縫殿助家ハ、步射佩丸物早馬等之式也。此時其家ニ非ざして流鏑馬の事を奉りし者ハ、中興の祖縫殿助持廣、元文三年番弓の式を勤めし舊儀による。未詳。流鏑馬の場所ハ、東叡山内御宮の前通リ左右松原の半を限り、竹行馬を結びて雑人の見物を禁む。矢落ハ松原の内三ツ的也。持ハ往還の内結び、南のはつまに流鏑馬舎を設け、馬場の中央西松原を中央にして、日記所を構へ、其左リ日光御門跡、其右御老中棧屋也。其外若年寄衆御側衆奥向の見物所、並布衣以上以下の見物所、射手十六人ハ、今朝凌雲院へ揃ひ、夫々流鏑馬舎まで裝束し、水干行騰綾蘭笠をかつし服也。午の刻計に練出して、御宮に参詣し、流鏑舎に入、流鏑馬始むへき令有て、一番より十六番迄乗あけ、一番の射手捨鞭の扇の式有て、南に馳射終る。夫より次第に射終り、十六番馬に鞭打、射儀整ひ、御神事果也。

——泰平年表

一、九月初日○明和三年。小笠原縫殿助依願多、百五十回御忌爲神莫、上野於山内院門前帶佩、門弟中流鏑馬被行之。○中略

右懸り、御側衆田沼主殿頭。

——續談海

七日庚辰

○明和二年(紀元二四二五)年九月○庚辰、三正綜覽。

物揚場受授有り。外ニ屋鋪二三ヲ是月

○明和二年(紀元二四二五年)九月。

受授ス。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書抜。

屋鋪受授 明和二年九月屋鋪ヲ受授スル者若干。

圖○

元矢倉大川端通 揚場。

屋鋪受授
蹟揚場

板倉勝清
揚場

東南 西南 各六尺。
東北 西南 各三間。

元矢倉大川端通板倉佐渡守○勝清下屋鋪附揚場、今度願之通被仰渡、御渡被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

板倉佐渡守内
本多 藤兵衛印

明和二乙酉年九月七日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内岩田惣右衛門。

右立合相改渡レ之。

富山久右衛門。清水喜兵衛。吾孫子丈助。安川善藏。

圖○

小石川元鷹匠町 松下甚兵衛上ケ地 坪數百三拾坪。

東 道。小川長次郎。北 西 道。横山藤四郎。

東南 西南 各四尺。
東北 西南 十二間一尺。

小石川元鷹匠町松下甚兵衛上ケ地、拙者共兩人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年九月十日

小普請組松平頼母組
谷 政之 介 清印
佐々木傳次郎組
小川 長次 郎 清印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改預レ之。

谷政之介
小川長次
郎

殷 昌 期

二三三

圖略。

青山宣忠

大川端東之方 青山三右衛門忠添地 坪數六拾坪。

東 道。 西 道。 南 道。 北 道。

五間貳尺餘。 五間。 十壹間。

大川端東之方青山三右衛門屋鋪續藤堂和泉守殿揚場之内、此度青山三右衛門願之通添地拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年九月十九日

御小納戸青山三右衛門内 仁科 物右衛門 印

淺野備後守渡レ之。

玉置丈太夫。岩田惣右衛門。

富山久右衛門。吾孫子丈助。安川善藏。中村長藏。

右之通境目等立合、相違無御座い。以上。

伊奈半左衛門内 田中與一右衛門

屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年

九月七日渡。
一、元矢之倉大川端通物揚場地所
九月十九日渡。藤堂和泉守揚場之内
一、大川端東之方六拾坪

板倉 佐渡 守
御小納戸 青山 三右衛門

但、爲添地渡。

屋敷書拔

十月七日己酉 ○明和二年(紀元二四二五年)○己酉(三正綜覽) 屋鋪ヲ相對替スル者有リ。

○相對替御書附書拔。寬政呈譜。

屋鋪相對替 明和二年十月屋鋪相對替ヲ爲ス者若干有リ。

明和二酉年十月七日

右近將監殿 ○松平武元 順阿彌を以御渡被成い。

御普請奉行い。

比留正記

青山善五郎拜領屋敷
小石川水道橋通横町六百坪

青山長祝

比留與十郎拜領屋敷
小日向中之橋通貳百貳拾坪

三間政晴

町野左兵衛拜領屋敷
下谷長者町三百拾坪

町野左兵衛

三間四郎左衛門拜領屋敷
麻布白銀御殿跡三百坪

長井正興

石野帶刀拜領屋敷
表三番町五百三拾貳坪

石野廣近

長井半左衛門拜領屋敷
市谷新本村三百坪

小楠種忠

久松虎之助拜領屋敷
小石川金杉新道横町貳百貳拾貳坪

久松定近

安藤彌右衛門拜領屋敷
表六番町貳百七拾坪

般 昌 期

元方御納戸頭 比留 與 十 郎 ○正記

御小性組杉浦出雲守組 青山 善 五 郎 ○長祝

御書院番金田能登守組 三間 四郎左衛門 ○政晴

小普請組松平頼母支配 町野 左 兵衛 い

御書院番酒井備中守組 長井 半左衛門 ○正興

小普請組松平藤九郎支配 石野 帶 刀 ○廣近

御作事下奉行 小楠 七 十 郎 ○種忠

小普請組設樂甚十郎支配 久松 虎 之 助 ○定近

安藤定利
飯塚矩永
矢葺景久
木原源兵
平次郎

小櫛七十郎拜領屋敷
小石川柳町貳百坪
矢葺孫三郎拜領屋敷
四谷内藤宿新屋敷貳百坪
預ヶ地百七坪有之、御書付ニモ出不申得共先達本所に御祈筆合有之。

同妻木平次郎支配
安藤彌右衛門○定に
設樂善右衛門支配
飯塚千五郎○理に
同松平藤九郎支配
矢葺孫三郎○景に
安祥院殿小人
木原源兵衛に
御臺所御廣鋪番之頭支配御下男
平次郎

右願之通屋敷相對替被仰付ひ間、得其意、例之通可被致い。

相對替御書附書拔

拜領居屋敷麻布白銀御殿地跡三百坪之場所、明和二乙酉年七月二日下谷長者町貳丁目小普請組松平頼母支配町野左兵衛拜領屋敷三百拾坪相對替奉願ひ處、同年○明和二年十月七日願之通屋敷相對替被仰付い。

當時住居仕い。

種忠小櫛七十郎。

明和二酉年十月小石川柳町屋敷下、設樂甚十郎支配久松虎之助小石川金杉屋敷下、妻木平四郎支配安藤彌右衛門表六番町屋敷下、相對替奉願、十月七日願之通被仰付旨、松平右近將監傳之。

倉橋忠保

忠保

元屋敷神田佐柄木町寶曆三酉年十二月十二日駿河臺昌平橋上村政次郎屋敷下相對替、明和二酉年十月十

二日小日向者荷谷坂入半平屋敷下相對替、寛政六寅年閏十一月六日奉願、十二月五日本所ニツ日三ツ日之間御小性組安藤伊豫守組高木喜左衛門屋敷下相對替、備前守申渡之。

寛政呈譜

附記
靈運院貸金

〔附記〕 靈運院貸金

深川清住町禪宗靈運院儀ハ、先御代格別ニ被仰付、御内々御金被下御取立、類焼之節も御金拜領仕い處、爲冥加御金ハ除置、所々より之寄附を以建立仕、右拜領之金子ハ、靈運院永代修復料ニ仕度い處、相對計リニ、證文を以て貸付いあり、利金并ニ元金返濟之儀も、約束期月通ニ急度相濟い儀、無覺束奉存い。格別之御金之儀ニ有之い間、右金子を以て靈運院堂塔永代之修復料ニ仕、堂塔退轉不仕い様ニ相續仕度い間、右貸付金借請い者共、證文通遲滞不仕い様、町觸有之い様仕度段、靈運院并ニ護靈院相願い處、格別之儀ニ付、願之通被仰付い。依る右金子望之者ハ、靈運院へ申込借請、證文通急度返濟可致い。右貸付度毎、靈運院より町奉行所へ相屈い間、借請い者共、町年寄へ屈可申出い。右借請い者より、又々外々へ貸付いハ、其段靈運院へ申聞、右貸付い證文へ靈運院押切印形爲致可申い。前書之通り借請い者金子返濟相滞い得て、豊前守番所へ靈運院より訴出いニ付、其節吟味の上、濟方可申付い間、其旨相心得可申い。

右之趣、町中可觸知者也。

西○明和二年十月

右之通り從町御奉行所被仰渡い間、此旨相心得、借受いものハ、町年寄喜多村彦右衛門所へ届可申出旨、町中不殘入念可被相觸い。以上。

殷昌期

十月廿六日 ○明和二年

町年寄 三 人

屋鋪受授

十一月六日戊寅 ○明和二年(紀元二四二五年) ○戊寅、三正統覽。下屋鋪給與ノ命有り。是月 ○明和二年(紀元二四二五年)十一月。外ニ若

干屋鋪ノ受授ヲ見ル。 ○明和二錄。相對替御書附書拔。

屋鋪受授 明和二年十一月申ニ行ハレタル屋鋪受授ヲ舉グ。

六日 ○明和二年十一月。芙蓉之間

本堂親房

大御番頭 伊豆守 ○親

右ノ願之通下屋敷可被下旨、場所見立、可相願之旨、周防守殿 ○松平康福。傳達之。

明和二錄

周防守殿 ○松平康福。三阿彌を以御渡被成。

有馬頼齋

有馬中務大輔 ○頼齋

池田傳之助拜領屋敷

井關正伯

井關正伯 小普請組松平頼母支配

元久之倉藥研堀有馬中務大輔中屋敷の隣五百坪

下高輪壹萬六千三百拾壹坪餘之内百八十七坪

十二月十一日壬子 ○明和二年(紀元二四二五年) ○壬子、三正統覽。屋鋪ヲ受授ス。外ニ是月 ○明和二年(紀元二四二五年)十二月。受授ス

ル所ニ若干屋鋪有り。 ○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。明和二錄。

右願之通屋敷相對替被仰付ひ間、得其意、例之通可被致。

屋鋪受授

屋鋪受授事

屋鋪受授 明和二年十二月受授スル所ニ、左ノ屋鋪有り。

十一月 ○明和二年十一月 ○申略。

津田信之

津田日向守 ○信之

右之通被仰渡之。

明和二錄

圖略

山本伴明

湯島天神中坂下 山本織部正 ○伴明。屋鋪 坪數六百坪。内建家長屋土藏共百九坪餘。

東 吉岡權三郎、夏目傳右衛門、牛窪千次郎。

西 道。和田勝之進。

南 松平小膳、秋山萬五郎。

北 道。和田勝之進。

雛子橋御門外山本織部正屋鋪、今度就御用差上、右爲代地、湯島天神中坂下三澤庄左衛門上り屋鋪家

作共織部正拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右繪圖之面、御定杭之通り、并建家立具疊長屋土

藏庭石植木等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

新御番頭山本織部正内 横澤軍右衛門印

竹本越前守渡レ之。

中村左次郎。谷安之丞。川崎清兵衛。棟梁 六人。

湯島天神中坂下三澤庄左衛門上り屋鋪建家立具疊石植木目録

一、門 扉 但、潜り共。 三 枚。

一、戸 但、半戸共。 七拾五本。

殷昌期

二三九

一、障子 但、半障子共。

一、襖 但、半疊共。

一、疊 但、半疊共。

一、階子 但、半疊共。

一、植木 大 小。

一、庭石 大 小。

一、石手水鉢

右之通立合相改、相違無御座請取申。以上。

西〇明和二年。十一月十二日

一、數寄屋橋御門外町屋前山下御門番御預り土手草刈境、此度御預り土手草刈場ニ被仰渡、奉畏。草刈節不損様心附可申旨、尤御門番交代之節申送の様可仕旨、被仰渡趣、是亦奉畏。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十二月十八日

數寄屋橋御門番小笠原左門〇長内 堀 與一右衛門

諏訪若狭守〇内 服部 佐左衛門

竹本越前守内中村左次郎、淺野備前守内玉置丈太夫。

右立合申渡之。

一、山下御門外町屋前數寄屋橋御門番御預り土手草刈場境、此度御預り土手草刈場ニ被仰渡、奉畏

堀田正實
津田正春

い。草刈節不損様心附可申旨、尤御門番交代之節申送の様可仕旨、被仰渡趣、是亦奉畏。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十二月十八日

山下御門番堀田數馬〇正内 高梨 物吉
津田外記〇正内 鶴見 小一右衛門

竹本越前守内中村左次郎、淺野備前守内玉置丈太夫。
右立合相改申渡之。

圖略。

裏二番町 津田日向守屋鋪 坪數九百七拾八坪餘。内、建家長屋土藏共四百十六坪。

東 羽太内記。西 道。大島雲平、鈴木市兵衛。

南 三十間二尺。北 二十九間二尺。

東 三十間五尺五寸。北 三十三間四尺。

本所林町四丁目五町目之間津田日向守屋敷家作共差上ケ、裏二番町岡部大次郎殿屋鋪建家共御引替拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十二月廿一日

淺野備前守渡之。

裏二番町岡部大次郎上ケ屋鋪建家立具疊石植木目錄

一、門 扉 但、潜り共。錠鑰有。

五 枚。

般 昌 期

- 一、戸 但、半戸共。 貳百貳十四本。
- 一、障子 但、半障子共。 百三十七本。
- 一、襖 但、小襖共。 百十七本。
- 一、疊 但、半疊共。 四百三疊。
- 一、階子 五 挺。
- 一、植木 大小。 品々。
- 一、庭石 大小。 品々。
- 一、石手水鉢 壹 品。

右之通立合相改、相違無御座請取申。以上。

西〇明和二年十二月廿一日

圖略。

岡部元珍

本所林町 岡部大次郎^{〇元珍}屋敷 坪數三百坪。

東 竹田六郎右衛門。 西 道。
南 町屋、酒井備中守。 北
西北 貳十六間三尺。 拾壹間貳尺。

裏貳番町岡部大次郎屋鋪家作共差上ケ、本所林町四丁目五丁目之間津田日向守殿屋鋪建家共御引替拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十二月廿六日

小普請組松平頼母支配岡部大次郎内 多田 一角印

小野 勝右衛門印

淺野備前守渡之。

河崎彦兵衛。玉置丈太夫。中村左次郎。

中村清兵衛。富山久右衛門。中村半治。清水喜兵衛。

本所林町四丁目五丁目之間津田日向守上ケ屋鋪建家立具疊植木石目録

- 一、門 扉 但、潜り共。 三 枚。
- 一、戸 但、半戸共。 八 拾 本。
- 一、障子 但、半障子共。 四 拾 貳 本。
- 一、襖 但、小襖共。 五 拾 壹 本。
- 一、疊 但、半疊共。 百 貳 十 疊。
- 一、階子 三 挺。
- 一、植木 大小。 品々。
- 一、庭石 大小。 品々。
- 一、石手水鉢 壹 品。

右之通立合相改、相違無御座請取申。以上。

西〇明和二年十二月廿六日

岡部大次郎内 多田 一角印

般 昌 期

小野 勝右衛門印

圖略。

雉子橋御門外 山木織部正上ケ屋鋪之内。

東西 各五間。
南北 各九間一尺五寸。

雉子橋御門外山木織部正殿上ケ屋鋪并長屋一棟共、此度村松四兵衛御預り御既添地ニ相成ハ處、織部正殿願ニ付、惣引拂來ル二月上旬迄相延、此節引拂相濟ハ長屋并地面之内、御繪圖之面朱引之通被成御渡之、并戸窓戸共、御書付を以是又御渡被成、相違無御座請取申ハ。來ル二月不殘御渡被成ハ節、一紙證文差出、此證文引替可申ハ。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十二月廿八日

竹本越前守渡之。

御馬預り村松四兵衛内
飯田 助右衛門印

立具之覺

一、戸 但、窓戸共。

拾 貳 本。

右之通相改、相違無御座請取申ハ。以上。

西〇明和二年十二月廿八日

村松四兵衛内
飯田 勘右衛門
——屋鋪渡預繪圖證文

三枝頼郷

頼郷 〇切龜三郎。後三枝甚四郎。

拜領屋敷無御座ハニ付、赤坂御門外本家拜領屋敷ハ代々同居仕ハ。寶曆十一辛巳年七月廿九日赤坂邊

庄 直保

ハ出火之節、本家屋敷類焼仕ハ。其節ハ麻布市兵衛町頼郷實父松平左太夫定卓拜領屋敷之内借地住居罷在ハ。明和二乙酉年十二月頼郷願之通、本所ニツ目三ツ目之間屋敷拜領仕ハ。家作仕ハ迄之内、如前借地仕ハ。明和九壬辰年二月廿九日黒邊ハ出火之節、麻布市兵衛町實方弟松平小十郎定郷屋敷之内借地ニ類焼仕、其節千石以下類焼之面々ハ拜借金被仰付、金三拾兩拜借仕、安永三申年ハ天明四甲辰年迄皆上納仕ハ。安永元壬辰年拜領屋敷三方相對替奉願ハ處、本所ニツ目三ツ目之間三枝甚四郎頼郷拜領屋敷ハ庄與左衛門某^{〇直保}四谷大番町庄與左衛門拜領屋敷三枝甚四郎、願之通相對替被仰付、裏二番町住居仕ハ。——寛政呈譜

明和二乙酉年

十二月十二日渡。三澤庄左衛門上ケ屋敷

一、湯島天神下六百坪

但、雉子橋御門外屋敷御用ニ付被召去、爲代地建家立具疊長屋土藏植木石共渡。

十二月二十一日渡。岡部大次郎屋敷

一、裏貳番町九百七拾八坪餘

但、本所屋敷家作共差上、爲代地家作共渡。

十二月廿六日渡。津田日向守屋敷

一、本所林町三百坪

但、裏貳番町屋敷差上、爲代地家作共渡。

〔附記〕 高利貸制禁

廿六日 〇明和二年十一月〇申略。

一、松平攝津守殿^{〇忠昌}御渡被成ハ書付三通。〇節 内藤主税相觸。

檢校勾當其外座頭とも、官金之由申立、高利ニハ世上ハ貸出し、返金滞ハ節モ、座頭共大勢差遣、武

殿 昌 期

附記 高利貸制禁

家方と玄關等の相詰罷在、高聲ニ多雜言等ヲ申、或は晝夜詰切罷在、彼是我儘成體ニ多致催促ハ
 羨有之由相聞ハ。勿論借金催促之義、其時宜ニ多、何きとも勝手次第之憂ニハ得共、右之致方ハ借
 主ハ耻辱を感ハヘテ、返金爲致ハ様ニ仕ハ事ニハ得共、催促之筋ニ多ハ無之ハ。右之通過分之
 高利ニ多取引仕ハ故、外々多々座頭共ハ金子預ケ置、爲貸出ハ者多有之趣ニ相聞ハ。過分之高利
 又ハ法外之催促致ハ義ニ付、奉行所吟味ニ相成、咎々申付ハ義も有之ハ得共、兎角不相止、其上
 借金得心之事トモ乍申、返金相滞ハ節モ、法外之催促可致旨、證文爲認取置、且又利金之義、證
 文トモ通例之利金ニ認させ、實ハ高利トモ取引仕、其外ニ多禮金トモ名付、用立ハ金子之内ニテ引取
 ハ義共有之旨相聞、不埒之至ニハ。以來過分之高利ニ多借出ハ義致問敷ハ。勿論借主催促仕ハ義
 ト勝テ次第之事ニハ得共、玄關等其外催促之者罷越問敷、場所ニ相詰、雜言等申、法外之義仕問敷
 ハ。若相背ハテ、吟味之上、急度可申付ハ。

但、座頭共所持之金子モ、官金ニ仕ハ付、所々借出ハも尤之事ニハ得共、他之者之金子ヲ預置、
 自分金之由申、借出ハ義仕問敷義ハ問、以來右體之義仕問敷ハ。
 右之趣町中ニ可觸知者也。

右之通、町奉行ハ相觸ハ問、向々ニ寄々可被相達ハ。

——明和二錄

正寶事錄ニハ、本令ニ附記シテ、「右ハ西^{○明和二年}十二月廿二日御觸、町中連判、同^{○明和二年}十二月廿五日樽屋納」
 ト有リ。

廿九日庚午^{○明和二年(紀元二四二五年)十二月○庚午 三正絲覽} 雉子橋外堀石垣^{○市内 麹町區}ヲ築造シテ成リ、掛員ヲ褒賞

雉子橋外堀
石垣築造

又。○明和錄。後明
院殿御實紀。

雉子橋外堀石垣築造 傳フ、

廿九日^{○明和二年十二月}芙蓉間

金貳枚。
時服貳。
時服貳。

小普請奉行
本多 讚 岐 守^{○昌}
御 目 付
松 平 縫 殿 頭^{○忠}
香

右ハ雉子橋外御堀石垣築出御用相勤ハ付被下旨、伊豫守^{○阿部 正右}被仰渡之。

小普請方
小林 市左衛門

金壹枚。

右同斷之旨、御同人被仰渡之。

小普請方改役
森 山 忠 三 郎

躑躅之間

同吟味役
近 藤 與 十 郎

燒火之間

御徒目付
後 藤 彌 五 兵 衛

銀七枚。

銀七枚ツ。

御徒假役
青 山 安 次 郎
大工棟梁
村 松 淡 路

銀五枚。

右同斷、兩席共酒井石見守申渡之。

——明和錄

般 昌 期

二四七

雉子橋外堀
石垣築造事

廿九日○明和二年十二月。小普請奉行本多讚岐守昌忠金二枚時服二、目付松平縫殿頭忠香時服二給はり、雉子橋石垣修理つかさどりしを賞せらる。下更等皆賜物差あり。

——浚明院殿御實紀

是年

○明和二年(紀元二四二五年)。社寺地ニ若干ノ異動有リ。

○地子古跡寺社帳。除地古跡寺社帳。御朱印地寺社帳。古跡寺社帳。御朱印拜領寺社帳。

社寺地異動 明和二年中社寺地ニ若干ノ異動有リ。

熊野社 模様替修理。

除地古跡 境内五千四拾五坪。

東叡山末 南品川 天台宗常行寺

門前五軒。

外七百五拾三坪者年貢地。

右相願い者、境内ニ有來い熊野權現之社、東向ニ有之い處致修復、如古來西向ニ引直、此度新規ニ西向壹ヶ所入口附、木戸門建度段、願出いニ付、吟味之上、隣寺并ニ所之者へも相尋い處、相障儀々無之ニ付、願之通差免、寺社方帳面張紙仕由、酒井飛彈守○忠より印形之斷手紙ヲ以て申越い。依之明和二乙酉年七月五日申上、御帳面張紙仕由。

——地子古跡寺社帳

愛敬稻荷社 貸地。

除地稻荷社地 三百五十一坪。

市ヶ谷町 愛敬稻荷別當 新義眞言宗 藏院

右相願候者、境内南西之方四間ニ七間坪數二十八坪之處、大屋金左衛門隱居樂法甥彌兵衛并藏を申者エ、地處南之方ニ一開ニ四間、此坪數四坪増、都合三十二坪、寶曆五亥年○明和二年當四年○明和二年迄中年十年季

致資續有來い。家作増坪之處エ作事仕足、且又境内東北之方四間ニ七間坪數二十八坪、同亥年○寶曆五年當四年迄中年十年季勘三郎傳七と申者致資地度旨、青山因幡守○忠。寺社勤役之節願出、願之通差免置當四年○明和二年年季明い處、右南西之方八間ニ四間之場所、去々未年○寶曆十年。隱賣女差置い儀ニ付上り地ニ相成い故、東北之方四間ニ七間之場所取拂致返地い旨、教藏院申出いニ付、吟味之上證文申付、寺社方帳面張紙仕由、土岐美濃守○定。印形之斷手紙ヲ以申越い。依之明和二乙酉年八月三日申上、御帳張紙仕由。

——除地古跡寺社帳

壽林寺

壽林寺 門其他營作。

古跡年貢地 境内七拾貳坪餘。

勢州一身田專修寺末 芝金杉三丁目 一向宗 壽林寺

外拾坪町並買添地。

是を先年賣拂當時無之い。

右相願い者、表門古來西通之方に瓦葺土塀ニ有之い處、先佳代相願、同北横町へ門明替、假門板塀ニ有差置い處、寶曆八寅年類焼ニ付、此度有來之場所、古來西之方ニ有之い通、高サ壹丈、門明キ七尺、尤三尺五寸兩扉、西之方潜付、腕木門致、爲火除門塗込、瓦葺門、左右東之方四間三尺餘、西之方貳間五尺餘、土塀ニ仕、境内有來壹間四方之無常堂塗屋ニ仕度段、相願いニ付、吟味之上、近寺并ニ所之者へも相尋い處、障儀無之旨、證文差出いニ付、願之通り差免、壽林寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、土岐美濃守○定より印形之斷手紙を以て申越い。依之明和二乙酉年十月十三日申上、御帳面張紙

殿 昌 期

善福寺

善福寺 貸地ヲ承續ス。

仕い。

——地子古跡寺社帳

古跡 境内貳千四百五拾六坪。

相州藤澤清淨光寺末
北品川
時宗善福寺

内、千三百七拾四坪

除 地。

福 寺

千八拾貳坪

門前町屋年貢地。

此内、八畝貳歩、東海寺大門代地境外野田ニ有請取。

右境内門より北之方明地、東西へ七間、南北之方へ拾五間之所、北品川宿吉兵衛と申者へ、寶曆五亥年より當酉年^{○明和二年}迄中年拾年季借地致し度旨、青山因幡守^{朝思}寺社勤役中願出、吟味之上差免置い處、年季明い二付、又い右吉兵衛儀、當酉年^{○明和二年}より來る未年^{○安永四年}迄中年拾年季借地貸續相願い二付、吟味之上、隣寺所之者へも相尋い處、何之相障儀無之旨、證文差出い二付、願之通差免、町屋ヶ間敷作事不及申、又貸等不爲致、年季明いハ勿論、年季之内ニ有も致返地候ハ、可相届旨、善福寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、土岐美濃守^{經定}より印形之斷手紙を以て申越い。依之明和二乙酉年十月廿五日申上、御帳面張紙仕い。

——地子古跡寺社帳

長昌寺

長昌寺 寺地引換。

御年貢地 境内貳百五拾坪。

辻源五郎御代官所武州豐島郡麻布籠土町
越生龍穩寺末
曹洞宗長昌寺

右相願い處、境内御年貢地ニ有貳百五拾坪有之、元和九亥年以來一寺相續仕來い。然る所濕地故井水惡

鋪、年來致難儀、第一場狹ニ有、寺地三方共町家之中ニ有之、墓所之方町家之裏と相並、數度致類焼い有、其度々石塔過半致燒崩、每度石塔致再建い故、施主共難儀之旨申立、畢竟寺地場所惡敷、町家之中ニ有之故、右體之儀も有之付、可致離且旨申立い者も有之、至有貧寺之儀、此上檀家相減いハ相續難相成、歎ケ鋪存い。然る處同御代官所同町檀家之内百姓喜兵衛と申者所持之畑地千貳百九拾壹坪之内貳百五拾坪と、長昌寺境内貳百五拾坪と、地所引替、喜兵衛所持之畑地千貳百九拾壹坪之内貳百五拾坪分之御年貢諸役、向後從長昌寺唯今迄之通相納、長昌寺跡地之家作不殘取拂畑ニ致、御年貢諸役已來喜兵衛方より相納可申い間、寺地引替度旨願出い二付、御代官辻源五郎へ申達、町内場所双方遂吟味い處、長昌寺願之通り寺社引替被仰付い有、町内何之相障儀無之、勿論於御代官所、差支儀無之旨申聞い。將亦右場所ハ御鷹場之内ニ相籠りい故、御鳥見組頭へも相尋い處、御場所相障儀無之旨申聞い。依之窺之上、長昌寺願之通寺地引替申付、尤唯今迄之長昌寺跡地ニ、喜兵衛畑ニ致、以來寺庵之勿論、小宮ニ有堅く取立中間敷旨、長昌寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、寺社奉行連印之斷手紙を以て申越い。私共場所見分仕候處、相違之儀無御座い。依之明和二乙酉年八月三月申上、御帳面張紙仕い。

——地子古跡寺社帳

大乘院

大乘院 貸地承續。

氷川明神別當
本山方觸頭

除地 境内百拾八坪餘。

乘 院

右相願い處、氷川社僧共五人宅地、表之方往還より三尺引込、竹垣結、尤銘々通路之道を三尺宛取、相殘地所表口四間半、裏行四間半宛之所、町人万右衛門四郎兵衛次郎兵衛五兵衛甚助と申者共へ、寶曆五

亥年より當酉年^{二〇明和}迄中年拾年季致貸地^{一〇思}度旨、鳥居伊賀守、寺社勤役中願出、願之通り差免し置
い處、年季明い^{二〇明和}二付、此度町人万右衛門權兵衛治右衛門長次郎甚助と申者共へ、當酉年^{二〇明和}より來る
未年^{四〇安永}迄中年拾年季貸續度旨、大乘院願出い^{二〇明和}二付、吟味之上、所之ものへも相尋い處、障儀無之^{二〇明和}
付、願之通差免し、尤町家ケ間敷見世商等不及申、又貸等不爲致、紛鋪者差置不申、年季明い^{二〇明和}
、勿論年季之内ニあるも地所相返し候い、早速可相届い旨、證文中付、寺社方帳面張紙仕い由、久
世出雲守^{明〇廣}より印形之斷手紙を以て申越い。依之明和二乙酉年九月廿四日申上、御帳面張紙仕い。

地子古跡寺社帳

成滿院 營建。

- 一、當地年數不知。
- 一、寺内八拾間四方。
- 一、門前町屋拾九軒。

本寺東叡山
同所(〇市谷)
天台宗 無量寺
八幡別當

市ヶ谷加賀屋敷
新義眞言宗
護持院權僧正

拜借地
境内五百坪。

表間口貳拾間。後通り貳拾間。奥行貳拾五間。

右市ヶ谷加賀屋敷明地にて、護持院權僧正隱居地拜借仕、隱居所建、光星一代限隱居號成滿院と唱度
段、先達願出い^{二〇明和}二付、伺之上去る九月廿日^{二〇明和}願之通被仰出、其段申渡、家作之儀ハ追相願可申

由申間い間、其通り申付、寺社方帳面張紙仕い由、寺社奉行連印之斷手紙を以て申越い。依之新規之
儀故、場所見分仕、明和二乙酉年二月廿三日申上、御帳張紙仕い。

拜借地五百坪。

市ヶ谷加賀屋敷
護持院權僧正隱居
新義眞言宗 成滿院

右相願い^{一〇思}、市ヶ谷加賀屋敷ニある拜借地惣圍致生垣、内ニ本家貳間、梁八間、其外角屋庇共建家五拾坪餘、
東之方不動堂貳間四方、北之方貳間梁桁行貳間半之土藏、南之方腕木門高サ壹丈壹尺八寸兩扉三尺
潜り付、壹間貳間之門番所建、西之方三尺之用心口明、右不殘瓦葺新規作事仕り度旨、願出い^{二〇明和}二付、遂
吟味之上、近所屋鋪へも相尋い處、障儀無之^{二〇明和}二付、願之通り差免、寺社方帳面張紙仕い由、松平伊賀
守^{一〇思}より印形之斷手紙を以て申越い。依之明和二乙酉年三月廿四日申上、御帳面張紙仕い。

御朱印地寺社帳

三光院

三光院 貸地ヲ繼續ス。

拜領地
境内千九百六拾壹坪。

東叡山末
天台宗 三光院

右相願い^{一〇思}、境内東之方五拾貳坪之所、寶曆五亥年より當酉年^{二〇明和}迄中年拾年季闕所方西岡次郎左衛
門組手代謹垂治兵衛へ致貸地^{一〇思}度旨、鳥居伊賀守、寺社勤役中相願、差免置い處、年季明い^{二〇明和}二付、亦
い當酉年^{二〇明和}より來未年^{四〇安永}迄中年拾年季貸續ニ致し度旨、願出い^{二〇明和}二付、吟味之上、近寺所之者へ
も相尋い處、障儀も無之^{二〇明和}二付、願之通り差免、尤亦貸等致間敷、年季明い^{二〇明和}之勿論、年季内ニあるも返地
いたし^{一〇思}い、可相届旨、三光院へ證文中付、寺社方帳面張紙仕い由、久世出雲守^{明〇廣}より印形之斷手

紙を以て申越い。依之明和二乙酉年十二月三日申上、御帳面張紙仕い。

稱名寺

稱名寺 貸地ヲ續繼ス。

拜領地

境内、表口四拾間。裏行三拾七間。

築地本願寺末
一向宗小石川

名 寺

右相願い、境内東之方裏門通り門前町屋四拾六坪七合五夕之所、數年松本屋忠右衛門と申町人へ致借地罷有い。右町屋之際南之方ニある境内貳間半ニ三間之所、延享二丑年より寶曆五亥年迄中年拾ヶ年之間致借地、土藏建度旨右忠右衛門相願いニ付、大岡越前守○思。寺社勤役中、稱名寺願出、願之通り差免置い處、年季明いニ付、又々同亥年○寶曆五年より當酉年○明和二年迄中年拾ヶ年季貸續度旨、鳥居伊賀守○思。寺社勤役中願出、差免置い處、當酉年○明和二年年季明いニ付、又々當酉年○明和二年より來る未年○安永四年迄中年拾ヶ年季貸續致度旨、稱名寺願出いニ付、吟味之上隣寺并ニ所之ものへも相尋い處、相障儀無之ニ付願之通差免、尤又貸等不致、年季明いハ、勿論、年季之内たりとも返地いたし家作取崩いハ、可相届旨、稱名寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、酒井飛驒守○思より印形之斷手紙を以て申越い。依之明和二乙酉年七月三日申上、御帳面張紙仕い。

了源寺

了源寺 貸家ヲ設ク。

古跡寺社帳

拜領地

境内千貳百坪。

増上寺末
淺草新寺町
淨土宗

源 寺

右相願い、境内西南之角、西角より東へ拾貳間半、南之方より北之方へ七間半之所、下水内竹垣いたし、竹垣より三尺引込、南之方梁間貳間、桁行拾壹間、表へ五尺之庇附、後へ壹間之下家附、表通り入口六ヶ所明、折廻し西之方、梁間貳間、桁行四間、表へ五尺之庇附、後へ壹間之下家附、表通り入口三ヶ所明、平瓦葺ニ家作いたし、當酉年○明和二年より來る未年○安永四年迄中年拾ヶ年季借家いたし度願出いニ付、吟味之上、近所屋鋪并ニ隣寺所之ものへも相尋い處、障儀無之段、證文差出いニ付、願之通差免之、尤町屋間敷作事不及申、又貸等不爲致、紛鋪者差置不申、年季明いハ、勿論、年季之内ニある家作取崩いハ、早速可相届旨、了源寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い旨、土井大炊頭○利より印形之斷手紙を以て申越い。依之明和二乙酉年四月三日申上、御帳面張紙仕い。

御朱印拜領地寺社帳

光感寺

光感寺 貸家承繼。

拜領地

境内貳千五百三拾坪。

増上寺末
淺草
淨土宗

感 寺

右相願い、境内東表門より南之方間口拾九間奥行拾間之明地へ、下水より三尺引込、梁間貳間半、桁行拾八間、前通り壹間之庇、後通り壹間之下屋附、北之方裏門より西之方、間口貳拾三間、奥行拾間之明地へ、下水より三尺引込、梁間貳間半、桁行貳拾貳間、前通り壹間之庇、後通壹間之下屋附、表通り高サ五尺之竹垣いたし、用心口都合拾壹ヶ所明、物屋根茅葺平屋作いたし、寶曆五亥年より當酉年○明和二年迄中年拾ヶ年季貸家いたし度旨、青山因幡守○思。寺社勤役之節願出、吟味之上差免置い處、年季明いニ付、又々前書之通り、當酉年○明和二年より來る未年○安永四年迄中年拾ヶ年季貸家貸續度旨、相願いニ付、吟味之上、願之通差免、光感寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、土岐美濃守○定より印形之斷手紙を以て申越

依之明和二乙酉年十二月八日申上、御帳面張紙仕い。

御朱印拜領地寺社帳

市街地ノ異動若干有り。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。文政町方書上。府内備考。

市街異動 明和二年中左ノ市街地異動有り。

小傳馬町等川筋 一部埋立。

淺草橋御門内略○中

一、明和二酉年小傳馬町馬喰町龜井町岩井町橋本町川内左右河岸貳間半通、埋立、町屋出來。但、此埋立町屋之内、龜井町ニ渡ル板橋、文化三寅年三月出火後土橋ニ模様替有之。御府内往還沿革圖書

四谷鮫ヶ橋 上ヶ地ヲ名主預トス。

圖略○

四谷鮫ヶ橋 岩間權之承上ヶ地 坪數百四拾坪。

東 木村長次郎。清水百助。

南 平野與惣兵衛。

北

道。

東西 各貳十間。

南北 各七間。

四谷鮫ヶ橋御臺所町岩間權之承上ヶ地、私共ニ被成御預之、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

明和二乙酉年七月十三日

元鮫ヶ橋仲町名主 仁右衛門 預印
同 作 兵衛 預印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内岩田惣右衛門。右立合相改預レ之。

服部七右衛門。宇野伊助。中村長藏。中村信藏。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年

七月二十三日預。岩間權之承上ヶ地 一、鮫ヶ橋御臺所町百四拾坪

元鮫ヶ橋仲町名主 仁右衛門 預地。衛門

——屋敷書拔

赤坂新町三町目 町屋鋪拜領者有り。

赤坂新町三町目略○中

一、武家拜領人姓名略○中

御本丸石之間番 今井重兵衛

表田舍間三間三尺七寸。裏幅同斷。裏行同貳拾四間壹尺。坪數八拾七坪。

右之塚本武右衛門御細工所同心組頭相勤ひ節、明和二酉年十二月廿四日致拜領、其後新右衛門代享和二戌年四月廿三日地面相對替仕い。

——文政町方書上

根津 上ヶ地名主預。

圖略○

根津元御屋鋪之内 太田新之承上ヶ地 坪數五拾坪。

殷昌一期

市街異動
市街異動事
小傳馬町
等川筋

四谷鮫ヶ橋

赤坂新町三町目

根津

東道。須藤内藏之介。北西。村上吉次郎。清水源太郎。

根津元御屋鋪之内太田新之丞上ヶ地、所之名主に被成御預、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申候。爲後日仍如件。

明和二乙酉年十月六日

根津門前町名主 嘉平 次 清印

竹本越前守内岩田惣右衛門。淺野備前守内川崎彦兵衛。右立合相改預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年十月六日預。太田新之丞上ヶ地。一、根津元御屋敷之内五拾坪

根津門前町名主 嘉平 次 預地。次 屋敷書拔

通新町

通新町 町屋鋪受領者有リ。

通新町 略○中

一、拜領町屋鋪百廿坪

御鐵炮御筆同心 村田巳之助

右ハ享保十五戌八月御先手同心柳下五郎兵衛拜領、其後明和二酉年巳之助先祖源太郎儀相對替拜領仕。尤最初拜領年代相分リ不申。

——府内備考

深川小名木川通

深川小名木川通 百姓ニ代地ヲ給ス。

圖○

深川小名木川通 割殘砂村新田百姓平右衛門代地

坪數千八百五拾九坪。但下水共。

東道。久右衛門新田畑。西道。上田能登守。

南 東 西 北 南 東 西 北 南 東 西 北

深川小名木川通り南横町松平備中守殿上ヶ地割残り、今度砂村新田百姓平右衛門代地相願ハ二付、願之通被仰渡、則半左衛門に御引渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

伊奈半左衛門内 加藤次郎太夫印

明和二乙酉年十一月五日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。右立合相改渡之。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和二乙酉年十一月五日渡。松平備中守上ヶ地割殘。一、深川小名木川通千八百五拾九坪

伊奈半左衛門

但、砂村新田百姓平右衛門代地ニ渡。

——屋敷書拔

〔附記〕 宇治平等院寄附講金

圓滿院御門跡宇治平等院寄附講銀、江戸京大坂へ計貸付、利金壹ヶ年五分之積り、五ヶ年季ニ相遣ハ。

右年季之内、每年利金計取立、五ヶ年目ニ元利共取立、尤借受ハもの名前取付金高書付、其所之奉行

殷昌期

二五九

附記 宇治平等院寄附講金

支配へ差出置、定通取立相濟、又之貸付右利金其外諸掛り物、取立不申の條、此旨江戸京大坂方へ計相觸の様、被仰渡し。

右之趣、町中可觸知もの也。

十二月〇明和二年

右之通り、從町御奉行所被仰渡し間、町中不殘、入念可被相觸し。以上。

戊〇明和三年正月九日

町年寄

人

——正寶事錄

屋鋪受授

三年丙戌〇明和〇紀元二四二六年正月十八日戊子〇戊子、三正綜覽。屋鋪渡有リ。外ニ是月〇明和三年(紀元二四二六年)正月。屋

鋪若干ヲ受授ス。

〇屋鋪渡預繪圖
證文。屋敷書抜

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授ノ明和三年正月ニ行ハレタル者ヲ列記ス。

圖略。

栗林友兄

權田原 栗林平五郎〇友兄添地 坪數百八坪餘。
東南 割残り地。西北 福田久左衛門。
東北 道。西南 栗林平五郎、富田傳十郎。

東南 西北 拾七間四尺壹寸。
東北 西南 六間七寸。

青山御路次町宇田川平七殿上ヶ地、今度願之通栗林平五郎添地拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座請取申し。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月十八日

御勘定組頭栗林平五郎内
横山源之助印

竹本越前守渡レ之。

中村左次郎。玉置丈太夫。中村清兵衛。服部七右衛門。平野善三郎。安川善藏。

圖略。

久保田七兵衛

赤坂黒鍛谷 久保田七兵衛屋鋪 坪數七拾貳坪。
東 道。西 藤浪勝右衛門。
南 山口長次郎、飯田次郎八。北 川上清八。

東 五間。西 四間四尺。
南 十五間。北 十五間壹尺。

赤坂黒鍛谷加藤惣右衛門上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申し。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月十八日

御臺様御膳所小間遣
久保田七兵衛印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改渡レ之。

中村清兵衛。服部七右衛門。平野善三郎。安川善藏。

圖略。

今村久藏

青山藥研坂 今村久藏屋鋪 百坪。

東 藥研坂通。西 割残りけなごせ。
南 和田半左衛門預地、かけ切岸。北 御先手奥田山城守組。
東 三間一尺五寸。西 五間四尺。
南 貳十貳間三尺。北 貳十四間。

青山藥研坂青山大膳亮上ヶ地割残り之内、今度願之通、拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、

殷昌期

右御繪圖之面、御定枕之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月十八日

小普請方吟味手傳役
今村久藏印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改渡レ之。

中村清兵衛。服部七右衛門。平野善三郎。安川善藏。宇野伊助。

圖略○

青山藥研坂 割殘之内なまき 坪數四百三拾坪。

東 今村久藏。西 割殘なまき、伊東甚之助預り。
南 小間遣。北 奥田山城守組屋鋪。

東 折込、十間五尺。西 四間。
南 十九間三尺、十二間。北 三十九間三尺。

青山藥研坂青山大膳亮殿上ヶ地割殘之内なまき之處、享保十七年拙者共御預ヶ地之内、此度今村久藏拜領地相渡り、坪數相違仕ゆニ付、證文被成御取替、殘地只今迄之通り、拙者共被成御預、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月十八日

御先手奥田山城守組同心
窪田藤右衛門印

井上武太夫

當番ニ付
印形ナシ。

竹本平右衛門
田中市兵衛

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

窪田藤右
井上武太
夫
竹本平右
田中市兵

牧原甚三郎

圖略○

市谷四丁町 牧原甚三郎屋敷 坪數百四拾八坪。

東北 川島治左衛門。西南 須中彦五郎。
西北 道。東南 關口丹次郎。

東北 西南 各貳十貳間五尺。
西北 東南 各六間三尺。

市谷四丁町龜井團右衛門上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定枕之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月十九日

小普請粗松平頼母組世話役
牧原甚三郎印

淺野備前守内川島彦兵衛。竹本越前守内谷安之丞。

右立合相改渡レ之。

棟梁、六人。

圖略○

内藤宿番衆町 端山幸太夫添地 坪數六拾壹坪。

東北 端山幸太夫。西南 小野喜右衛門。
東南 道。西北 原川清右衛門。

東北 西南 九間三尺餘。
東南 西北 六間二尺五寸。

四谷内藤宿番衆町中村次上ヶ地割殘、今度拙者願之通添地拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定枕之通り、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

殷昌期

端山幸太夫

明和三丙戌年正月十九日

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内谷安之丞。右立合相改渡之。

棟梁、六人。

安祥院殿侍 二六四
端山 幸太夫印

三枝頼郷

圖略○

北本所三三之橋之間 三枝式部○領屋鋪 坪數四百坪。

東 道。高屋傳左衛門、松崎清三郎。
南 横地小左衛門。浦野左兵衛、大島清助。

北西 北
東西 十三間貳尺。
南北 三十間。

北本所二三之橋之間宮城仁十郎上ヶ地、今度三枝式部願之通屋鋪拜領任、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

大御番稻垣長門守組三枝式部内 平井郡 八印

淺野備前守渡之。

玉置丈太夫。

棟梁、七人。

北條丞氏

圖略○

北本所三ツ目北條源五右衛門○丞屋鋪 坪數貳百坪。

東 道。寺尾定右衛門。
南 江川太郎左衛門。北西 增井惣次郎。

東西 十三間壹尺餘。
南北 十五間壹尺餘。

北本所三ツ目木造七左衛門上ヶ地之内、今度願之通北條源五右衛門屋鋪拜領任、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

御鳥見北條源五右衛門内 坂卷 忠右衛門印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内外御用ニ付立合無之。

右立合相改渡之。

棟梁、七人。

寺尾正久

圖略○

北本所三ツ目 寺尾定右衛門○正屋鋪 坪數三百坪。

東 北條源五右衛門、坂井惣八郎。
南 橋爪六郎兵衛、江川太郎左衛門。北西 中澤權之助。

東西 貳十六間三尺。
南北 十壹間壹尺餘。

北本所三ツ目木造七左衛門上ヶ地之内、今度願之通寺尾定右衛門屋鋪拜領任、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

大御番武田越前守組寺尾定右衛門内 鈴木 分右衛門印

淺野備前守渡之。

玉置丈太夫。

棟梁、五人。

増井忠常

北本所三ツ目 増井惣八郎忠常屋鋪 坪數貳百坪。

東 道。北條源五右衛門。
西 寺尾定右衛門。
南 北條源五右衛門。
北 道。
東 十三間壹尺餘。
西 十五間壹尺餘。
南 北

北本所三ツ目木造七左衛門土地之内、今度願之通増井惣八郎屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、
略中請取申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内外御用ニ付立合無之。
右立合相改渡之。

御鳥見増井惣八郎内
村野 茂左衛門 印

棟梁、七人。

猪俣範英

下谷三枚橋通り 猪俣庄右衛門英添地 坪數貳拾坪。

東 海野安次郎。
西 猪俣庄右衛門。
南 御徒組屋鋪。北 堀猪十郎。
東 十壹間壹尺。
西 壺間四尺八寸。
南 北

下谷三枚橋通海野源兵衛殿屋敷割殘、今度猪俣庄右衛門願之通添地ニ拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿二日

御鳥見猪俣庄右衛門内
前田 權左衛門 印

淺野備前守渡之。

川崎彦兵衛。中村左次郎。

棟梁、五人。

圖略。文化十四五年十二月十一日會難稽次郎ノ請取、
逸見調吉以預替ル。

南本所三ツ目 布施岩五郎上ヶ地割殘り 坪數百坪。

東 村田新二郎。
西 岡野孫市。
南 飯寶八郎兵衛。北 飯島求馬。
東 九間五尺壹寸。
西 十間壹尺餘。
南 北

南本所三ツ目布施岩五郎上ヶ地割殘り、拙者に御預被成、四方間數坪數略中御預り申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

小普請方吟味役
村田新次郎 印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内外御用ニ付立合無之。

右立合相改預之。

棟梁、七人。

圖略。

南本所三ツ目 村田新次郎屋鋪 坪數貳百坪。

東 道。飯寶八郎兵衛。北 西 布施岩五郎上ヶ地割殘ふけ。
飯島求馬。
東 九間五尺壹寸。
西 十間壹尺餘。
南 北

殷 昌 期

村田新次

村田新次

南本所三ツ目布施岩五郎上ヶ地之内、今度拙者願之通屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數○中請取申○中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

小普請方吟味役
村田新次郎印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内外御用ニ付立合無之。
右立合相改渡之。

棟梁、七人。

圖略○

羽田保久

下谷貳丁町 羽田藤右衛門○保屋鋪 坪數貳百拾坪。

東 丸橋茂八、赤林忠右衛門。 西 白石八之助。

南 道。 北 道。

下谷貳丁町長坂市左衛門拜借上ヶ地、今度拙者願之通屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申○中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿一日

支配
羽田藤右衛門印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改渡之。

棟梁、五人。

圖略○

山本又六

小石川御殿跡 山本又六屋鋪 百八坪。

東 鈴木彦右衛門。 西 道。

南 野中彦八郎。 北 道。

小石川御殿跡永田兵左衛門上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數○中請取申○中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿三日

御普請役
山本又六印

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内川崎彦兵衛。
右立合相改渡之。

棟梁、六人。

圖略○

服部助一

巢鴨 服部助一郎屋鋪 六拾九坪。

東 宮卷半右衛門。 西 松崎安右衛門。

南 石井善藏。 北 道。

巢鴨稻荷前通り村田丑五郎上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面○中請取申○中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿三日

御普請役下役
服部助一郎印

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内川崎彦兵衛。

殷昌期

右立合相改渡之。

棟梁、六人。

小笠原長員

圖略○

裏貳番町 小笠原外記長屋鋪 坪數五百坪。

東北 道。青木小十郎。 西南 坂本友三郎。
東南 道。 西北 西山八兵衛、高田忠次郎。 南ノ角 京極伊兵衛上ヶ地割残り。

東北 三十壹間四尺。 西南 京極割残り之處十一間餘、十九間三尺。
東南 十三間壹尺。 西北 十七間貳尺。

裏貳番町京極伊兵衛上ヶ地之内、今度願之通小笠原外記屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通略請取申中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿五日

淺野備前守渡之。

玉置丈太夫。中村左次郎。

棟梁、五人。

御小性組北條安房守組小笠原外記内
平田新五右衛門印

水野忠英

圖略○

四谷仲町 水野主計忠屋敷 坪數四百坪。

東南 道。大久保與十郎。 西北 宮田千藏。
東北 道。 西南 西念寺。

東南 十五間。 西北 十四間五尺。
東北 貳十六間壹尺。 西南 貳十七間五尺。

四谷仲町深谷式部殿引替上ヶ地、今度願之通水野主計屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數略請取申中。

取申中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿五日

淺野備前守渡之。

御書院番酒井備中守組水野主計内
佐竹助右衛門印

漆崎定經

圖略○

四谷仲町 漆崎清右衛門定屋鋪 貳百八坪。

東北 水野次左衛門。 西南 下河部新藏。
西北 道。 東南 弓割田源七郎。

東北 西南 各十六間四尺。
西北 東南 各十二間三尺。

四谷仲町高津平三郎上ヶ地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數略請取申中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿五日

竹本越前守内中村左次郎。淺野備前守内玉置丈太夫。

右立合相改渡之。

棟梁、六人。

御留守居番兒島孫七郎組與力
漆崎清右衛門印

圖略○

裏貳番町 京極伊兵衛上ヶ地割残り 坪數六拾七坪餘。

東北 小笠原外記。 西南 坂本友三郎。
東南 道。 西北 小笠原外記。

東北 西南 各十壹間餘。
東南 西北 各六間。

殷昌期

永井又五郎

裏二番町京極伊兵衛上ヶ地割残り、永井又五郎に御預ヶ被成、四方間數坪數^略。御預申^い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿五日

小普請組松平藤九郎支配永井又五郎内中里忠兵衛^{清印}

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改預^之。

圖^略。

小石川御殿跡 杉山藤藏上ヶ地割残り 坪數四十六坪。

東北 山本文十郎。西南 本多多宮。

東南 道。西南 本多多宮。

東北 西南 各十三間九寸。

東南 西南 各三間三尺。

本多成増

小石川御殿跡杉山藤藏上ヶ地割残り、清水彌八郎殿唯今迄御預り^二い處、彌八郎殿を本多多宮^成申^明。閏十二月屋鋪相對替仕^い二付、多宮に被成御預替。四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座^一御預申^い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年正月廿六日

御書院番大久保豐後守組本多多宮内中川九左衛門^{清印}

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改預^替之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。安川善藏。平野伊助。

安永八亥年水井又八郎相對替^二付、文化十三年十二月十三日水井孫次郎に預替^濟。

屋鋪渡預繪圖證文

御勘定組頭 栗林平五郎

明和三丙戌年 正月十八日渡。宇田川平七上ヶ地

一、青山御路次町百八坪餘

御臺様御膳所小間遣 久保田七兵衛

但、爲添地^三渡。

正月十八日渡。加藤惣右衛門上ヶ地

一、赤坂黒鉄谷七拾貳坪

同日渡。青山大膳亮上ヶ地割殘之内

一、同所藥研坂百坪

小普請方吟味手附役 今村久藏

同日預。青山大膳亮上ヶ地割殘之内ふだき

一、同所四百三拾坪

但、先年^二預り來い處、此度今村久藏拜領^二相成、割殘本文之坪數預ヶ。

御先手奥田山城守組同心 窪田藤右衛門

井上武太夫

竹本平右衛門

田中市兵衛

青木斧右衛門

預地。

小普請組松平頼母組世話役 牧野甚三郎

安祥院殿侍 端山幸太夫

大御番稻垣長門守組 添地。三枝式部

正月十九日渡。永井團右衛門上ヶ地

一、市谷四丁町百四拾八坪

同日渡。中村太郎次上ヶ地割殘

一、四谷番衆町六拾壹坪

正月廿一日渡。宮城仁十郎上ヶ地

一、北本所二三之橋間四百坪

東京市史稿

- 同日渡。木造七右衛門上ヶ地之内
- 一、北本所三ツ目貳百坪
- 同日渡。同斷
- 一、北本所三ツ目三百坪
- 同日渡。布施岩五郎上ヶ地之内
- 一、南本所三ツ目貳百坪
- 同日預。同斷割殘
- 一、同所百坪

(朱) 文化十四丑年十二月□日逸見潤吉に預替ル。

- 同日渡。木造七右衛門上ヶ地の内
- 一、北本所三ツ目貳百坪
- 正月廿二日渡。海野源兵衛屋敷割殘
- 一、下谷三枚橋通貳拾坪
- 正月廿二日渡。長坂市右衛門拜借上ヶ地
- 一、下谷貳丁町貳百拾坪

(朱) 當十一月二日○明和三年屋敷形不宜ニ付、願之通隣白石八之助屋敷に割替渡ス。

- 正月廿三日渡。永田兵左衛門上ヶ地
- 一、小石川御殿跡百坪
- 同日渡。村田丑五郎上ヶ地
- 一、巢鴨稻荷前通六拾九坪
- 正月廿五日渡。京極伊兵衛上ヶ地之内
- 一、裏貳番町五百坪
- 正月廿五日渡。深谷式部引替上ヶ地
- 一、四谷仲町四百坪
- 同日渡。高津平三郎上ヶ地
- 一、同所貳百八坪
- 正月廿五日預。京極伊兵衛上ヶ地割殘
- 一、裏貳番町六拾七坪餘

- 御鳥見
- 北條源五右衛門
- 大御番武田越前守組
- 寺尾定右衛門
- 小普請方吟味役
- 村田新次郎
- 右 同
- 預地。人

- 御鳥見
- 増井惣八郎
- 拂方御金奉行
- 猪俣庄左衛門
- 支配勘定
- 羽田藤右衛門

- 御普請役
- 山下本又六
- 同下役
- 服部助一郎
- 御小性組北條安房守組
- 小笠原外記
- 御書院番酒井備中守組
- 水野主計
- 御留守居番兒島孫七郎組與力
- 漆崎清右衛門
- 小普請組松平藤九郎支配
- 永井又五郎
- 預地。

御書院番大久保豊後守組
本 多 多 宮
預地。

正月廿六日預。松山藤藏上ヶ地割殘
一、小石川御殿跡四拾六坪
○一本抹消。
但、只今迄清水彌八郎預り之處、屋敷相對替致しニ付、預替ル。
(朱) 文化十三年十二月十三日永井孫次郎に預替ル。

——屋敷書拔

附記
長柄傘

(附記) 長柄傘

廿八日 ○明和三年
正月 ○中略。

一、大目付稻垣出羽守相達書付

長柄傘相立爲持面々、近比相見申。左いゝ立傘紛敷如何ニ付、主人々教有存筋ニも有之間敷哉、畢竟下々之者辨無之、右之通相成儀を相聞。此段御沙汰有之旨、去ル巳年相達い處、又々近來立いゝ爲持面々有之旨、御沙汰ニ付、猶又相達。此已後隨分御申付、左様無之様、御心得可有之。若此以後立いゝ被爲持衆有之いゝ、途中ニ御徒目付名面等承い義も可有之。左様御心得可有之。以上。

正月 ○明和三年

稻垣出羽守

——明和錄

屋鋪受授

二月朔日辛丑

○明和三年(紀元二四二六年)○辛丑三三正綜覽。

屋鋪受授有り。外ニ若干屋鋪是月

○明和三年(紀元二四二六年)二月。ヲ以

テ受授セラル。

○屋鋪渡預繪圖
證文。屋敷書拔。

屋鋪受授事

屋鋪受授

明和三月二月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

殷 昌 期

内藤甚右

小石川白山近所 内藤甚右衛門屋鋪 坪數貳百坪。

圖略○

東 正田幸次郎。西 道。
南 沼野傳四郎。北 石野源五郎。
東 西 十七間壹尺五寸。
南 十壹間五尺五寸。北 十壹間壹尺五寸。

小石川白山近所藤方勘右衛門引替上ヶ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面略○中請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年二月朔日

御徒押 内藤 甚右衛門 印

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内川崎彦兵衛。
右立合相改渡之。

棟梁、四人。

圖略○

沼野傳四郎

小石川白山近所 沼野傳四郎引替屋鋪 坪數貳百坪。

東 正田幸次郎。西 道。
南 道。北 内藤甚右衛門。
東 西 十六間壹尺五寸。
南 十貳間四尺。北 十壹間五尺五寸。

小石川白山近所藤方勘右衛門引替上ヶ地之内、今度願之通拙者屋鋪御引替拜領仕、被成御渡略○中請取申。爲後日仍如件。

明和三丙寅年二月朔日

御徒押 沼野 傳四郎 印

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内河崎彦兵衛。
右立合相改渡之。

棟梁、四人。

圖略○ 天保十亥年六月十六日村田幾三郎に預替ル。

川崎正方

湯島四町目 川崎平八郎○正 永預り地 坪數三拾五坪六合。

東 宮川左太郎。西 圓満寺預り地。
南 川崎平八郎。北 がぶらぶら。
東 西 貳間。
南 北 十七間五尺。

湯島四丁目祖父江孫太夫殿只今迄永御預り之空地、孫太夫殿を川崎平八郎去ル午年^{○寶曆}四月屋鋪相對替仕ゆに付、平八郎に御預ケ替被成、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年二月朔日

伊澤播磨守組川崎平八郎内 田中 只右衛門 印

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内川崎彦兵衛。
右立合相改預之。

棟梁、四人。

圖略○

既添地

雉子橋御門外 村松四兵衛御預り御既添地 坪數七百坪。内、長屋一棟五拾坪餘。

東 馬場入口、明地。西 村松四兵衛御預御既。
南 門、長屋外道。北 御堀。

殷 昌 期

東西 三十五間二尺。
南北 十九間五尺。

雉子橋御門外山木織部正殿上ケ屋敷、今度村松四兵衛御預り御厩添地被成御渡之、尤表長屋壹棟共、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年二月五日

竹本越前守渡之。

中村左次郎。河崎彦兵衛。

中村清兵衛。富山久左衛門。中村半治。清水喜兵衛。平野善三郎。

雉子橋御門外山木織部正殿上ケ屋鋪表長屋立具目錄

一、門 扉 但、潜り共。 錠鑰有。

一、戸 但、半戸共。

右之通立合相改、相違無御座請取申。以上。

戌○明和二年二月五日

圖略○

本郷丸山下菊坂町 小川才兵衛上ケ地 坪數八拾六坪餘。

東 中野長十郎。西 道。

南 山内庄右衛門。北 道。

本郷丸山下菊坂町小川才兵衛上ケ他、拙者御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座

御預り申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年二月六日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之丞。

右立合相改預之。

服部七右衛門。宇野伊助。富山傳次郎。

圖略○

内藤宿 橋本左市上ケ地割殘 坪數百七坪。

東北 飯塚千五郎。西南 小山茂兵衛、小野彦兵衛。

東南 近山又四郎。西北 野村八十之丞。

東北 十間餘。西南 十間壹尺。

四谷内藤宿新屋鋪橋本左市上ケ地割殘り矢葺孫三郎殿只今迄御預り處、孫三郎殿を飯塚千五郎[○]去

西[○]明和二年。十月屋鋪相對替仕[○]二付、千五郎[○]被成御預替 四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座

御預り申。爲後日仍如件。 小普請組設樂善左衛門支配飯塚千五郎[○]内

明和三丙戌年二月廿九日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改預替之。

内藤宿 細野友八郎上ケ地 坪數九拾壹坪餘。

殷 昌 期

山内庄右

飯塚千五郎

關正嘉

關金五郎。西南 相澤彌市。
東北 道。原田新二郎上ヶ地、中山五郎兵衛。
東南 十八間三尺。西北 十八間一尺。
西南 五間。

四谷内藤宿新屋鋪細野友八郎上ヶ地、西野兵助殿唯今迄御預りニハ處、兵助殿を關金五郎○正申○明和元年。
五月屋敷相對替仕○中付、金五郎被成御預、四方間數略。御預申○中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年二月廿九日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。

右立合相改預替之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。中村信次郎。

屋鋪渡預繪圖證文

明和三丙戌年

二月朔日渡。藤方勘右衛門引替上ヶ地之内

一、小石川白山近所貳百坪

同日渡。同斷

一、同所貳百坪

但、巢鴨元屋敷差上、爲引替代地渡。

同日預。

一、湯島四丁目三拾五坪六合

但、只今迄祖父江孫太夫御預之空地、屋敷相對替ニ付平八郎預り地ニ成。

二月五日預。山本織部正上ヶ屋敷

一、雉子橋御門外七百坪

但、御預り御厩爲添地、表長屋壹棟共渡。

御徒押 甚右衛門

同 沼野傳四郎

役名不知伊澤播磨守組

川崎平八郎

御馬預り

村松四兵衛

二月廿九日預。橋本左市上ヶ地割殘

一、四谷新屋鋪百七坪

○一本抹消

但、矢葺孫三郎只今迄預地之處、屋敷相對替ニ付、千五郎預り地ニ相成。

文化八未年六月十三日杉山良左衛門渡。

二月廿九日預。細野友八郎上ヶ地

一、内藤宿新屋敷九拾壹坪餘

小普請組設樂善右衛門支配

飯塚千五郎

預地。

關金五郎

預地。

屋敷書拔

屋鋪受授

三月七日丙子

○明和三年(紀元二四二二年)○丙子(三正綠覽)

屋鋪預有リ。外ニ屋鋪受授若干是月

○明和三年(紀元二四二六年)三月

行ハル。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。明和錄。伯爵酒井家回答。

屋鋪受授 明和三年三月受授スル所ニ、左ノ各屋鋪有リ。

圖略。

巢鴨 沼野傳四郎引替上ヶ地 七拾六坪餘。

東南 松浦左吉。西南 戶代壽之助。堀込三次郎。

東北 道。片倉安之助。

東南 十三間四尺。西南 十四間壹尺。

東北 五間二尺。西南 五間四尺。

巢鴨稻荷前沼野傳四郎引替上ヶ地、拙者共兩人被成御預、四方間數坪數略。御預申○中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年三月七日

戶代壽之助 松浦左吉

小普請組設樂甚十郎組

戶代壽之助

小普請組高力式部組

松浦左吉

殷昌期

二八一

竹本越前守内中村左次郎。淺野備前守内役人外御用ニ付立合無之。
右立合相改預之。

中村清兵衛。中村半治。上野伴藏。

圖略○

下谷和泉橋通 生井與次右衛門上ヶ地 坪數百四拾六坪餘。

東 道。西 榑原源太郎、道。
南 道。北 大日方作左衛門。

東西 九間三尺五寸。
南北 十五間貳尺。

下谷和泉橋通生井與次右衛門上ヶ地、組屋敷大繩之内ニ御座ハニ付、御請取、直ニ各組ニ御差戻シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年三月十日

西丸御書院番頭内藤越前守與力

谷 七左衛門印

榑原源太郎印

書院番與力組屋敷

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内谷安之丞。
右立合相改渡之。

服部七右衛門。安川善藏。中村長藏。

圖略○

四谷天王下 若林岩之助上ヶ地 坪數九拾五坪餘。

東南 松山惣八、相澤又七。
東北 道。

西北 百姓町屋。
西南 明行寺、谷田院。

四谷天王下町若林岩之助上ヶ地、拙者ニ御預被成、四方間數坪數、御預り申ハ。爲後日仍如件。

明屋敷番伊賀

松山惣八印

松山惣八

明和三丙戌年三月十六日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内役人外御用ニ付立合無之。

右立合相改預之。棟梁、三人。

圖略○

巢鴨 酒井左衛門尉等屋鋪 六千六百貳十八坪。

東南 市川十治郎、酒井左衛門尉。西北 黒鍛之者組屋敷。
西南 道。西 奥六尺屋鋪。東北 藤堂和泉守。

東南 八十貳間五尺。西南 六十五間四尺。
東北 八十七間五尺二寸。西南 六十六間壹尺。

神田橋御門内酒井左衛門尉上屋鋪之内東之方三千五百九拾五坪餘、就御用差上ヶ、右爲代地、巢鴨松平越前守殿下屋鋪上ヶ地六千六百貳十八坪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年三月廿三日

酒井左衛門尉内

山口三郎右衛門印

竹本越前守渡之。

中村左次郎。谷安之丞。川崎彦兵衛。玉置丈太夫。

地割棟梁、拾人。

圖略○

殷昌期

酒井忠寄

東京市史稿

芝新堀 赤羽橋修復小屋場。

東道。西道。南道。北道。赤羽橋。

東西 十三間三尺。北 記入ナシ。

同 赤羽橋修復小屋場。

東揚場。土手。北西道。明地。

南 十壹間。北 廿間。

芝新堀赤羽橋組合修復小屋場地面、被成御渡之四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年三月廿六日

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内川崎彦兵衛。右立合相改渡之。棟梁、五人。

——屋鋪渡預繪圖證文

松平隱岐守内 長谷川 勘兵衛 印
松平主殿頭内 岩田 貞右衛門 印

三月七日預。沼野傳四郎引替上ヶ地

小普請組高方式部組 松浦 左吉

一、巢鴨稻荷前七拾六坪餘 (朱)

同設樂甚十郎組 戸代 壽之助 預地。

文化八未年六月朔日板倉儀兵衛渡。

酒井 左衛門尉

三月廿三日渡。松平越前守下屋敷上ヶ地

但、神田橋御門内上屋敷内東之方三千五百九拾五坪御用ニ付被召上爲代地渡。

——屋敷書拔

十三日 〇明和三年 三月〇中略。

御白書院縁頼

松平 越前守

屋敷手狭ニ付隣酒井左衛門尉屋敷三千坪餘、爲添地被下之、巢鴨下屋敷六千六百廿坪可差上二旨。

酒井 左衛門尉 名代 酒井山城守

居屋敷之内三千坪餘差上、巢鴨其方屋敷隣松平越前守下屋敷六千六百廿坪被下之旨。

——明和錄

右之通被仰付の旨、老中列座、周防守 〇松平 申渡之。

——伯爵酒井家回答

一、明和三年三月十三日神田橋屋敷之内三千餘坪獻納し、巢鴨屋敷へ添地として六千六百貳拾坪下さる。

〔附記〕 燈油私賣禁

燈油之儀、寛保三亥年相觸の以後、寶曆九卯年猶又改相觸の處、右卯年觸書之趣を不相辨、寛保三亥年大坂町奉行所ニ申渡の通り、今以一國切絞草買請、絞油稼致のもの有之段相聞へ、心得違之至ニゆ。依る猶又相觸の條、何れの國々も手作之絞草を以て手絞りニ致し、其分之油を大坂表へ出し、油屋共へ可積登義ニある、一村之内たりとも他之絞草を買請絞油稼致の儀ハ不相成事ニゆ間、其旨相心得、諸國一統ニ卯年 〇寶曆 相觸の趣、彌不違失、急度可相守之。

右之通り御料之御代官、私領ハ領主地頭より可觸知もの也。

三月 〇明和 三年。

右之趣可相觸の。

三月十日 〇明和 三年。

殷 昌 期

右ハ戊三〇明和三年三月三月十日樽屋ニ寫物、町中連判、同三〇明和三年三月十五日同所納。

——正寶事錄

七日三〇明和三年三月令せらるゝは、燈油のことは、寛保三年令せし後、寶曆九年に改めて令し下せしに、その意をわかず、なを寛保の令のまゝに、一國かぎり油のなりはひするよし聞ゆ、これ全くおもひちがへしなれば、今よりのちは、各國をのが植し油材もておのれと絞り、その油はことごとく大坂發賣の家運送すべし、たとひ一村の中にも、他の油材を買、をのがなりはひとする事あるべからず、よく寶曆の令を守るべしとなり。

——浚明院殿御實紀

四月六日乙卯

〇明和三年(紀元二四二六年)〇乙卯(三三正統覽)

屋鋪ヲ相對替スル者若干。是月

〇明和三年(紀元二四二六年)四月

外ニ

毛屋鋪受授有リ。

〇相對替御書附書拔。寛政呈請。屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。

屋鋪受授 明和三年四月左ノ屋敷受授有リ。

明和三戌年分四月六日

伊豫守殿〇阿部正右順阿彌を以被成御渡い。

御普請奉行〇

黒田甚九郎拜領屋敷 裏四番町永井主膳屋敷隣貳百拾三坪餘

永井主膳正表四番町拜領屋敷を隔添地拜領仕〇百坪

小島榮之助拜領屋敷 鐵炮洲築地四百坪

宮内卿殿家老 永井主膳正〇武氏
小普請組設樂甚十郎組 黒田甚九郎〇
寄合 四郎兵衛〇正

屋鋪受授

屋鋪受授事

永井武氏

黒田甚九郎

梶正胤

戸川安精

小島秀清

佐野爲英

松平五郎兵衛

大久保康寛

平岡正孝

笠原信尊

坂部信興

朝岡泰豪

岩室正郷

福田久左

興津景福

梶四郎兵衛拜領屋敷 木挽町築地九百八拾坪餘

戸川藤十郎拜領屋敷 鐵炮洲築地三百五拾坪

松平五郎兵衛拜領屋敷 四谷内藤宿新屋敷七百四拾七坪

佐野帶刀拜領屋敷 糶町壹町目半藏御門外五百坪

平岡彌市郎拜領屋敷 表貳番町七百五拾坪

大久保五郎藏拜領屋敷 四谷内藤宿七百七拾五坪

朝岡彌三郎拜領屋敷 市ヶ谷淨瑠璃坂之上百五拾六坪

笠原新左衛門拜領屋敷 湯島切通し片町貳百坪

坂部傳十郎拜領屋敷 三田狸穴百六拾九坪

興津李次郎拜領屋敷 本所石原元御藏跡三百坪

岩室作左衛門拜領屋敷 元矢之倉藥研堀

福田久左衛門拜領屋敷 青山御路次町續百九拾壹坪

殷昌期

御書院番石川阿波守組 戸川藤十郎〇安精

小普請組妻木平次郎支配 小島榮之助〇秀清

御書院番水野山城守組 佐野帶刀〇爲英

小普請組設樂甚十郎支配 松平五郎兵衛〇

西丸御書院番内藤越前守組 大久保五郎藏〇康寛

小普請組松平頼母支配 平岡彌市郎〇正孝

西丸御納戸 笠原新左衛門〇信尊

小普請組設樂甚十郎支配 坂部傳十郎〇信興

同松平藤九郎支配 朝岡彌三郎〇泰豪

小十人中野監物組 岩室作左衛門〇正郷

御大工頭 福田久左衛門〇

小普請組市橋大膳支配 興津李次郎〇景福

杉江滿茂
石川十五郎
朝比奈正輝
長谷川玄周
平松幸靜
松田定房
倉橋忠倚
坂入半平
岩出平左
東宗雲
和田惟名
前田定明
原忠順
佐山道房

石川十五郎拜領屋敷
下谷長者町貳町目横町百八拾三坪
杉江嘉右衛門拜領屋敷
小石川牛天神下諏訪町百七拾八坪
長谷川玄周拜領屋敷
南本所三四之橋之間四百七拾貳坪餘
朝比奈新太郎拜領屋敷
筋達橋御門外三百坪
松田勝五郎拜領屋敷
小日向荒木坂臺四百貳拾坪
平松四郎右衛門拜領屋敷
深川一色町百五拾八坪餘
坂入半平拜領屋敷
小日向若荷谷四百拾壹坪
倉橋左兵衛拜領屋敷
駿河臺昌平橋内百四拾坪
東宗雲拜領屋敷
大久保元御用屋敷之内七百五拾壹坪
岩出平左衛門拜領屋敷
小川町五百三拾坪
前田孫左衛門拜領屋敷
下谷向柳原新橋通貳百七拾四坪
和田源右衛門拜領屋敷
駿河臺甲賀町六百四拾坪
佐山忠次郎拜領屋敷
小石川傳通院脇三百坂下貳百六拾坪餘
原三五郎拜領屋敷
小石川諏訪町新道三百坪

小十人中野監物組
杉江嘉右衛門○滿に
小普請組松平頼母組
石川十五郎に
同山口兵庫支配
朝比奈新太郎○正に
同高力式部支配
長谷川玄周に
同山口兵庫支配
平松四郎右衛門○幸に
同妻木平次郎支配
松田勝五郎○定に
同設樂善左衛門支配
倉橋左兵衛○忠に
同土岐大學組
坂入半平に
同設樂善左衛門支配
岩出平左衛門に
寄合醫師
東宗雲に
小普請組妻木平次郎支配
和田源右衛門○惟に
同堀三六郎支配
前田孫左衛門○明に
同有馬采女支配
原三五郎○順に
同同人支配
佐山忠次郎○道に

久保勝制
樋口政義
澤清四郎
深澤忠助

樋口岩之丞拜領屋敷
駒込新屋敷貳百五拾坪
久保萬三郎拜領屋敷
四谷内藤宿新屋敷大名小路貳百八坪
深澤忠助拜領屋敷
小石川鷹匠町百四拾坪
澤清四郎拜領屋敷
四谷番衆町百坪

同同人支配
久保萬三郎○勝に
同同人支配
樋口岩之丞○政に
戸田五助戸田久次郎支配御鷹匠同心
澤清四郎に
小普請組山口兵庫組
深澤忠助に

——相對替御書附書拔

政義 岩之丞。

明和三丙戌年月日不知、同人○有馬采女。支配之節、巢鴨土井大炊頭上ヶ地居屋敷貳百五十坪を、四ッ谷内藤宿新屋敷大名小路相支配大久保万三郎貳百八拾坪相對替奉願、同年○明和三年。四月六日願之通被仰付。

——寛政呈譜

圖略

深川高橋 佐藤幸左衛門上ヶ地 坪數百三拾坪。
東 加茂宮彌八郎。
南 鈴木彌太郎。 西 道。
北 高田武左衛門。
東西 八間餘。
南北 十六間餘。

深川高橋佐藤幸左衛門上ヶ地、御徒組屋鋪大繩之内御座に付、右組に御差戻し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

御徒頭松田善右衛門組
大岩千三郎印

明和三丙戌年四月十七日
殷昌期

二八九

徒組屋鋪

長坂半三郎印

竹本越前守内中村左次郎。淺野備前守内川崎彦兵衛。右立合相改差戻之。

中村清兵衛。富山傳次郎。中村半治。

圖略。

松平重富

常磐橋御門内 松平越前守○重富添地 坪數三千五百九拾五坪餘。

東 松平越前守。西 酒井攝津守。

南 松平越前守。北 土手御堀。

東 五十七間。西 六十六間三尺。

南 五十五間三尺。北 五十六間一尺二寸。

常磐橋御門内松平越前守居屋鋪手狭二付、酒井攝津守殿屋鋪内東之方上ケ地三千五百九十五坪餘、添地二拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年四月廿七日

松平越前守内 小林 又右衛門印

竹本越前守渡之。

中村左次郎。

棟梁、九人。

圖略。

青山百人組々屋鋪之内 今枝新左衛門上ケ地 坪數千五百七拾五坪餘。

東 肥田空兵衛。西 道。

南 坂入彦三郎。北 小竹左内。

東 十壹間。西 十壹間五尺。

南 百三十八間。

青山百人組組屋鋪之内今枝新左衛門上ケ地 拙者共被成御預、四方間數坪數○印御預り申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年四月廿九日

百人組井上修理組與力 大竹 喜左衛門印 佐久間 四郎左衛門印

大竹喜左 佐久間四 郎左

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之允。

右立合相改預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和三丙戌年

松平越前守

四月廿七日渡。酒井左衛門尉屋敷之内東之方上ケ地

一、神田橋御門内三千五百九拾五坪餘

——屋敷書拔

但、居屋敷手狭二付、爲添地、渡。

附記 屋鋪受授

明和三年五月左ノ屋鋪受授有リ。

安愼龜之丞。孫四郎。傳十郎。

佐脇安愼

明和三丙戌年五月十八日屋敷相對替松平右京大夫殿被仰渡。權田原元御屋敷跡此屋鋪坪數貳百坪餘。

——寛政呈譜

圖略。

青山百人町 今枝新左衛門上ケ地 坪數千五百七拾五坪餘。

東 肥田空兵衛。西 道。

南 坂入彦三郎。北 小竹左内。

東京市史稿

東 十壹間。西 十壹間五尺。
南北 百三十八間。

青山百人町今枝新左衛門上ヶ地、百人組屋鋪大繩之内御座ハニ付、右組ハ御差戻被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年五月廿一日

百人組之頭井上修理組與力
春日忠藏印
高橋久五郎印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改渡之。

清水喜兵衛。中村信次郎。

屋鋪渡預繪圖證文

百人組
屋敷數

屋鋪受授

六月二日庚子

○明和三年(紀元二四二六年)○庚子、三正綜覽。

橋梁修復小屋場

○市内京橋區。

ノ受授有リ。外ニ是月○明和三年

年(紀元二四二六年)六月。

及七月

○明和三年(紀元二四二六年)六月。

屋鋪ノ受授若干有リ。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書抜。

屋鋪受授 明和三年六月七月受授スル所ノ屋鋪其他、左ノ如シ。

圖略○

木挽町 二之橋修復小屋場。

東 道。西 川。
南 道。北 道。
東 道。西 道。
南 道。北 道。
東 道。西 道。
南 道。北 道。

同 小屋場。

東 橋。松平周防守。北 道。
南 橋。松平周防守。北 道。
東 橋。松平周防守。北 道。
南 橋。松平周防守。北 道。

二之橋修復小屋場

木挽町五町目組合二之橋修復小屋場地面被成御渡、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年六月二日

松平周防守内 伊東三郎左衛門 清印

同 九月二日地所差戻ス。

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内谷安之丞。
右立合相改渡之。棟梁、三人。

圖略○

大久保忠

愛宕下 大久保下野守。添地 六百貳十八坪。

東 大久保下野守。分部隼人正。西 一柳土佐守。
南 道。望月三英。北 分部隼人正。稻葉能登守。
東 五十間一尺。西 三十壹間七寸。望月之處十九間餘。
南 三間。望月之處十五間三尺。北 十八間壹尺餘。

愛宕下望月三英殿拜借上ヶ地、并三英殿拜領地、東之方地面を御振替、今度願之通大久保下野守添地拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年六月六日

大久保下野守内 茂木安之進 印

淺野備前守渡之。

殷 昌 期

二九三

川崎彦兵衛。玉置丈太夫。谷安之丞。

棟梁、五人。

望月三英

圖略○

愛宕下 望月三英領地 坪數五拾七坪餘。

東 望月三英。 西 一柳土佐守。
南 道。 北 大久保下野守。

東北 十九間餘。
西北 三間。

愛宕下望月三英拜領屋鋪東之方ニ開口三間奥行十九間餘之處、就御用差上、爲代地、西之方開口三間奥行十九間餘之處御振替拜領仕、被成御渡略。請取申略。爲後日仍如件。

明和三丙戌年六月六日

寄合醫師望月三英内

羽田 幸右衛門 印

淺野備前守内川崎彦兵衛。玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之丞。

右立合相改預之。

棟梁、六人。

圖略○

愛宕下 井戸ケ輪三寸懸ル。

右之望月三英拜領地ノ拜借地之間ニ三英方ニ先達並井戸堀置略。右拜借地此度御用ニ付差上略。然ル上之、右井戸埋略。地所差上可申略。右地所則大久保下野守拜領仕、双方勝手ニ罷成略。二付、相對仕の間、右井戸其儘ニ地所差上、御引渡被成略。境目之儀ニ御座の間、此以後双方之内何レニ差御用ニ地所差上略。敷、又之屋敷相對替致、障略。節々双方申合、右井戸埋立可申略。爲後日仍如件。

明和三丙戌年六月六日

望月三英内

羽田 幸右衛門 印

大久保下野守内
茂木 安之 進 印

淺野備前守内川崎彦兵衛。玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之丞。

圖略○

青山長者ケ丸 金原佐源次上ケ地 坪數九拾貳坪餘。

東 福井甚助。 西 水谷甚藏。
南 道。 北 淺原熊次郎。

東北 十二間四尺。
東南 七間二尺。
西南 西北

青山長者丸金原佐源次上ケ地、拙者之御預略。被成、四方間數坪數略。御預申略。爲後日仍如件

明和三丙戌年六月十二日

小普請組川口能登守組

福井 甚 助 印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之丞。

右立合相改預之。

棟梁、四人。

圖略○

淺草元鳥越 小川孫市上ケ地 坪數百四拾坪。

東 三筋町通。 西 井上仙右衛門。
南 山田糸五郎。 北 道。

東北 七間。
西北 貳十間。

淺草元鳥越三筋町中通り大御番米倉丹後守同心小川孫市上ケ地、右組屋鋪大繩之内ニ御座略。二付、御請取、右組之御差戻し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申略。爲後日仍如件。

殷、昌 期

福井甚助

大番同心
組屋鋪

明和三丙戌年六月廿一日

二九六
大御番米倉丹後守組與力
佐藤 猪左衛門 印
忠内 鐵五郎 印

淺野備前守内川崎彦兵衛。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改差之辰之。

中村清兵衛。平野善三郎。

圖略○

麻布狸穴 鈴木豐之輔上ヶ地 六拾七坪。

東道。安田十之丞。北道。西道。南道。六間三尺五寸。西北。十間。

麻布狸穴鈴木豐之助上ヶ地、拙者に御預被成、四方間數坪數略○中御預り申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年六月廿八日

小普請組川口能登守組
江口 忠左衛門 印

竹本越前守内中村左次郎。淺野備前守内川崎彦兵衛。
右立合相改預之。

棟梁、四人。

圖略○文化十三年十月十三日間敷相改替川喜平太に預替ル。

根津清水 近藤七之助上ヶ地 坪數五拾五坪。

東道。皆川喜平太。西道。金子善之進。南道。中島又五郎、道。北道。相場幸三郎。西北。七間。東北。七間餘。

根津清水近藤七之助上ヶ地、拙者に御預被成、四方間數坪數略○中御預り申ひ。爲後日仍如件。

皆川喜平

明和三丙戌年七月朔日

小普請組有馬采女組
皆川 喜平 太 印

淺野備前守内玉置丈大夫。竹本越前守内谷安之允。
右立合相改預之。

中村清兵衛。服部七右衛門。富山傳次郎。

圖略○

江戸川端 柘植松之丞上ヶ地 坪數五百三拾五坪。

東道。御書院番組屋鋪。西北。河野岩次郎。東北。御書院番組屋鋪。西南。道。東南。三十三間三尺。西北。三十間五尺。東北。十八間三尺。西南。十五間三尺。

江戸川端柘植松之丞上ヶ地、内藤對馬守成○信に被成御預略○中御預り申ひ。爲後日仍如件。

寄合内藤對馬守内
酒井 元次 郎 印

明和三丙戌年七月十一日

竹本越前守内谷安之允。淺野備前守内玉置丈大夫。
右立合相改預之。

棟梁、五人。

圖略○

木挽町 築地三之橋組合修復小屋場。

東道。西道。川。南道。北道。橋臺、川。東北。六間。西北。二十六間。

木挽町築地三之橋組合修復小屋場、被成御渡之、四方間數、右御繪圖之面、御定枕之通、相違

殷 昌 期

築地三之橋修復小屋場

内藤信成

無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年七月十二日

稻葉丹後守内
杉浦 太左衛門清印
清水 太右衛門清印

竹本越前守内中村左次郎。淺野備前守内川崎彦兵衛。
右立合相改渡之。棟梁、四人。

内藤新宿五十人町 烏山孫三郎上ヶ地 坪數百貳拾八坪。

東 道。 增島定右衛門。
東北 道。 河合繁右衛門。
東南 貳十壹間四尺。 西北 貳十壹間。
東北 六間。 西南 六間。

四谷内藤新宿五十人町烏山孫三郎上ヶ地、拙者に御預け被成、四方間數坪數略中。御預り申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年七月十七日

御廣鋪伊賀者
芦澤 只右衛門清印

竹本越前守内谷安之丞。淺野備前守内玉置丈太夫。
右立合相改預之。棟梁、五人。

四谷裏番衆町 西野嘉惣治上ヶ地 坪數七拾坪。

東 道。 藤卷瀧之助。
南 大村彦八。 北 西 西野萬太郎。

圖略。

東西 七間三尺グハ。
南北 九間二尺餘。

四谷裏番衆町西野嘉惣治上ヶ地、拙者に御預被成略中。御預り申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年七月十七日

明屋敷番伊賀者
大村 彦 八清印

竹本越前守内谷安之丞。淺野越前守内玉置丈太夫。
右立合相改預之。棟梁、五人。

圖略。

四谷舟板横町 烏山孫三郎上ヶ地 坪數百四拾坪。

東 道。 御持組屋鋪。
南 岡田長藏。 北 山内平吉。
東北 七間。
南北 貳十間。

四谷舟板横町烏山孫三郎上ヶ地、御先手組屋鋪大繩之内ニ御座略中ニ付、御請取、直ニ右組に御差戻被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年七月十七日

御先手鈴木市左衛門組與力
櫻井 森 右衛門印

竹本越前守内谷安之允。淺野備前守内玉置丈太夫。
右立合相改渡之。棟梁、四人。

圖略。

深川 右衛門督殿宗。御下屋鋪御添地 坪數五百四坪。

東 右衛門督殿御下屋鋪。
南 右衛門督殿御下屋鋪。 北 西 道。 御徒組屋鋪。

芦澤只右

大村彦八

先手組屋鋪

徳川宗武

右衛門督殿御下屋鋪御添地、此度深川高橋久世長門守上ヶ屋鋪被進之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年七月十八日

中田左兵衛印
本間十太夫印

竹本越前守。淺野備前守相渡之。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和三丙戌年

六月六日渡。
一、愛宕下六百貳拾八坪

大久保下野守

同日渡。
一、同所五拾七坪餘

望月三英

但、拜領屋敷東之方ニあ、間口三間奥行拾九間餘之所、御用ニ付差上、爲代地、西之方間口三間奥行

拾九間餘之所、振替相渡。

六月十六日預。金原左源次上ヶ地
一、青山長者ヶ丸九拾貳坪餘

小普請組川口能登守組
福井甚助

○一本抹消

(朱) 文化四卯年五月十六日福田九右衛門い渡。

七月朔日預。近藤七之助上ヶ地
一、根津清水五拾坪

小普請組有馬采女組
皆川喜平太

(朱) 文化十三年十月十三日同人い改預替ル。

七月十七日預。鳥山孫三郎上ヶ地
一、四谷五拾八坪

御廣敷伊賀者
芦澤只右衛門

(朱) 文化四卯年五月十日玉置半右衛門い渡。

七月十八日預。西野喜惣治上ヶ地
一、四谷裏番衆町七拾坪

明屋敷番伊賀者
大村彦八

七月十八日渡。久世長門守上ヶ屋敷
一、深川高橋五百四坪

右衛門督殿

但、御下屋敷爲添地い渡。

——屋敷書拔

八月六日癸卯 ○明和三年(紀元二四二二年) ○癸卯(三正綜覽)。築地輕子橋 修理小屋場ヲ受授ス。外ニ若干

屋鋪ノ受授是月 ○明和三年(紀元二四二六年)八月。施行セラル。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。寛政呈譜。

屋鋪受授 明和三年八月受授スル所ノ屋鋪ヲ列舉ス。

圖○

築地輕子橋 組合修復小屋場。

東 橋。西 道。
南 道。北 川。
東 記入ナシ。西 六間四尺。
南 十六間。北 十四間。

築地輕子橋組合修復小屋場地所、被成御渡、四方○中請取申い。爲後日仍如件。

明和三丙戌年八月六日

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之丞。

松平遠江守内
市川伊右衛門印

屋鋪受授事
輕子橋修復小屋場

右立合相改渡之。

棟梁、五人。

圖略○

小日向 奥山孝藏上ヶ地 坪數百貳拾坪餘。

東南 關口次郎右衛門。御先手組屋鋪。
南 齋藤傳七。北 道。

東 十間貳尺。西 九間貳尺。
南 十貳間。北 十貳間四尺。

小日向切支丹屋鋪脇奥山孝藏上ヶ地、拙者_レ御預ケ被成_略○中。御預り申_レ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年八月十八日

進物取次上番野中喜内組
關口次郎右衛門 清印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之允。

右立合相改預_レ之。

棟梁、四人。

圖略○

小日向 奥山孝藏上ヶ地 坪數百貳拾坪餘。

東南 關口次郎右衛門。御先手組屋鋪。
東北 道。西南 齋藤傳七。

東南 十貳間二尺。西北 九間壹尺。
東北 十貳間四尺。西南 十貳間。

小日向切支丹屋鋪脇奥山孝藏上ヶ地、平松四郎右衛門被成御預ケ、四方間數坪數_略○中。御預り申_レ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年八月十八日

小普請組神尾若狭守支配平松四郎右衛門内
松村傳右衛門 清印

淺野備前守内玉置丈太夫。竹本越前守内谷安之允。

右立合相改預_レ之。

棟梁、四人。

圖略○ 文化十二亥年八月廿一日御靈様御膳所組頭細井彦三郎_レ相渡ス。

麻布筭橋 楠井重藏上ヶ地 坪數五拾貳坪。

東北 吉野久八。西南 福井藤十郎。
東南 道。西北 長谷寺。

東北 十四間三尺。西南 十四間四尺。
東南 三間四尺。西北 三間四尺。

麻布筭橋高木主水正殿上ヶ地之内楠井重藏上ヶ地、拙者_レ御預ケ被成、四方間數坪數_略○中。御預り申_レ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年八月廿日

蓮淨院殿仕丁
福井藤十郎 清印
同 下男
吉野久八 清印

竹本越前守内谷安之允。淺野備前守内役人外御用ニ付立合無_レ之。

右立合相改預_レ之。

棟梁、四人。

圖略○

本所御臺所町 小野日向守_略○一。添地 坪數百九拾五坪。

東 北川新太郎。西 富源三郎。
南 道。北 割残り。

東西 二十二間五尺六寸餘。
南北 八間三尺。

本所御臺所町本間伊右衛門上ヶ地之内、今度願之通小野日向守添地拜領仕_略○中。請取申_レ。爲後日仍如

股 昌 期

關口次郎

平松四郎

福井藤十郎
吉野久八

小野一吉

件。

明和三丙戌年八月廿七日

御勘定奉行小野日向守内

篠崎良助印

黑澤嘉兵衛印

竹本越前守渡之。

棟梁、九人。

中村左次郎。谷安之允。

圖略。

本所 御臺所町割残り 坪數三拾四坪餘。

東 北川新太郎。富源三郎。
南 小野日向守。西尾助市。
西 富源三郎。
北 西尾助市。

東南 四間三寸餘。
西南 八間三尺。

小野一吉
本所御臺所町本間伊右衛門上ケ地割残り、小野日向守^略に被成御預、四方^略に御預り申^略。爲後日仍如件。

明和三丙戌年八月廿七日

御勘定奉行小野日向守内

篠崎良助印

黑澤嘉兵衛印

竹本越前守内中村左次郎、谷安之允。

右立合相改預之。

棟梁、九人。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和三丙戌年

八月廿日預。高木主水正上ケ地之内楠井重藏上ケ地一、麻布筭橋五拾貳坪

(朱) 文化十二亥年八月廿一日細井彦三郎に渡。

運淨院殿仕下

同 福井藤十郎

同 下男 吉野久八

御勘定奉行 小野日向守

右 同 添地。

預地。人

——屋敷書拔

明和三戌年八月十四日

左京大夫殿^{○松平}順阿彌を以御下ゲ。

御普請奉行に。

加茂宮太郎左衛門拜領屋敷
牛込築土明神下五百坪

中野定之助拜領屋敷
駿河臺五百坪

林甚助拜領屋敷
小日向龍慶橋近所貳百五拾坪

加藤八郎右衛門拜領屋敷
表六番町九百坪之内貳百五拾坪

大河原八十郎拜領屋敷
小石川鷹匠町貳百拾貳坪

加藤安當

大河原良

中野清茂

加茂宮尙

林 爲成

加藤安當

大御番伊澤播磨守組與頭

林甚助

同本堂伊豆守組與頭

加茂宮太郎左衛門

小普請組神尾若狭守支配

中野定之助

新御番堀數馬組

大河原八十郎

西丸新御番大久保兵太郎

加藤八郎右衛門

佐野昌副
河村清彭
神戶珍英
河村昌良
酒依昌智
野村長顯
勝屋安利
桂山義林
杉浦勝次
本目彌三郎

河村帶刀拜領屋敷
小川町御臺所町三百八拾八坪
佐野郷藏拜領屋敷
小石川三百坂下貳百坪
河村金次郎拜領屋敷
北本所三ツ目橋通五百坪
神戶清次郎拜領屋敷
北本所吉岡町百五拾坪餘
野村佐左衛門拜領屋敷
牛込[○]店坂上貳百三拾坪
酒依玄蕃拜領屋敷
麻布谷町貳百拾九坪
桂山郷藏拜領屋敷
新道貳番町八拾七坪
勝屋庄右衛門拜領屋敷
小石川七軒町四百坪之内貳百坪
本目彌三郎拜領屋敷
市谷長延寺谷之上百六拾坪餘
杉浦勝次郎拜領屋敷
牛込山伏町貳百坪

右願之通屋鋪相對替被仰付[○]間、得其意、例之通可被致[○]。

都筑歴政

歴政 編二郎。又右衛門。長翁。
○都筑。

拜領屋敷牛込若宮八幡脇七百坪御預地同所屋敷之内三拾六坪、但牛込若宮八幡脇拜領屋敷七百坪之内貳百三十六坪、西丸御小性組中坊讚岐守組屋敷五百坪之内貳百三十六坪相對替、明和三戌年八月十四日願之通被仰付旨、松平周防守殿[○]被仰渡市橋大膳申渡。

相對替御書附書拔

奥御右筆
佐野 郷 藏[○]昌[○]江
小普請組明[○]支配
河村 帶 刀[○]彭[○]江
小十人能勢助十郎組
神戶 清 次 郎[○]珍[○]江
小普請組高力式部支配
河村 金 次 郎[○]昌[○]江
同設樂善左衛門支配
酒 依 玄 蕃[○]昌[○]江
同高力式部組
野村 佐 左 衛 門[○]長[○]江
同設樂善左衛門支配
勝屋 庄 右 衛 門[○]安[○]江
同松平藤九郎支配
桂 山 郷 藏[○]義[○]江
御膳所御臺所人
杉 浦 勝 次 郎[○]江
小普請組設樂善左衛門組
本 目 彌 三 郎[○]江

伊東祐矩

祐矩 [○]喜内。
[○]伊東。

野間茂正

明和三丙戌年小普請組川口能登守支配野間藤三郎[○]茂正。小石川御簞笥町拜領屋敷、小川町拜領屋敷を相對替願[○]處、同年[○]三和。八月十四日願之通松平右京大夫殿傳。

榊原忠庶

忠庶 [○]五郎左衛門。始繼三郎。
[○]榊原。

吉里信孟

明和三戌年八月十四日表六番町高井兵部少輔小石川拜領下屋敷之内六百坪吉里次郎吉[○]孟。へ、表六番町横町榊原五郎左衛門屋敷六百坪高井兵部少輔[○]房。へ、表六番町吉里次郎吉拜領屋敷五百四拾坪榊原五郎

高井綽房

左衛門へ、右三方替、願之通被仰付[○]之。
綽房 [○]始茂房。久米之助。左門。兵部。兵部少輔。但馬守。鑑道。
[○]高井。

明和三戌年八月十四日表六番町横町榊原權三郎屋敷五百五十坪下、小石川下屋敷之内六百坪吉里次郎兵

衛三方相對替、願之通被仰付[○]。

前田定持

定持 [○]熊之助。左兵衛。
[○]前田。

神田將爲

明和二乙酉年小石川柳町拜領屋敷を、寄合神田李之丞[○]將爲。牛込若宮八幡町拜領屋敷を相對替奉願、同年

拜領屋敷牛込若宮八幡町、明和二酉年十一月廿四日小石川傳通院裏門前大御番大岡越前守組前田左兵衛屋敷下相對替奉願、同[○]三和。三戌年八月十五日願之通被仰付[○]之。

將爲 [○]李之進。半次郎。庄兵衛。穆又。
[○]神田。

茂正 [○]正長。又善正。藤五郎。藤右衛門。
[○]野間。

殷 昌 期

明和三戌年八月十五日大塚御せん寸町屋敷ト、小石川牛天神前廣小路土岐大學支配伊東喜内〇結屋敷ト相對替。

—寛政呈譜

附記
勸進制

〔附記〕勸進制

十二日 〇明和三年
八月〇中略。

一、左之御書付周防守 〇松平
康禎 被相達ハ。

諸國寺社修復爲助力、相對勸化巡行之節、自今寺社奉行一判之印狀持參、御料私領寺社領在町可致巡行ハ。公儀御免之勸化ニ之無之、相對次第之事ハ間、御免勸化と不紛様可致旨、御料之御代官私領之領主地頭より、兼可申聞置ハ。

〇明和
三年 八月

右之通相觸ハ間、可レ得其意ハ。

—明和錄

此月 〇明和
三年 八月。令せられしは、寺社修理のため、寺社奉行一人の印券こひうけて、國々巡行するは、御免にあらざれば、勸化相對次第たるべし、御免勸化に紛れざるやう心得べしとなり。

—浚明院殿御實紀

崇源院天英
院靈牌所修

九月四日 辛未

〇明和三年、紀元二四二
六年 〇辛未、三正統覽。

目付松平忠香

〇總
殿頭

ニ命シテ増上寺崇源院天英院靈

牌所

〇市内
芝區

ヲ修理セシム。

四年丁亥

〇明和〇紀元
二四二七年

正月廿三日 戊子

〇戊子、三
正統覽。

工成リテ授

賞ス。

〇明和錄。浚
明院殿御實紀。

崇源院天英
院靈牌所修

崇源院天英院靈牌所修理 左ノ如シ。

四日 〇明和三年
九月〇中略。

新御番所溜

御目付

松平縫殿頭〇忠
香

右之増上寺崇源院様天英院様御修復御用懸り被仰付ハ旨、松平攝津守〇忠
香申渡之。

廿三日 〇明和四
年正月 芙蓉間

御作事奉行

正木志摩守〇康
恒

同貳。

御目付

松平縫殿頭〇忠
香

右之増上寺崇源院様天英院様御靈前御修復御用相勤ハニ付被下旨、老中列座、右京太夫〇松平
高申渡之。

御右筆部屋縁頼

御疊奉行

神谷庄右衛門

銀三枚。

御勘定

勝屋六郎左衛門

同七枚。

御大工頭

千種庄兵衛

同十枚。

支配勘定

宮川源四郎

同五枚。

右同斷ニ付被下旨、同人申渡之。

躑躅之間

般昌期

銀十枚。

燒火之間

同七枚ツ。同五枚ツ。同ツ。同ツ。

御徒目付

比留半四郎

後藤彌五兵衛

御被官

細井理右衛門

福永彌七郎

勘定役

世良田新四郎

福田宇兵衛

繪師

狩野柳雪

狩野春仙

大棟梁

平内長門

右同斷ニ付被下旨、松平攝津守申渡之。

明和錄

四日○明和三年九月○中略。目付松平縫殿頭忠香三縁山崇源院殿天英院殿靈牌所修理の事をつかさどらしめらる。

廿三日○明和四年正月。崇源院殿天英院殿靈牌所修理なりしかば、作事奉行正木志摩守康恒時服三、目付松平縫

殿頭忠香に時服二賜ひ褒せらる。屬吏賜物差あり。

— 浚明院殿御實紀

屋鋪受授

七日甲戌○明和三年(紀元二四二六)九月○甲戌、三正綜覽。屋鋪領有リ。外ニ是月○明和三年(紀元二四二六年)九月。屋鋪ヲ受授スル者

若干。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書抜。

屋鋪受授

明和三年九月分ヲ舉クレハ、左ノ如シ。

屋鋪受授

屋鋪受授事

蹟

圖略。文化四年卯二月廿九日差展ス。

小日向新屋鋪 田口清四郎上ヶ地 坪數四十坪。

東南

道。小久保小四郎。

西北

三橋代右衛門。櫻井喜兵衛。

東北

西南 各八間。

各五間。

小日向新屋鋪御貮組屋鋪内、田口清四郎上ヶ地、拙者に御預ケ被成、四方間數坪數○中略。御預り申ひ。爲後日仍如件。

近藤茂十郎

明和三丙戌年九月七日

竹本越前守内谷安之允。

右立合相改預之。

棟梁、五人。

圖略。

駒込 永島宇太夫上ヶ地 坪數百拾四坪餘。

東

道。遠山半十郎。

西

宮原六左衛門。井口八三郎。

南

六間壹尺五寸。

北

六間。十八間四尺。

駒込千駄木坂下永島宇太夫上ヶ地、拙者に御預ケ被成○中略。御預り申ひ。爲後日仍如件。

井口八三郎

明和三丙戌年九月十日

竹本越前守内中村左次郎。

右相改預之。

殷昌期

御作事下奉行 石川與左衛門

圖略○

巢鴨 小櫃儀左衛門上ヶ地 坪數百八坪。

東 大井長三郎、西 道。
南 土屋政八、北 道。

東 五間四尺、北 十八間五尺五寸。
南 十八間四尺。

巢鴨五軒町小櫃儀左衛門上ヶ地、小佐手彦次郎御預ヶ被成^{○中}御預り申^{○中}。爲後日仍如件。

明和三丙戌年九月十日

小普請組有馬采女支配小佐手彦次郎内
關根丹次郎印

竹本越前守内中村佐次郎。

右相改預之。

棟梁、四人。

圖略○

根津元御屋鋪之内 深谷伊八上ヶ地 坪數五拾坪。

東 奧田百助、西 井田政右衛門。
南 道、西南 金子友之助、青山彈四郎。

東 五間、西 十間二尺餘。
北 五間、南 四間四尺。

根津元屋鋪之内深谷伊八上ヶ地、近藤齋宮^{○中}被成御預^{○中}。御預り申^{○中}。爲後日仍如件。

明和三丙戌年九月十日

小普請組松平藤九郎支配近藤齋宮内
小嶋平七郎印

竹本越前守内中村左次郎。

小佐手彦次郎

近藤齋宮

中村清兵衛。平野善三郎。上野伴藏。中村信次郎。

右立合相改預之。

棟梁、四人。

圖略○

内藤宿 佐々木喜八郎上ヶ地預り地共 坪數七拾七坪六合餘。

東 櫻井熊之助、西 道。
南 森澄傳左衛門、北 山根藤八郎。

東 六間壹尺餘。
北 十間三尺。

四谷内藤宿新屋鋪切手町佐々木喜八郎上ヶ地并預り上ヶ地共、拙者^{○中}被成御預、四方間數^{○中}。御預り申^{○中}。爲後日仍如件。

明和三丙戌年九月十六日

小普請組神尾若狭守組
森澄次郎 吉清印

竹本越前守内谷安之允。小林阿波守内服部政右衛門。

右立合相改預之。

中村清兵衛。服部七右衛門。清水喜兵衛。富山傳次郎。中村信次郎。

圖略○

麻布六本木 水野吉三郎上ヶ地預り地共 坪數百拾六坪。

東 有馬采女、西 五島淡路守。
南 五島淡路守、眞田伊豆守、北 西玄柱道。

東 六間壹尺、北 六間五尺。
南 十八間、北 十七間四尺三寸餘。

内水野吉三郎上ヶ地坪數百坪。

同人預り上ヶ地坪數十六坪。

殷昌期

森澄次郎 吉

麻布六本木水野吉三郎上ヶ地并預り上ヶ地共、西玄柱に被成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年九月十六日

寄合醫師西玄柱内

田澤市右衛門 清印

竹本越前守内谷安之允。小林阿波守内服部政右衛門。

右立合相改預之。棟梁、五人。

圖略○

神田 多紀安元醫學館拜借地 坪數千五百拾八坪。

東 明地。西 明地。
南 明地。北 明地。

東 西 四十六間。
南 北 三十三間。

神田佐久間町明地測量所跡内ニ、父多紀安元醫學館取立拜借地、只今迄之通拜借仕度段、亡父願置ハ二付、願之通り悴安元に拜借被仰付、被成御渡、四方間數坪數^{○中}。請取申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年九月晦日

寄合多紀安元内

新嶋儀 八印

菊池丈 菴印

竹本越前守内中村左次郎。小林阿波守内大塚和助。依田豊前守組與力町田重右衛門。

土屋越前守組與力倉澤小源次。

右立合相改預之。棟梁、四人。

圖略○

神田 多紀安元預り地 坪數百六拾五坪。

東 明地。西 明地。
南 多紀安元醫學館拜借地。北 道。

東 西 五間。
南 北 三十三間。

神田佐久間町明地内多紀安元醫學館拜借地前後御預ケ地、只今迄之通御預ケ地仕度段、亡父願置ハ通、悴安元に被成御預、四方間數坪數、右御繪圖之面^{○中}。御預り申ひ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年九月晦日

寄合多紀安元内

新嶋儀 八印

菊池丈 菴印

竹本越前守内中村左次郎。小林阿波守内大塚和助。依田豊前守組與力町田重右衛門。

土屋越前守組與力倉澤小源次。

右立合相改預之。

中村清兵衛。平野善三郎。安川善藏。富山傳次郎。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和三丙戌年

九月七日預。田口清四郎上ヶ地
一、小日向新屋敷四拾坪

小普請組妻木平四郎組

近藤茂十郎 預地。

(朱) 文化四卯年二月廿九日御賄組屋敷に差戻ス。

九月十日預。永島宇太夫上ヶ地
一、駒込千駄木坂下百拾四坪餘

御墨手代

井口八三郎 預地。

殷昌期

三一五

附記

東京市史稿

- 同日預。小櫃儀左衛門上ヶ地
- 一、巢鴨五軒町百八坪
- 九月十六日預。水野吉三郎上ヶ地并預り地共
- 一、麻布六本木百拾六坪
- 九月晦日渡。測量所跡
- 一、神田佐久間町明地千五百拾八坪
- 但、醫學館取立拜借地、亡父預置の二付、悴安元の拜借被仰付の二付渡。
- 同日預。
- 一、同所醫學館前後貳百拾四坪五合

〔附記〕 處罰

朔日 ○明和三年十月○中略。

一、一昨廿九日於評定所御仕置之面々

斬罪。

遠島。

同。

遠島。

三一六

- 小普請組有馬采女支配
- 小佐手彦次郎 預地。
- 寄合醫師 西 玄 預地。柱
- 寄多紀安元
- 右 同 預地。人
- 屋敷書拔

小普請組設樂甚十郎支配

外村

大 吉

同設樂善左衛門支配五左衛門惣領

萩原

久 郎

同川口能登守支配

比企

善 十郎

小普請松平藤九郎支配

川井

三 次郎

西丸表御右筆傳左衛門惣領

守屋

求馬

外村大吉妹、武州兒玉郡仁手村百姓新藏女房

御賄六尺

廿九。

杉山

甚助

御臺所頭支配小間遣

前田

新太郎

小間遣

波川

八 郎

同 斷

平尾

源藏

西丸御賄新組

藤

三十九。助

小普請川口能登守組

稻生

長左衛門

同同人組

横田

熊五郎

右於評定所、大井伊勢守依田豊前守内藤主税立合、伊勢守豊前守申渡之。

七日 ○明和三年十月○中略。

一、今晚評定所ニある左之通御仕置有之。

存命のへて遠島。

殷昌期

元小普請組山口兵庫支配當時神尾若狭守支配

加茂宮

三十一郎

三十一

三十一

遠島。

親類共送相渡、
押込。

中追放。

同斷。

中追放。幼年二付十五歳
迄親類共に預ケ。

同斷。

同斷。

遠島。

中追放。幼年二付
十五歳迄親類共に預ケ。

三一八

同人弟 加茂宮熊吉 三十。

同人母 知鏡院 五十八。

同人伯母 松光院 七十五。

同川口能登守支配善十郎養子
比企榮藏 十六。

三次郎惣領 川井留之丞 廿七。

同人二男 川井豐五郎 四。

三男 川井六三郎 三。

求馬惣領 守屋松之助 七。

久五郎子 萩原源之丞 八。

御目付支配無役 都筑小十郎 十。

御賄六尺基助伴 杉山龜五郎 十二。

二男 同岩 四。

小間遣源藏伴 平尾鐵之助 二。

右に於評定所、大井伊勢守依田豊前守内藤主税立合、伊勢守豊前守申渡之。

——明和録

廿九日○明和三
年九月小普請組外村大吉某斬罪にせらる。これは大吉が父金十郎某世に在りし日、大吉が齡をたがへてきこえあげしを、家つぎてのちもあらためず、幼き時妹家をいで奔りければ、後見してありし小普請比企善十郎某その事聞えあげざりしに、大昔年とりし後、妹ゆくへえられたれども、其まゝにすて置、去年弟の釜之丞出奔せしをも聞上ず、己が居宅には常々博突をなし、あまさへ小普請の權田熊太郎某といふものといさかひし、其後熊太郎に刃傷せられしをそのまゝにふし、また住處もさだかならぬ卑賤のものを集めをき博突させ、また本所堅川の商家につみし、材木薪等ぬすみ、奉行所へよび出し時出奔し、逮捕せられて揚座敷に入をきしをぬけ出、薙髮し僧形にやつし、常陸國の寺院にありしを、こたびたづね出されて、かく罪せられしなり、妹のりえは、一族が家にこめらる。これは大吉が幼なかりし時、家僕と姦通し、家を奔り出妓となり、今は農民の妻となり、こたび大吉亡命せし時かくまひ置しをもとがかうぶる。西城の右筆守屋求馬某、小普請比企善十郎某、小普請萩原五左衛門昌高が子久五郎昌春、同じく川井三次郎某、をのゝ大吉と交り博突せしによりて、ともに遠流に處せらる。これより下罪かうぶるものそこばくあり。

七日○明和三
年十月小普請加茂宮三十郎某、さきに罪ありて獄に死せしが、ながらへあらば遠流に處せらるべきと決せられ、その弟態吉も遠流に處せらる。この兄弟博突し、住かもまれざる者を家にかくまひ

置、妹の出奔せしをも其儘に捨をきしをもてなり。三十郎が母と伯母は、一族の家にこめらる。又さきに咨かうぶりし比企善十郎某が子榮藏、川井三次郎某が子留之丞は、追はなたれ、その第二人、守屋求馬某が養子松之助、荻原久五郎が養子源之丞は、いとけなければ一族の家に預けらる。

——湊明院殿御實紀

十月八日乙巳

○明和三年(紀元二四二六年)○乙巳、三正絲覽。

橋普請小屋場ヲ受授ス。外ニ是月○明和三年(紀元二四二六年)十月。屋

鋪相對替有リ。

○屋鋪渡預繪圖證文。相對替御書附書拔。寛政呈譜。

屋鋪受授 明和三年十月左の屋鋪ヲ受授ス。

圖略○

下谷三味線堀 高橋組合掛替小屋場。

東 道。西 橋。
南 松平下總守。北 道。
東 三間三尺。西 六間。
南北 十六間三尺。

下谷三味線堀高橋組合掛替小屋場被成御渡、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十月八日

松平下總守内 小林阿波守内大塚和助。
右立合相改渡之。棟梁、五人。

——屋鋪渡預繪圖證文

明和三丙戌年十月廿四日

右京大夫殿○松平 柳高。近山六左衛門ヲ以御下ゲ。

御普請奉行ニ。

拜領屋敷 下谷貳丁町貳百拾坪

拜領屋敷 同所隣貳百四拾貳坪

右願之通屋鋪割替被下。御普請奉行可被談。爲成○林。始政短。幼名金五郎。甚助。

一、明和三丙戌年十月廿五日○屋鋪渡預繪圖證文、八月十四日受授トスルコト上ニ記ス。本堂伊豆守與頭加茂宮太郎左衛門○高。前。小普請組神尾

若狹守支配中野定之助○清。茂。三方相對替、賜牛込築戸明神下屋敷。

昌智○酒依。文右衛門。

明和三丙戌年十月廿五日屋敷相對替願之通被仰付、小普請組高力式部支配野村佐左衛門○長。顯。屋敷牛込藁

店坂上貳百三拾坪拜領仕。

良安○八十郎。○大河原。

明和三丙戌年十月廿五日小石川屋敷ト、表六番町加藤次郎右衛門安藤屋敷内切坪相對替仕。

安當○始甚之丞。八郎左衛門。○加藤。

表六番町屋敷九百坪餘内貳百五十坪、小石川鷹匠町大河原八十郎屋敷二百三拾坪を相對替、明和三丙戌

加藤安當

三二一

屋鋪受授 蹟

三味線堀 高橋架替 小屋場

羽田保久 白石八之助

林 爲成

加茂宮尙 甫

中野清茂

酒依昌智

野村長顯

大河原良

安

加藤安當

支配勘定

羽田 藤 右衛門

小普請松平頼母組

白石八之助

相對替御書附書拔

年十月廿五日被命。其後鷹匠町屋敷菓鴨仲町小川伊兵衛二百三拾坪と相對替、願之通安永六丁酉年十月廿五日被命。

—寛政呈譜

附記、一
自警ニ關
スル諮問

〔附記、一〕自警ニ關スル諮問

戊^〇明和
三年十月十五日

喜多村ニある番名主^ニ被^レ申渡

- 一、御上恐悅之節。
- 一、定式御成之節。
- 一、御能之節。
- 一、公家衆御逗留之節。
- 一、御法事之節。
- 一、風烈觸有之節。
- 一、火事繁之節。
- 一、盜賊沙汰之節。

右之度々、自身番又ハ夜廻り等、町々ニある勤方之儀、併ニ御觸等^ニ無之^ハあるも、町々之心得^ニある、自身番或ハ夜廻り等相勤、物騒成節、町々ニある致方之儀、年番申合、不洩様相調、早々可^ニ申聞事。

戊^〇明和
三年十月

右之通被^レ申渡^ハ付、返答書左之通り。

町方自身番夜廻り等勤方之儀、委細御尋^ニ付、左ニ申上^ハ。

一、御上恐悅之節

右之御觸御座^ハ節、猶又名主共申合等仕、前夜より御當日、月行事火之番其外家主共、代り々自身番屋へ相詰、度々相廻り、火之元申付^ハ。

一、御定式御成之節

右ハ別段ニ申合^ニ不^レ仕^ハ。御道筋并御見通し町々^ニ、御前日より前書之通り相勤、其外町々も右ニ准じ相勤申^ハ。

一、遠御成之節

右之別段ニ申合^ニ不^レ仕^ハ。御道筋并ニ御見通し町々^ニ、御前日より前書之通り相勤、其外町々も右ニ准じ相勤申^ハ。

一、御能之節

右之格別之御儀^ニある、御觸御座^ハ節^ニ、猶又申合、前夜より相勤申^ハ。例年春公家衆御饗應御能^ニ別段ニ申合^ニ不^レ仕^ハ。

一、公家衆御逗留中

右ハ御逗留中、晝夜前書之通り相勤申^ハ。當四月^〇明和三年ハ別段ニ被^レ仰渡御座^ハ故、猶又名主共儀も申合、支配町々相回り、火之元申付^ハ。

一、御法事之節

殷 昌 期

右ハ御日限中、晝夜前書之通り相勤申ハ。火事繁節ニ、猶又申合等仕、相勤申ハ。

一、風烈御觸之節

右ハ例年冬春御觸御座ハ砌、風烈ニモ御座ハ得テ、晝夜繁々相廻リ申ハ。濕リ等も御座ハ、靜ナル節ハ相勤不申ハ。

一、火事繁節

右ハ火之元御觸無御座ハ、度々出火等も御座ハ得テ、名主共申合等仕、前書之通り相勤、繁々相廻リ申ハ。尤小町ニ、家主共も無人ニ御座ハ故、店々之もの差加、相勤申ハ。別、出火沙汰繁場所ニ、町家路次之儀も、暮時限りニメ切、路次番付ケ置、又ハ店之者不寐番等爲致ハ儀も御座ハ。勿論名主共儀も申合、相廻リ申ハ。

一、盜賊沙汰繁節

右ニ御觸等無之ハ、盜賊沙汰繁ク、向寄ニ、町々心得ニ、夜番等相勤、度々相廻リ申ハ。右之分不時之儀も御座ハ、御觸等御座ハ得テ、其節申合仕ハ義ニ御座ハ。尤火事沙汰等も繁御座ハ節ハ、名主共儀も申合、支配相廻リ申ハ。冬春定式自身番之儀ハ、享保三戌年十一月十九日坪内能登守様御番所ニ、町々名主共被召出、中山出雲守様大岡越前守様御列座之上、町々火消方之儀致出情ハニ付、自身番中番共御免被仰付、勿論其節御觸も御座ハニ付、以後冬春定式自身番不仕ハ。前書之通り相勤申ハ。
右御尋ニ付申上ハ。

南北年番 主 共

戊〇明和 十月

三年。十一月二日

喜多村ニ、多年番名主被尋ハ越申渡

一、正徳三巳年

今以町方盗人致徘徊ハ由相聞ハ。最前も度々相尋ハ處、頃日怠ハ様ニ相聞間、家持家主又ハ表店ニ居ハ者共、一町切ニ申合、夜更怪敷者見掛ハ敷、戸杯ニ障リハもの有之ハ、互ニ鳴物ニ、相圖致シ、一町切ニ出合、急度召捕、月番之方ニ可訴出ハ。縦無科もの捕ハ、捕獲コナイハ成マシクハ。若右様成族捕ハ節、内證ニ追カシハ、當人ニ及申、其所之家主五人組名主迄、可爲越度ハ。尤三番所より組之者相廻リハ間、其旨を存、油斷仕間敷ハ。且又次第ニ火事時分も成ハ間、彌觸之趣急度相守ハ様ニ、町中可相觸ハ。

巳〇正徳 八月十八日

右之通り正徳年中御觸有之ハ處、當時盗人徘徊致シハ節、取計方如何相心得ハ哉、相調、返答可致旨、喜多村ニ、被申聞ハニ付、年番より左之通り返答書差出ス。

町方盗人致徘徊ハ節、家持家主又ハ表店ニ居ハ者共、夜更怪敷者見掛ハ敷、戸杯ニ障リハもの有之ハ、互ニ鳴物ニ、致合圖、町切ニ出合、召捕ハ様、正徳三巳年八月御觸有之ハ處、當時ニ、盗人致徘徊ハ節、右合圖鳴物等之儀、如何申合仕ハ哉と、御尋ニ付申上ハ。

一、先年右御觸之砌、冬春定式自身番中番相勤ハ儀ニ御座ハ間、右體之怪敷者見掛ハ得テ、拍子木

殷 昌 期

三二五

杯ニ多致全圖、召捕由ニ御座い。向後冬春之外、平日ニも御觸等御座い節い、右ニ准ジ相勤い儀と在存い。然る處享保三戌年自身番中番共御免被御附い得共、當十月三〇明和三年。當時勤方之儀御尋之節申上い通り、其時々ニ應ジ、町々心得二あり、自身番ニ相勤い儀ニ御座い間、盜賊沙汰も御座いらば、向寄々ニ申合、夜番等相勤、度々相廻り、怪敷者見掛い得え、拍子木ニ多致合圖、出合、召捕い心得二あり罷在い。尤平日ニも右之趣ニ准ジ、店々之者も申合置、相心掛用心仕い義ニ御座い。右御尋ニ付申上い。

明和三年戌十一月

南北年番
名 主 共

—正寶事錄

附記二
關東川普請

〔附記二〕 關東川普請

廿六日 〇明和三年十月〇中略。

御右筆部屋縁頰

金三枚。

時服二。

金二枚。

時服二。

金廿兩。

御勘定組頭

栗林平五郎

御勘定

都筑五郎右衛門

支配勘定

水谷祖右衛門

右ニ關東筋川々御普請所見分爲御用被遣いニ付被下い之旨、右同人〇松平武元申渡い之。

廿八日 〇明和三年十月〇中略。

入御之節御通り懸、御墨書院御勝手方

關東筋川々見分

仕廻罷歸い。

同斷。

廿九日 〇明和四年正月〇中略。

波之間

在國府奉書ヲ以達い之。

御勘定吟味役

栗林平五郎

御勘定

都筑五郎左衛門

松平陸奥守〇伊達重村

松平安藝守〇淺野重慶

芙蓉之間

右ニ關東筋川々御普請御手傳被御付旨、老中列座、右京大夫〇松平高申渡い之。

御勘定奉行

小野日向守〇吉田久左衛門〇佳

御勘定吟味役

吉田久左衛門〇佳

御目付

松平縫殿頭〇忠

右同斷御用掛被御付旨、同人申渡い之。

御右筆部屋縁頰

御勘定組頭

栗林平五郎

右同斷之旨、同人申渡い之。

六日 〇明和四年二月〇中略。

同席〇御右筆部屋縁頰。

殷昌期

御勘定組頭
菰田 仁右衛門

御代官
源五郎

御勘定
安食 勝之丞

長谷部 安五郎

渡邊 十太夫

熊谷 柰之助

岡本 源兵衛

小貫 五左衛門

武島 安左衛門

岩堀 傳助

柴田 豊之助

都筑 五郎左衛門

支配勘定
上羽 與平次

岸本 彌三郎

水谷 祖右衛門

御勘定組頭
松平 縫殿頭

右之關東筋川々御普請御用懸り被仰付旨、同人○松平武元申渡之。

朔日○明和四年三月○中略

關東筋川々御普請爲御用罷越し

金五枚。羽折ツ。

御勘定吟味役
吉田 久左衛門

金三枚。羽折ツ。

御右筆部屋縁類

同貳枚。同。

同貳枚。同。

時服貳。ツ。

時服貳。ツ。

御勘定
長谷部 安五郎

御勘定組頭
栗林 平五郎
御代官
源五郎
渡邊 十太夫

熊谷 柰之助

岡本 源兵衛

小貫 五左衛門

武島 安左衛門

岩堀 傳助

柴田 豊之助

都筑 五郎左衛門

水谷 祖右衛門

支配勘定
岸本 彌三郎

金廿兩。

右之關東筋川々御普請爲御用罷越し付被下旨、右近將監○松平武元申渡之。

燒火之間

御徒目付
清水 又八

岩本 幸七郎

福田 儀右衛門

野口 奥右衛門

坂尾 百助

荒川 幸右衛門

西丸同
野中 彦兵衛

右同斷ニ付被下旨、松平攝津守○忠恒申渡之。

九日○明和四年四月○中略

燒火之間

十五日○明和四年六月○中略

御徒目付
猪野口 善十郎

殷昌期

三二八

三二九

右之關東筋川々御普請出來榮見分爲御用罷越し付被下旨、松平攝津守○忠恒申渡之。

三二九

時ふく五十。

川々御普請御手傳仕廻りニ付被下之○中

入御之節御通のけ御黒書院御勝手方

關東筋川々御普請御用仕廻罷歸

御勘定組頭 栗林平五郎

長谷部安五郎

熊谷柰之助

小貫五左衛門

岩堀傳助

都筑五郎左衛門

三三〇
松平陸奥守○伊達重村

御代官 渡邊十太夫

岡本源兵衛

武島安左衛門

柴田豊之助

御白書院縁類

時服五十。

右之關東筋川々御普請御手傳御用仕廻りニ付被下之、老中列座、右近將監申渡之。

芙蓉之間

時ふく四。

金十枚。

同。

右之川々御普請御用懸相勤付被下旨、右同人○松平重元申渡之。

御勘定奉行 小野日向守○吉

御目付 松平縫殿頭○忠

御勘定吟味役 吉田久左衛門○佳

松平安藝守○淺野重茂

名代 松平兵部大輔

廿八日○明和四年六月○中略

一、松平攝津守相達之御書付

關東筋川々御普請被仰付二付、領知之内御普請有之一面々、爲御禮、老中支配之分を、老中二可相越一い。病氣幼少之分を名代、在邑之飛札可差越一い。

右之通可被相達一い。 六月○明和四年

三日○明和四年七月○中略

御右筆部屋縁類

金三枚。

時服貳。

金貳枚。

時服貳。

金貳枚。

時服貳。

同。

同。

同。

同。

同。

殷昌期

御勘定組頭 栗林平五郎

御代官 長谷部安五郎

渡邊十太夫

熊谷柰之助

岡本源兵衛

小貫五左衛門

武島安左衛門

岩堀傳助

柴田豊之助

同。銀廿枚。都筑五郎左衛門
支配勘定
岸本彌三郎
同。水谷祖右衛門

右之關東筋川々御普請御用相勤いニ付被下之、右近將監申渡之。攝津守侍座。

同席

金三枚。

同貳枚。

銀十五枚。

右同斷江戸御用相勤いニ付被下之、右同人申渡之。略。

燒火之間

銀十五枚宛。

御徒目付 又 八

清田儀右衛門

坂尾百助

西丸御徒目付 野中彦兵衛

山岡幸七郎
野口奥右衛門
荒川金左衛門

御勘定組頭 仁右衛門
御勘定 安食勝之丞
支配勘定 上羽與平次

右之關東筋川々御普請御用相勤いニ付被下之、攝津守申渡之。
檜之間

松平陸奥守家來
惣奉行 松前 采女

萱場勘解由

小島文右衛門

吉田隼太

奉行 金上玄蕃

留守居 馬浦小右衛門

普請方 米山休左衛門

目付 姉齒八郎左衛門

普請方添役 熊谷齊

望月三郎兵衛

元 永島運右衛門

武子武助

大石孫右衛門
名村金右衛門
齋藤忠右衛門
金治正兵衛

松平安藝守家來
惣奉行 上田主水

副奉行 淺野伊織

用人 三好内膳

加藤清九郎

吉野忠兵衛

番頭 山主稅

用人添役 植木數馬

留守居 澁江彌右衛門

留守居格添役 吉田儀左衛門

元 目圖見新兵衛

同 佐藤兔毛

銀五十枚。時服五。羽折。
銀五十枚。時服四。羽折。
銀二十枚。時服二。羽折。

銀五十枚。時服六。
銀五十枚。時服四。
銀二十枚。時服三。
銀十枚。時服二。

銀十枚。時服二。

銀十枚。時服二。羽折。
昌期

同 生熊 彌 右衛門

同 青木 保之進

右同斷御手傳御用相勤ひニ付被下之、右近將監申渡之。

— 明和錄

廿九日 ○明和四年正月○中略 けふ松平陸奥守重村・松平安藝守重晟に、關東の國々河渠浚利の助役命ぜらる。重村は在封により、書簡をばせて仰を傳ふ。勘定奉行小野日向守一吉、目付松平縫殿頭忠香、勘定吟味役吉田久左衛門佳國、其事つかさどるべしと命ぜらる。

十五日 ○明和四年六月○中略 こたび關東各國河渠堤防の修理、助役せし松平陸奥守重村に時服五十、松平安藝守重晟に三十賜ふ。目付松平縫殿頭忠香 勘定吟味役吉田久左衛門佳國も、同じく事はて、かへり謁し、金十枚を賜ひ賞せらる。勘定奉行小野日向守一吉も、この事奉はりしとて時服四賜はる。

三日 ○明和四年七月 河功助役つとめし松平陸奥守重村、松平安藝守重晟が家士等に、時服銀賜はるもの若干なり。

— 浚明院殿御實紀

一、同 ○明和四年正月 廿九日關東筋川浚御手傳松平陸奥守、松平安藝守、御勘定奉行小野日向守、同吟味役吉田久左衛門、同與頭栗林平五郎右川々御用懸り。

— 續談海

重村 ○初國村。義八郎。藤次郎。美濃守。陸奥守。侍從。從四位下。左少將。左中將。從四位上。隱居後左兵衛督。

明和四年六月十五日關東川々の普請を助けつとめしにより、時服五十領たまひ、七月三日家臣等にも物をたまふ。

重晟 ○善次郎。上總介。安藝守。從四位下。侍從。左少將。

四年 ○明和四年 六月十五日さきに關東川々の普請をつとめしにより、時服三十領をたまひ、七月三日 ○明和四年 家

伊達重村筆蹟

大阪 森 繁 夫藏

寄松祝、いく千と勢々夢てを契、枕陰高き松う習とむ
言の葉まゝちと有り。



同 生熊 彌 右衛門

同 青木 保之進

——明和録

右同斷御手傳御用相勤いニ付被下之、右近將監申渡之。

廿九日

○明和四年正月○中略

けふ松平陸奥守重村・松平安藝守重晟に、關東の國々河渠浚利の助役命ぜらる。重村は在封により、書簡をはせて仰を傳ふ。勘定奉行小野日向守一吉、目付松平縫殿頭忠香、勘定吟味

役吉田久左衛門佳國、其事つかさどるべしと命ぜらる。

十五日

○明和四年六月○中略

こたび關東各國河渠堤防の修理、助役せし松平陸奥守重村に時服五十、松平安藝守重晟に三十賜ふ。目付松平縫殿頭忠香、勘定吟味役吉田久左衛門佳國も、同じく事はて、かへり調し、

金十枚を賜ひ賞せらる。勘定奉行小野日向守一吉も、この事奉はりしとて時服四賜はる。

三日

○明和四年七月

河功助役つとめし松平陸奥守重村、松平安藝守重晟が家士等に、時服銀賜はるもの若干なり。

——浚明院殿御實紀

一、同

○明和四年正月

廿九日關東筋川浚御手傳松平陸奥守、松平安藝守、御勘定奉行小野日向守、同吟味役吉田久左衛門、同與頭栗林平五郎右川々御用懸り。

重村

○伊達初國村。義八郎。藤次郎。美濃守。陸奥守。侍從。從四位下。左少將。左中將。從四位上。隱曆後左兵衛督。

——續談海

明和四年六月十五日關東川々の普請を助けつとめしにより、時服五十領たまひ、七月三日家臣等にも物をたまふ。

重晟 ○善次郎。上總介。安藝守。從四位下。侍從。左少將。

○淺野。

四年 ○明和四年六月十五日 さきに關東川々の普請をつとめしにより、時服三十領をたまひ、七月三日 ○明和四年 家

伊達重村筆蹟

大阪 森 繁 夫藏

寄松祝、いく千と勢々夢てを契礼陰高き松ヲ習とむ
言の葉まもちト有リ。



東京市史

右同前御平儀御用相續下之、右近衛守重村



言の葉まじり許り。御勘定奉行小野日向守一吉も、この事奉はりして時服四賜はる。三日、河功助役つとめし松平陸奥守重村、松平安藝守重蔵が家主等に、時服銀賜はるもの若干なり。

——漫明院殿御實紀

一、同、廿九日關東筋川浚御手傳松平陸奥守、松平安藝守、御勘定奉行小野日向守、同吟味役吉田久左衛門、同頭栗林平五郎右川々御用懸り。

——續談海

明和四年六月十五日關東川々の普請を助けつとめしにより、時服五十領たまひ、七月三日家臣等にも物をたまふ。

重蔵 上総介。安藝守。從四位上。時從。左衛門。四年、六月十五日さきに關東川々の普請をつとめしにより、時服三十領たまひ、七月三日家臣等にも物をたまふ。

松平重蔵
御勘定奉行小野日向守一吉
河功助役つとめし松平陸奥守重村
松平安藝守重蔵が家主等に
時服銀賜はるもの若干なり





臣等にもたまものあり。

忠香 吉之丞。経殿頭。大膳亮。経殿頭。従五位下。

四年 和。關東の川々の堤防を修築せられしを監臨し、事はてゝかへりしかば、六月十五日 明和四年 その

賞を行はれて、黄金三枚を賜はる。

佳國 久左衛門。吉田。

四年 明和。六月十五日、先に關東の川々普請の事をつとめしにより、黄金十枚を賜ふ。

——寛政重修諸家譜

〔参考〕 浚明院殿御實紀ニ、

五日 明和四年九月。この日代官川田玄蕃貞英職をとどめられ小普請となり、門とぞして家にこもる。これ

は年々の賊罪つぐなはんたづきなく、かつことしの春關東の國々河渠堤防の修理ありし時、査檢とゞ

かざる書を出したりとの罪なり。かの賊財は、同僚鶴飼左十郎實道、宮村孫左衛門高豊、蔭山外記廣

道等が請ひ申により、かれらをしてあがなはしむとなり。貞英屬吏三人その罪により追拂はる。

十一月二日戊辰 明和三年(紀元二四二六年)○戊辰三正統覽。屋鋪渡有リ。外ニ屋鋪若干ヲ是月 明和三年(紀元二四二六年)十一月

受授ス。 ○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書抜。寛政呈請。

屋鋪受授 明和三年十一月受授スル所ノ屋鋪、左ニ記ス。

圖略。

下谷貳丁町 羽田藤右衛門 久保。屋鋪 坪數貳百拾坪。

殷 昌 期

屋鋪受授

屋鋪受授事

羽田保久

東 赤林忠右衛門。石丸定之丞。
南 白石八之助。北 道。

下谷貳丁目拙者屋鋪并隣白石八之助屋鋪兩人屋鋪形子惡鋪御座ハニ付、今度相對任り、屋鋪御割替奉願ハ處、双方願之通屋鋪御割替、被成御渡之、四方間數坪數ハ請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十一月二日

支配勘定 羽田 藤右衛門印

小林阿波守内服部政右衛門。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改渡之。棟梁、六人。

圖略。

下谷貳丁目 白石八之助屋鋪 坪數百四拾貳坪。

東 丸橋茂八郎。石丸定之進。
南 道。北 西 羽田藤右衛門。
東 十二間五尺。北 西 十貳間四尺。
南 十壹間壹尺五寸。北 十壹間餘。

下谷二長町拙者屋鋪并隣羽田藤右衛門兩人屋鋪形子惡敷御座ハニ付、今度相對替任、屋鋪御割替奉願ハ處、双方願之通、屋鋪御割替被成御渡之、四方間數坪數ハ請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十一月二日

小林阿波守内服部政右衛門。竹本越前守内中村左次郎。
右立合相改渡之。棟梁、六人。

圖略。

小日向大橋掛替小屋場

小日向 大橋組合掛替小屋場。

東 道。北 道。
南 道。北 道。
東 二間三尺。西 二間四尺。
南 北 貳拾八間。

小日向江戶川大橋組合掛替ニ付、小屋場地而被成御渡、四方間數、右御繪圖之面ハ請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十一月十三日

久世出雲守内 中川甚五左衛門清印
淺川 權 八清印
大久保吉之丞内 太田原清 六印

小林阿波守内服部政右衛門。竹本越前守内谷安之允。
右立合相改渡之。棟梁、五人。

圖略。

南本所六軒堀 稻生長左衛門上ヶ地 坪數貳百三十三坪餘。

東 小倉市藏。道。
南 道。安田龜三郎。北 西 道。
東 十三間三尺。北 西 十四間。
南 十七間。北 十七間。

南本所六軒堀稻生長左衛門上ヶ地、小倉市藏ハ御預被成ハ請取申ハ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十一月廿六日

小林阿波守内服部政右衛門。竹本越前守内中村左次郎。

殷 昌 期

右立合相改預之。

棟梁、六人。

圖略○

本所南割下水三ツ目通 川井三次郎上ケ地 坪數四百坪。

東道。西。篠原鐵藏。
南道。北。富田頼母。
東西。十四間壹尺七寸。
南北。貳拾八間。

本所南割下水三ツ目通川井三次郎上ケ地、篠原鐵藏^{○勝}居。被成御預^{○中}。御預り申[○]。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十一月廿七日

小林阿波守内大塚和助。竹本越前守内谷安之允。
右立合相改預之。棟梁、五人。

——屋鋪渡預繪圖證文

小普請組松平頼母組
白石八之助

但、屋敷形惡敷[○]ニ付、隣羽田藤右衛門と相對致割替之儀奉願、双方願之通被仰付[○]ニ付替渡。

同日渡。支配勘定
羽田 藤右衛門

——屋敷書拔

田沼意誠 ^{能登守。專助。主水。市左衛門。}
^{○田沼}

明和三戌年十一月七日居屋敷御添地被下[○]間、場所見立可相願旨、十一月十三日於本所六間堀、願之

久世廣寬

通御添地被下[○]置、明和五年四月居屋敷隣家東條權太夫屋敷と右御添地相對替願之通被仰付[○]。

同[○]明和。三丙戌年十一月廿四日筋違御門内居屋敷御用ニ付被召上、裏二番町津田日向守屋敷被下[○]置[○]。

——寛政呈譜

〔附記〕 商工受領

十八日 ^{○明和三年十}
^{一月○中略}

一、左之御書付、松平右京大夫^{○高}被相達[○]。

諸職人受領蒙勅許[○]者共、繼目之受領不相願、父或祖父蒙勅許[○]受領を、其子孫名乗[○]者共、有之趣ニ相聞[○]。若右體之者共有[○]之[○]、向後國名并官名共に、自分と相名乗[○]義[○]、可爲無用[○]。尤繼目之受領相願[○]義[○]、勝手次第[○]たる[○]へき事。

右之通御料之御代官、私領之領主地頭[○]可相觸[○]者也。

十一月 ^{○明和}
^{三年}

——明和錄

十二月三日己亥

^{○明和三年(紀元二四二}
^{六年)○己亥三正綜覽}

屋鋪受授行ハル。此外若干屋鋪是月 ^{○明和三年(紀}
^{元二四二六年)}

十二 受授セラル。

^{○屋鋪渡預繪圖證文。屋鋪受授。明和}
^{錄。相對替御書附書拔。寛政呈譜。}

屋鋪受授 屋鋪受授ノ明和三年十二月ヲ以テ爲サレタル者ヲ列記ス。

圖略○

殷 昌 期

附記 商工受領

屋鋪受授

屋鋪受授事

津田信之

筋違橋之内 津田日向守^〇屋鋪 坪數千四百四拾六坪。

東 小宮山武平次、松本良菴。 西 山田立長、蟻川將監。
南 道。 北 道。

東 四十間貳尺。 西 三拾八間四尺五寸。
南 三十六間三尺六寸。 北 三拾六間三尺五寸。

裏貳番町津田日向守屋鋪家作共差上ケ、筋違橋之内久世長門守殿屋鋪家作共拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申^レ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月三日

新番頭津田日向守内
立木 九郎 兵衛 印

竹本越前守渡之。

中村左次郎。谷安之丞。大塚和助。 棟梁、八人。

筋違橋内久世長門守上ケ屋鋪建家立具疊植木石目錄

- 一、門 扉 但、潜り共。 五 枚。
- 一、戸 但、半戸共。 三百三拾六本。
- 一、障 子 但、半障子共。 貳 百本。
- 一、襖 但、小襖共。 百十六本。
- 一、疊 但、半疊共。 六百五拾四疊。
- 一、階 子 拾 七 挺。
- 一、植 木 大小。 品々。

- 一、庭 石 大小。 品々。
- 一、石手水鉢 貳 ツ。

右之通り立合相改、相違無御座請取申^レ。以上。

戊^〇明和三年。十二月三日

津田日向守内
立木 九郎 兵衛 印

圖^〇 文化元年八月八日佐藤久右衛門拜領屋鋪ニ相渡ス。

本所吉岡町 佐久間善次郎上ケ地 坪數百拾坪。

東 道。 西 渡邊與惣七。
南 宮本文藏。 北 川島茂兵衛。

東 八間三尺九寸。
南 十間四尺五寸。

本所吉岡町佐久間善次郎上ケ地、美濃部勘次郎^〇正。被成御預ケ、四方間數坪數^〇中。御預り申^レ。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月七日

小普請組有馬采女支配美濃部勘次郎内
磯野 要左衛門 清印

竹本越前守内谷安之允。 棟梁、五人。
右立合相改預之。

圖^〇

本所横堀 片桐石見守上ケ地 坪數千坪。

東 田畑。 西 道(横堀)。
南 最上齋宮。 北 長井勝左衛門。

東 貳十間五尺。
南 四十八間。

殷 昌 期

美濃部正茂

本所横堀片桐石見守殿中屋鋪上ケ地、加藤遠江守○泰武に被成御預ケ○中略御預り申○中略。爲後日仍如件。
明和三丙戌年十二月七日

加藤遠江守内 松木分兵衛清印

竹本越前守内中村左次郎、谷安之允。

右立合相改預之。棟梁、八人。

明和五年五月十六日大御番頭石川阿波守に相渡ス。

覺

一、今日片桐石見守様御上ケ地境目之儀ニ付、名主治郎助右場所に御立合可申處、伊奈備前守様御役所御用ニ付罷出の間、右代之者左之通り御座○中略。尤私共立會ニ相違無御座○中略。以上。

戊○明和三年十二月七日

龜戸村名主代 喜左衛門清印
同 年寄 右衛門清印

御普請御奉行所御役人衆中

圖○略

久世廣寬

裏二番町 久世長門守○廣寬屋鋪 坪數九百七拾八坪餘。建家長屋土藏共四百四十三坪餘。

東 道○羽太内記 北西 道。大島雲平、鈴木市兵衛。

南 東 三十間貳尺。 北西 貳十九間貳尺。
三十壹間五尺五寸。 北西 三十三間四尺。

筋違橋之内久世長門守屋鋪就御用家作共差上ケ、爲代地裏貳番町津田日向守殿屋鋪家作共拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以

相改、相違無御座請取申○中略。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月八日

竹本越前守渡之。

寄合久世長門守内 平澤爲右衛門清印

裏二番町津田日向守上ケ屋鋪建家立具疊植木石目錄

- 一、門扉 但、潜り共。 五 枚。
- 一、戸 但、半戸共。 貳百三十七本。
- 一、障子 但、半障子共。 百四十五本。
- 一、襖 但、小襖共。 百四十四本。
- 一、疊 但、半疊共。 四百八十四疊。
- 一、階子 四 挺。
- 一、植木 大小。 品々。
- 一、庭石 大小。 品々。
- 一、石手水鉢 壹 ツ。

右之通り立合相改、相違無御座請取申○中略。以上。

戊○明和三年十二月八日

久世長門守内 平澤爲右衛門清印

圖○略

田沼意誠

南本所 田沼能登守○意誠添地 坪數貳百三十三坪餘。

般 昌 期

東 小倉市藏。
南 道、安田龜三郎、田邊九兵衛。
西北 十三間三尺。西 十四間。
南 北 十七間。

南本所六間堀稻生長左衛門上ヶ地、今度願之通田沼能登守添地拜領仕、被成御渡、四方間數坪數^{略中}請取申^中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月十五日

民部卿殿家老田沼能登守内
鷲頭 藤右衛門印

竹本越前守渡之。

中村左次郎。谷安之允。棟梁、六人。

圖略○

本所法恩寺前近所 朝岡清兵衛拜借上ヶ地 坪數貳百坪。

東 道。
南 由良播磨守。北 西 由良播磨守。
西北 貳十壹間三尺五寸。
南 北 九間壹尺六寸。

本所法恩寺前近所淺岡清兵衛殿拜借上ヶ地、由良播磨守^{○貞}御預ヶ被成^{略中}。御預り申^中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月十五日

由良播磨守内
上 伊 兵 衛 清印

竹本越前守内谷安之允。棟梁、六人。

圖略○

下谷貳丁目 小山茂左衛門拜借上ヶ地 坪數貳百八坪。

東 石丸定之進。北 西 谷十次郎。鈴木内藏助。
南 道。三十貳間。南 北 六間三尺五寸。

下谷貳丁目小山茂左衛門拜借上ヶ地、鈴木内藏助^{○英}御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申^中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月十七日

小普請組市橋大膳支配鈴木内藏助内
松崎 林 八 清印

竹本越前守内中村左次郎。

中村清兵衛。中村半治。平野善三郎。富山傳次郎。

圖略○

深川島田町 本堂伊豆守^{○親}下屋鋪 坪數千三百貳拾坪餘。

東 島田町。西 同上。
南 道。北 道、立花佐兵衛、道。
東 西 三十六間。
南 北 三十六間四尺八寸。

深川島田町天方喜兵衛殿酒依半五郎殿兩人上ヶ地并前後之道共、今度願之通本堂伊豆守下屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面^{略中}。請取申^中。爲後日仍如件。

明和三丙戌年十二月十八日

大御番本堂伊豆守内
横手 多 治 見 印

竹本越前守渡之。

中村左治郎。谷安之允。棟梁、七人。

圖略○

殷 昌 期